

官報

號外

大正十五年一月二十六日

火曜日

内閣印刷局

○第五十一回衆議院議事速記録第六號

大正十五年一月二十五日(月曜日)午後一時
二十二分開議

議事日程 第五號

大正十五年一月二十五日
午後一時開議

- 第一 所得稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第二 大正九年法律第十二號中改正法律案(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會
- 第三 地租條例中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第四 明治三十七年法律第十二號中改正法律案(地租徵收ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會
- 第五 營業稅法廢止法律案(政府提出)
第一讀會
- 第六 營業收益稅法案(政府提出)
第一讀會
- 第七 資本利子稅法案(政府提出)
第一讀會
- 第八 相續稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第九 通行稅法廢止法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十 酒造稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十一 酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十二 麥酒稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十三 醬油稅則廢止法律案(政府提出)
第一讀會

- 第十四 自家用醬油稅法廢止法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十五 織物消費稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十六 賣藥稅法廢止法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十七 骨牌稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第十八 清涼飲料稅法案(政府提出)
第一讀會
- 第十九 大正九年法律第五十一號中改正法律案(朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會
- 第二十 地方稅ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會
- 第二十一 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(地方稅制限ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會
- 第二十二 右各案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十三 關稅定率法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第二十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十五 日本興業銀行外二銀行ノ對支借款關係債務ノ整理ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會
- 第二十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 第二十七 簡易生命保險法中改正法律案(政府提出)
第一讀會
- 第二十八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

- 第二十九 大正十四年勅令第二百四十五號(承諾ヲ求ムル件)(牛ノ傳染性肋膜炎ノ防遏ニ關スル件)第一讀會
- 第三十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
- 一 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑(前會ノ續)
- 議長(粕谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス
〔書記官朗讀〕
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
漁業法中改正法律案
提出者 谷原 公君 中村 嘉壽君
原田佐之治君
提出者 谷原 公君 藏園三四郎君
一戶荒屋間鐵道速成ニ關スル建議案
提出者 柏田 忠一君
航空並國防ニ關スル建議案
提出者 長岡 外史君
徵兵制度ノ改革並現役下士兵卒待遇改良ニ關スル建議案
提出者 三善 清之君 內野辰次郎君
〔以上一月二十三日提出〕
〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕
一去二十三日衆議院規則第十五條但書ニ依リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ
二二八 工藤 鐵男君
三一四 山道 襄一君
三八一 堤 康次郎君
四〇七 村松龜一郎君
一去二十三日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如シ

- 第二部選出
豫算委員 加藤綱一君(中野正剛君補關)
- 第六部選出
決算委員 近藤重三郎君(加藤綱一君補關)
- 議長(粕谷義三君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致スコトガアリマス、第五部選出豫算委員吉植庄一郎君、第六部選出決算委員牧野良三君、右兩君ヨリ常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕
○議長(粕谷義三君) 異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補關選舉ヲ行ヒ届出アランコトヲ望ミマス
○岩崎勳君 議事日程ノ變更ニ關スル緊急動議ヲ提出致シマス、即チ茲ニ政府ノ同意ヲ得テ、日程第二十一條、地方稅關係ノ法律案ノ次ニ、山本悌二郎君外十三名提出、市町村稅地租法案、及山本悌二郎君外十三名提出、市町村稅地租法ノ施行ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ追加シ上程セラレンコトヲ希望致シマス
〔贊成〕贊成「ト呼フ者アリ」
○議長(粕谷義三君) 岩崎君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、之ニ對シテ政府ハ同意セラレマシタ
○松田源治君 議事ニ付テ追加ノ緊急動議ヲ提出致シマス、今岩崎君ノ提出セラレタル議案ノ次ニ、床次竹二郎君外二十三名提出、地租條例中改正法律案、床次竹二郎君外二十三名提出、所得稅法中改正法律案、床次竹二郎君外二十三名提出、大正九年法律第十二號中改正法律案、床次竹二郎君外二十

三名提出、明治四十二年法律第七號廢止法律案、及床次竹二郎君外二十三名提出、市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案、此案ヲ追加しテ第一讀會ヲ開カレンコトヲ希望シマス

○議長(粕谷義三君) 松田君ノ日程變更ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト呼フ者アリ
○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ政府ノ同意ヲ求メマス——政府ハ同意セラレマシタ、仍テ動議ノ如ク日程ハ變更セラレマシタ、即チ本日ノ日程ニ七件ヲ追加スルコトニ相成リマシタ、日程第一乃至第二十一、及只今日程變更ニ依テ追加セラレマシタル七件ハ、同旨又ハ關聯セル議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

○議長(粕谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り取計ヒマス、即チ日程第一、所得稅法中改正法律案外二十七件ヲ一括シテ議題ト爲シ、其第一讀會ヲ開キマス、政府並ニ各提出者ノ趣旨聲明ヲ順次許シマス

第一 所得稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

所得稅法中改正法律案

第一條ノ二ヲ削ル

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス

第一種 法人ノ普通所得

乙 法人ノ超過所得

丙 法人ノ清算所得

第二種 甲 本法施行地ニ於テ支拂ヲ受ケタル公債、社債若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙 第一條ノ規定ニ該當セサル者ノ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受ケタル利益

若ハ利息ノ配當、剩餘金ノ分配又ハ利益若ハ剩餘金ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與

第三種 第二種ニ屬セサル個人ノ所得

第三條ノ三 本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ信託會社ノ引受ケタル金錢信託ニシテ信託財產ノ運用方法ヲ預入又ハ貸付ノミニ限定シタルモノヲ謂フ

第四條中「法人ノ所得」ヲ「法人ノ普通所得」ニ改ム

第五條中「法人ノ各事業年度ノ所得」ヲ「法人ノ普通所得」ニ、「同十度」ヲ「當該事業年度」ニ改ム

第八條中「所得」ヲ「普通所得」ニ改ム

第九條 削除

第十條 削除

第十一條中「拂込株式金額、出資金額、積立金及最後ノ事業年度ニ於ケル留保所得ノ合計金額」ヲ「拂込株式金額又ハ出資金額」ニ改ム

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

一 營業ニ非サル貸金ノ利子並第二種ノ所得ニ屬セサル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ收入金額

二 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

三 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額

四 法人ヨリ受ケタル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ收入金額(無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額

五 俸給、給料、歳費、年金、恩給、退職料及此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ收入金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ支給ヲ受ケタルニ非サルモノニ付テハ其ノ年豫算年額前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收

入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額但シ前年一月一日ヨリ引續キ有シタルニ非サル資産、營業又ハ職業ノ所得ニ付テハ其ノ年豫算年額株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受ケタル金額又ハ退社ニ因リ持分ノ拂戻シテ受ケタル金額カ其ノ株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ法人ヨリ受ケタル利益ノ配當ト看做ス

第一項第一號、第二號及第四號ノ所得ニ付テハ被相續人ノ所得ハ之ヲ相續人ノ所得ト看做シ第六號ノ所得ニ付テハ相續シタル資産又ハ營業ハ相續人カ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シテ其ノ所得ヲ計算ス

第十五條 前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬二千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得(前條第一項第三號及第五號ノ所得)ニ付左ノ金額ヲ控除ス

一 所得總額六千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ二

二 所得總額中勤勞所得以外ノ所得六千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一

三 所得總額六千圓ヲ超エ勤勞所得以外ノ所得六千圓未滿ナルトキハ勤勞所得中勤勞所得以外ノ所得ト合算シテ六千圓ニ達スル迄ノ金額ノ十分ノ二、其ノ他ノ金額ノ十分ノ一

戶主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同シ

第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

前二條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額三千圓以下ナルトキハ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ戶主及家族中年齡十八歲未滿者ハ六十歲以上ノ者又ハ不具癱疾者一人ニ付百圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依リ納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條第三項ヲ左ノ如ク改ム

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

第十七條中「郡」ヲ削ル

第十八條第七號ヲ削ル

第二十條中「八百圓」ヲ「一千二百圓」ニ、「第十五條及第十六條」ヲ「第十五條、第十六條及第十六條ノ三」ニ改ム

第二十一條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 普通所得

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人 百分ノ五

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人 百分ノ十

乙 超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ四

同百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十

同百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ二十

丙 清算所得

清算所得金額ヲ左ノ如ク區分シ各稅率ヲ適用ス

積立金又ハ本法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレサル所得ヨリ成ル金額 百分ノ五

其ノ他ノ金額 百分ノ十

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セス

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十一條ノ二 同族會社カ各事業年度

ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ換算シタル金額ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十五、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘シタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方)ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコトヲ得

一 事業年度ノ普通所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル普通所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

二 事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ普通所得中留保シタル金額ノ合計カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金カ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族 使用人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第二十二條ニ左ノ二項ヲ加フ

信託會社カ其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ其ノ貸付信託ノ

利益ニ之ヲ加算ス

「八百圓以下ノ金額 百分ノ〇・五
八百圓ヲ超ユル金額 百分ノ一
千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二」

「千二百圓以下ノ金額 百分ノ〇・八
千二百圓ヲ超ユル金額 百分ノ一・二
改メ第一項但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ山林ノ所得ハ山林以外ノ所得ト之ヲ區分シ其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ此ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ其ノ稅額トス

第二十五條中「四月中」ヲ「三月十五日迄」ニ、第十六條中「第十六條又ハ第十六條ノ三」ニ改ム

第三十一條中「前年第三種ノ所得稅ヲ納メ其ノ年第二十五條ノ申告ヲ爲シタル者」ヲ「第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付其ノ年法定ノ期限迄ニ所得金額又ハ純益金額ノ申告ヲ爲シ且其ノ決定ヲ受ケタル者」ニ、第七十六條中「第七十六條又ハ營業收益稅法第二十八條乃至第三十條」ニ、「前項」ヲ「前二項」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉ヲ行フ場合ニ於テハ前年第三種ノ所得又ハ個人ノ營業ニ付所得稅又ハ營業收益稅ヲ納メタルコトヲ以テ其ノ年所得金額又ハ純益金額ノ決定ヲ受ケタルモノト看做ス

第四十一條 調査委員及補員ノ任期ハ

選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス
選舉區域ノ變更ニ因リ其ノ區域内ニ於ケル第三種ノ所得ニ付其ノ年所得金額ノ決定ヲ受ケタル者及個人ノ營業ニ付其ノ年純益金額ノ決定ヲ受ケタル者ノ合計數ニ五分ノ一以上ノ増減ヲ來シタル場合ニ於テハ調査委員及補員ノ任期ハ選舉區域ノ變更アリタル月ヲ以テ終了スルモノトス但シ其ノ選舉區域ノ變更ノ月カ一月又ハ二月ナルトキハ三

月、四月乃至八月ナルトキハ九月 十二月ナルトキハ翌年三月ヲ以テ終了スルモノトス

第三十一條第二項ノ規定ハ其ノ年分ノ所得金額及純益金額ノ決定前選舉區域ノ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス
第四十五條中「第三種ノ所得ニ付」ヲ「第三種ノ所得ニ對スル所得稅若ハ營業收益稅ノ何レニ付テモ」ニ改ム
第五十一條中「八月三十日」ヲ「五月三十一日」ニ改ム

第五十九條第一項ヲ左ノ如ク改ム
第二十六條、第五十一條若ハ第五十二條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第六十條中「所得金額」ヲ「所得金額又ハ加算稅額」ニ改ム
第六十四條中「收入豫算年額四分ノ一」ヲ「第十四條第一項第五號及第六號ノ所得額二分ノ一」ニ、「贈與ヲ爲シタル爲」ヲ「相續、贈與又ハ營業繼續ニ因リ」ニ改ム
第六十五條中「收入豫算年額ニ對シ四分ノ一」ヲ「二分ノ一」ニ改ム
第六十七條中「九月一日ヨリ三十日限」ヲ「七月一日ヨリ三十一日限」ニ、「十一月一日ヨリ三十日限」ヲ「十月一日ヨリ三十一日限」ニ改ム

第七十三條ノ二 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得稅通脫ノ目的アリト認メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラス政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

第七十三條ノ三及第七十三條ノ四ヲ削ル
附則
本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三種ノ所得ニ付テハ大正十五年分所得

稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十五條、第五十一條及第六十七條ノ改正規定ハ大正十六年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス
第十四條第一項第三號又ハ第四號ノ所得ニシテ大正十四年三月中ノ收入ニ屬スルモノハ之ヲ大正十五年分第三種所得トシテ計算セ

第十六條第一項ノ改正規定中三月一日トアルハ大正十五年ニ限リ四月一日トス
本法施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
所得調査委員及所得審查委員ニ關シテハ大正十五年九月三十日迄ハ仍從前ノ例ニ依ル
從前ノ規定ニ依ル所得調査委員及補員ノ任期ハ大正十五年九月三十日ヲ以テ終了ス

第三十一條、第四十一條及第四十五條ノ改正規定中營業收益稅ニ關スルモノハ大正十五年分ニ付テハ之ヲ營業稅ニ關スルモノトス
第二 大正九年法律第十二號中改正法律案(所得稅法ノ施行ニ關スル件)
(政府提出)
大正九年法律第十二號中改正法律案
大正九年法律第十二號中左ノ通改正ス
第二條中「所得稅法第三條第一種甲及戊」ヲ「所得稅法第三條第一種甲及乙」ニ改ム
第三條中「所得稅法第九條第三項及第十二條」ヲ「所得稅法第十二條」ニ改ム
附則
本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三 地租條例中改正法律案(政府提出)
地租條例中改正法律案 第一讀會
地租條例中左ノ通改正ス
第一條中「田畑 地價百分ノ四箇五」ヲ「田畑 地價百分ノ三箇五」ニ、「田畑 地

價百分ノ三箇ニテ田畑 地價百分ノ二箇五ニ改ム

第四條中「郡」及第三項ヲ削ル

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ納ムヘキ者(法人ヲ除ク)ノ同一市町村內ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未満ナルトキハ其ノ田畑ノ地租ヲ徵收セス但シ其ノ住所以外ノ市町村ニ於ケル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

第四 明治三十七年法律第十二號中改正法律案(地租徵收ニ關スル件)(政府提出)

明治三十七年法律第十二號中改正法律案

明治三十七年法律第十二號中左ノ通改正ス

第三條ノ二 市町村ハ前條ノ報告ト同時ニ地租條例第十三條ノ二ノ規程ニ依リ地租ヲ徵收セサル田畑ノ地價ヲ所轄收稅官廳ニ報告スヘシ

附則

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

第五 營業稅法廢止法律案(政府提出)

第一讀會

營業稅法廢止法律案

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年分以前ノ營業稅ニ關シテハ仍舊法ニ依ル但シ大正十六年一月一日以後ニ於テハ營業稅調查委員會又ハ營業稅審查委員會ノ事務ハ所得稅法ノ所得稅調查委員會又ハ所得稅委員會之ヲ行フ

第六 營業收益稅法案(政府提出)

第一讀會

營業收益稅法案

營業收益稅法

第一條 本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

第二條 本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲クル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業收益稅ヲ課ス

一 物品販賣業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ販賣ヲ含ム)

二 銀行業

三 無盡業

四 金錢貸付業

五 物品貸付業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セサルモノノ貸付ヲ含ム)

六 製造業(瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム)

七 運送業(運送取扱ヲ含ム)

八 倉庫業

九 請負業

十 印刷業

十一 出版業

十二 寫眞業

十三 席貸業

十四 旅人宿業(下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マズ)

十五 料理店業

十六 周旋業

十七 代理業

十八 仲立業

十九 問屋業

第三條 營業收益稅ハ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

第四條 法人ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人カ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業收益稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第六條 個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非サル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人カ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

資本利子稅ヲ課セラルヘキ資本利子ハ之ヲ純益ニ算入セス

第七條 左ニ掲クル營業ノ純益ニハ營業收益稅ヲ課セス

一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌

二 度量衡ノ製作、修復又ハ販賣

三 自己ノ採掘シ又ハ採取シタル礦物ノ販賣

四 新聞紙法ニ依ル出版

五 本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業

六 法人ノ漁業又ハ演劇興業

七 個人ノ自己ノ收穫シタル農產物、林產物、畜產物若ハ水產物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造

但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第八條 勅令ヲ以テ指定スル重要物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生スル純益ニ付營業收益稅ヲ免除ス

第九條 個人ノ純益金四百圓ニ滿タサルトキハ營業收益稅ヲ課セス

第十條 營業收益稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

法人 百分ノ三・六

個人 百分ノ二・八

法人カ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額又ハ資本利子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人カ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業收益稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スヘキ地租又

ハ資本利子稅ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セス

第十一條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十二條 納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第十三條 法人ノ純益金額ハ第十一條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得稅法ノ所得稅委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅委員會開會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得稅委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

所得稅委員會開會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ純益金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

第十四條 稅務署長ハ毎年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得稅委員會ニ送付スヘシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十五條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第十六條 第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十七條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ稅

金ノ徴収ヲ猶豫セス
第十八條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審查委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十九條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者純益金額ノ二分ノ一以上減損アルトキハ政府ニ純益金額ノ更訂ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ翌年一月三十一日ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

純益金額決定後營業繼續ニ因リ純益金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セス
第二十條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ純益金額ヲ查數シ二分ノ一以上ノ減損アルトキハ之ヲ更訂ス

第二十一條 納稅義務者第十八條ノ決定又ハ前條ノ更訂處分ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得
第二十二條 法人ノ營業收益稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徴收ス

個人ノ營業收益稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徴收ス
第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限
第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限

第二十三條 第十九條第一項ノ請求アリタルトキハ政府ハ更訂處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徴収ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十四條 個人ノ營業收益稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ主たる營業場所ノ所在地ヲ以テ納稅地トス但シ第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル者ニ在リテハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ營業收益稅ノ納稅地トス

第二十五條 收稅官吏ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査シ又ハ營業者ニ質問スルコトヲ得

第二十六條 政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業收益稅ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調査ヲ提出スヘシ
第二十七條 所得稅法第七十三條ノ二ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ検査ヲ妨ケ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ提示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十九條 詐偽其ノ不正ノ行爲ニ因リ營業收益稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業收益稅ヲ通脫シタル者ノ純益金額ハ第十三條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス
第三十條 營業收益稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

附則
本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
法人ノ大正十六年一月一日以後ニ終了スル事業年度ノ期間カ大正十五年ニ跨ルモノニ付テハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ日割計算ノ方法ニ依リテ算出シタル大正十五年ニ屬スル期間ノ純益ヲ控除ス

第七 資本金子稅法案(政府提出)
第一讀會

資本金子稅法案
第一條 本法施行地ニ於テ資本金子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ資本金子稅ヲ課ス

第二條 資本金子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本金子ニ付之ヲ賦課ス
甲種 公債、社債、產業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益
乙種 第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非サル貸金又ハ預金ノ利子

本法ニ於テ貸付信託ト稱スルハ所得稅法第三條ノ三ニ規定スル貸付信託ヲ謂フ
第三條 甲種ノ資本金子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル
第四條 乙種ノ資本金子ハ前年中ノ收入被相續人ノ收入金額ハ之ヲ相續人ノ收入金額ト看做ス

第五條 甲種ノ資本金子ニシテ左ニ掲クルモノニハ資本金子稅ヲ課セス
一 所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子
二 貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子

第六條 資本金子稅ノ稅率ハ資本金子金額百分ノ二トス
第七條 信託會社其ノ引受ケタル貸付信託ノ信託財產ニ付納付シタル資本金子稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該貸付信託ノ利益ニ對スル資本金子稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スヘキ資本金子稅ハ其ノ貸付信託ノ利益ニ之ヲ加算ス
第七條 乙種ノ資本金子ニ付納稅義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ其ノ資本金子金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第八條 乙種ノ資本金子金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會開會後乙種ノ資本金子ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ資本金子金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會開會後乙種ノ資本金子ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ資本金子金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ資本金子金額ヲ決定ス

第九條 稅務署長ハ毎年乙種ノ資本金子ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ資本金子金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送附スヘシ
前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ資本金子金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス
第十一條 第八條又ハ前條ノ規定ニ依リ乙種ノ資本金子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十二條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本金子金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖政府ハ税金ノ徴収ヲ猶豫セス
第十三條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審查委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十四條 納稅義務者前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第十五條 甲種ノ資本金子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本金子稅ヲ徴收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ
乙種ノ資本金子ニ付テハ資本金子稅ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徴收ス

第九 官報號外 大正十五年一月二十六日 衆議院議事速記第六號 所得稅法中改正法律案(政府提出)外二十七件 第一讀會

九

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日

第十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ資本利子稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十七條 乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ納稅地ヲ以テ資本利子稅ノ納稅地トス

第十八條 收稅官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問スルコトヲ得

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ資本利子稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ場合ニ於テ乙種ノ資本利子ニ付資本利子稅ヲ通脫シタル者ノ資本利子金額ハ第八條第二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第二十條 資本利子ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法

第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ資本利子稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

附則 本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

乙種ノ資本利子ニ付テハ大正十五年分資本利子稅ヨリ本法ヲ適用ス但シ大正十五年ニ限リ第七條中三月十五日トアルハ四月三十日、第十五條中其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年九月一日ヨリ三十一日限トアルハ八月三十日トス

第八 相續稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

相續稅法中改正法律案 第一讀會

第三條ノ二ヲ削ル

第四條第二項中「船舶」及第一號ヲ削リ第二號ヲ第一號トシ以下順次繰上ク

第六條中「二千圓」ヲ「五千圓」ニ、「五百圓」ヲ「一千圓」ニ改メ但書ヲ削ル

第八條第一項ヲ左ノ如ク改ム

相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

課稅價格

家督相續

稅

率

五千圓以下ノ金額
五千圓ヲ超ユル金額
一萬圓ヲ超ユル金額
二萬圓ヲ超ユル金額
三萬圓ヲ超ユル金額

相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ

相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ

課稅價格

遺產相續

稅

率

四萬圓ヲ超ユル金額
五萬圓ヲ超ユル金額
七萬圓ヲ超ユル金額
十萬圓ヲ超ユル金額
十五萬圓ヲ超ユル金額
二十萬圓ヲ超ユル金額
三十萬圓ヲ超ユル金額
四十萬圓ヲ超ユル金額
五十萬圓ヲ超ユル金額
七十萬圓ヲ超ユル金額
一百萬圓ヲ超ユル金額
二百萬圓ヲ超ユル金額
三百萬圓ヲ超ユル金額
五百萬圓ヲ超ユル金額

相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ
相續人カ被相續人ノ指定シタル直系卑屬タルトキ

第十七條中「五年」ヲ「七年」ニ改ム

第二十三條中「五百圓」ヲ「一千圓」ニ、「被相續人カ推定家督相續人又ハ推定遺產相續人」ヲ「親族」ニ改ム

第二十三條ノ二ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ場合ニ於テ受益者ノ特定ナルトキ又ハ未タ存在セサルトキハ委託者ノ直系卑屬ヲ受益者ト爲シタルモノト看

做シ其ノ受託者ヲ相續財産管理人ト看做ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第九 通行稅法廢止法律案(政府提出)

第一讀會

通行稅法廢止法律案
通行稅法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前徵收シタル通行稅及徵收スヘカリシ通行稅ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第十 酒造稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

酒造稅法中改正法律案

酒造稅法中左ノ通改正ス

第四條中「三十圓」ヲ「三十六圓」ニ「三十圓」ヲ「四十圓」ニ「一圓二十五錢」ヲ「一圓五十錢」ニ「一圓五十錢」ヲ「一圓八十錢」ニ改ム

第五條中「三十圓」ヲ「三十六圓」ニ「三十圓」ヲ「四十圓」ニ改ム

第三十五條ノ三 政府ハ酒造組合法ニ依リ設立シタル酒造組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

前項ノ酒造組合ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

沖繩縣ニ於テ製造スル酒類ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

沖繩縣ニ於テ製造シタル酒類ヲ帝國内ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ其ノ造石稅ト本法ニ規定スル造石稅トノ差額ノ稅率ニ依リ出港稅ヲ課ス

前項ノ場合ニ於テハ樽太酒類出港稅法第三條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス

第十一 酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案

酒精及酒精含有飲料稅法中左ノ通改正ス

第二條中「一圓五十錢」ヲ「一圓八十錢」ニ「三十五圓」ヲ「四十二圓」ニ改ム

第四條中「麥酒(ビール)」ヲ「麥酒(ビール)及清涼飲料」ニ改ム

第五條ノ二中「三十五圓」ヲ「四十二圓」ニ改ム

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二 麥酒稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

麥酒稅法中改正法律案

麥酒稅法中左ノ通改正ス

第三條中「十八圓」ヲ「二十五圓」ニ改ム

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三 醬油稅則廢止法律案(政府提出)

第一讀會

醬油稅則廢止法律案

醬油稅則ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前製造石數ヲ査定シタル醬油及査定スヘカリシ醬油ニ付テハ仍舊法ニ依ル但シ本法施行後廢棄ニ屬シタル醬油ニ付テハ舊法第十一條ノ規定ヲ、外國ニ輸出スル醬油ニ付テハ舊法第十三條ノ規定ヲ適用セス

第十四 家用醬油稅法廢止法律案(政府提出)

第一讀會

家用醬油稅法廢止法律案

家用醬油稅法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ大正十五年分家用醬油稅ヨリ之ヲ適用ス但シ家用醬油製造者ニシテ大正十五年四月一日前其ノ製造シタル醬油ヲ販賣シ又ハ免許制限ヲ超過シテ醬油ヲ製造シタルモノニ付テハ仍舊法ニ依ル

第十五 織物消費稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

織物消費稅法中改正法律案

織物消費稅法中左ノ通改正ス

第一條ノ二 本法ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿ヲ以テ組成シ絹、人造絹、金屬絲、金屬線、金屬箔、漆絲又ハ漆箔ヲ交ヘサル織物ヲ謂フ

絹紡絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ニシテ命令ノ定ムルモノハ之ヲ綿織物ト看做ス

第二十三條 第十二條、第十四條乃至第十六條、第十八條第二號第四號及第十九條乃至第二十一條ノ規定ハ綿織物ニモ之ヲ適用ス

政府ニ申告セスシテ綿織物ヲ製造シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ材料ニ處ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ニ掲クル綿織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一 本法施行前消費稅課スヘカリシモノ

二 本法施行前外國輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セスシテ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタルモノ

三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ稽察シタルモノ

四 本法施行前消費稅ヲ納付シテ外國ニ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

消費稅ヲ納付シタル綿織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後外國ニ輸出

シ又ハ朝鮮ニ移出スルモノ織物消費稅法第三條第二項ノ規定ヲ適用セス

第十六 賣藥稅法廢止法律案(政府提出)

第一讀會

賣藥稅法廢止法律案

賣藥稅法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前印紙ヲ貼用スヘカリシ賣藥若ハ賣藥類似品又ハ外國輸出ノ爲ニ賣藥稅ヲ免除シタル賣藥若ハ賣藥類似品ニ付テハ仍舊法ニ依ル

賣藥營業者又ハ賣藥類似品營業者本法施行後其ノ所持ニ係ル賣藥又ハ賣藥類似品中性效ヲ失シタルモノヲ廢棄セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙稅額ノ五割ニ相當スル金額ノ交付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得但シ本法施行後二年ヲ過キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七 骨牌稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

骨牌稅法中改正法律案

骨牌稅法中左ノ通改正ス

第三條 骨牌ニハ一組毎ニ麻雀ニ在リテハ三十圓、其ノ他ニ在リテハ五十圓ノ稅ヲ課ス

第四條 骨牌ニハ一組毎ニ麻雀ニ在リテハ三十圓、其ノ他ニ在リテハ五十圓ノ稅ヲ課ス

第二十一條ノ二 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル骨牌ハ本法ト同一又ハ之ヨリ高キ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ骨牌ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ骨牌ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前舊牌製造ノ免許ヲ受ケタル者ノ大正十五年分以前ノ免許料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
本法施行ノ際舊牌ノ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ノ所持ニ係ル舊牌ニハ製造又ハ販賣ヲ爲ス者ニ於テ第四條ノ改正規定ニ依リ相當印紙ヲ貼用シ又ハ不足印紙ヲ増貼スヘシ

第十八 清涼飲料稅法案(政府提出)

第一讀會

清涼飲料稅法案

清涼飲料稅法

第一條 本法ニ於テ清涼飲料ト稱スルハ炭酸瓦斯ヲ含有スル飲料ヲ謂フ但シ全重量ノ萬分ノ五以下ノ炭酸瓦斯ヲ含有スルモノ及全容量ノ百分ノ一以上ノ純酒精ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス
前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏十五度ノ時ニ於テ〇七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ヲ謂フ

第二條 清涼飲料ニハ左ノ區分ニ依リ清涼飲料稅ヲ課ス

第一種 玉ラムネ等諸ノモノ

一石ニ付 七圓

第二種 其ノ他ノ罐詰ノモノ

一石ニ付 十圓

第三種 罐詰以外ノモノ

炭酸瓦斯使用量一疋ニ付 三圓

第三條 清涼飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受ケヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

天然ニ湧出スル清涼飲料ヲ容器ニ充填スルコトハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ第二種ノ清涼飲料ノ製造ト看做ス天然ニ湧出スル清涼飲料ヲ原料トシテ第三種ノ清涼飲料ヲ製造スルコト亦同シ

第四條 清涼飲料稅ハ第一種及第二種ノ清涼飲料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル石數ニ應シ、第三種ノ清涼飲料ニ付テハ製造場外ニ移出セラレタル清涼飲料ニ使用セラレタル炭酸瓦斯ノ量

ニ應シ清涼飲料製造者ヨリ之ヲ徵收ス
第五條 清涼飲料ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ製造場外ニ移出セラレタルモノト看做ス
一 製造場内ニ於テ飲用セラレタルトキ
二 製造場内ニ現存スルモノ公賣セラレタルトキ
三 製造免許取消ノ場合ニ於テ製造場内ニ現存スルモノトキ
第六條 清涼飲料製造者ハ毎月其ノ製造場外ニ移出シタル清涼飲料ニ付第二種ノ區分毎ニ其ノ石數又ハ炭酸瓦斯使用量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ但シ前條第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スヘシ
申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告書ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ課稅標準額ヲ決定ス
第七條 清涼飲料稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ第五條第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テハ直ニ之ヲ納付スヘシ
第八條 清涼飲料製造者カ外國ニ輸出スル目的ヲ以テ製造場外ニ移出スル清涼飲料ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ清涼飲料稅ヲ免除ス
前項ノ清涼飲料ニシテ製造場外ニ移出セラレタル後六月以内ニ外國ニ輸出セラレタルコトヲ證明ナキモノニ付テハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第九條 前條第一項ノ清涼飲料ハ之ヲ内地ニ於テ消費シ又ハ内地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ譲渡スルコトヲ得但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ承認ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ納付スヘシ
第十條 政府ハ清涼飲料稅ニ付必要アリ

ト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ納稅ノ保證トシテ清涼飲料製造者ニ對シ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得
第十一條 清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ハ清涼飲料ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ帳簿ニ記載スヘシ
清涼飲料ノ製造者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ清涼飲料ノ製造ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スヘシ
第十二條 收稅官吏ハ清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ノ所持ニ係ル清涼飲料、其ノ製造出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及清涼飲料ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器具器械、原料其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
第十三條 製造免許ヲ受ケスシテ清涼飲料ヲ製造シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス
前項ノ清涼飲料稅其ノ容器、器具及器械ハ之ヲ沒收ス
第十四條 清涼飲料ノ製造者第六條ノ規定ニ依リ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第十五條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ清涼飲料稅ヲ通脱シ又ハ通脱ヲ圖リタル者ハ其ノ清涼飲料稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ清涼飲料稅ヲ徵收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス
第十六條 清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者清涼飲料ノ製造出入ニ關スル帳簿書類若ハ原料ヲ隱匿シ又ハ帳簿ノ記載若ハ第十一條ノ規定ニ依リ申告ヲ怠リ若ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第十七條 收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第十八條 清涼飲料ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ義務ニ關シ

本法ヲ犯シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス
第十九條 第十條ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供セサル者、第十四條若ハ第十五條ノ規定ニ依リテ處罰若ハ處分セラレタル者又ハ三年以上引續キ清涼飲料ヲ製造セサル者ニ對シテハ政府ハ清涼飲料製造ノ免許ヲ取消スコトヲ得
第二十條 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造シタル清涼飲料ハ本法同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ於テ施行スル迄ハ之ヲ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シテ清涼飲料ヲ移入シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ石數ニ應シ第二種ノ稅率ニ依リ算出シタル清涼飲料稅ヲ徵收ス
前項ノ清涼飲料及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス
第二十一條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第十七條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
第二十二條 第十一條、第十二條、第十六條乃至第十八條及第二十一條ノ規定ハ販賣ノ目的ヲ以テ炭酸瓦斯ヲ製造スル者又ハ炭酸瓦斯ヲ販賣スル者ニ付之ヲ準用ス
第二十三條 自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル清涼飲料ノミヲ製造スル者ニハ本法ヲ適用セス
附則
本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スル者ハ本法施行後一月以内ニ其ノ旨政府ニ申告スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ製造免許ヲ受ケタルモノト看做ス
第十九 大正九年法律第五十一號中改正法律案(朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會

本法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スル者ハ本法施行後一月以内ニ其ノ旨政府ニ申告スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ製造免許ヲ受ケタルモノト看做ス
第十九 大正九年法律第五十一號中改正法律案(朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會

本法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スル者ハ本法施行後一月以内ニ其ノ旨政府ニ申告スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ製造免許ヲ受ケタルモノト看做ス
第十九 大正九年法律第五十一號中改正法律案(朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會

本法施行前ヨリ引續キ清涼飲料ヲ製造スル者ハ本法施行後一月以内ニ其ノ旨政府ニ申告スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ製造免許ヲ受ケタルモノト看做ス
第十九 大正九年法律第五十一號中改正法律案(朝鮮ニ移出スル物品ノ内國稅免除ニ關スル件)(政府提出)
第一讀會

大正九年法律第五十一號中改正法律案
大正九年法律第五十一號中「酒精含有飲料、」下「清涼飲料、」ヲ加ヘ「醬油、」及「石油、賣藥、賣藥類似品、」ヲ削ル

附則

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前朝鮮ニ移出シタル醬油 賣藥及賣藥類似品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十 地方税ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第一條 北海道、府縣ハ本法ニ依リ特別地稅、家屋稅、營業稅及雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得

第二條 特別地稅ハ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リテ地租ヲ徵收セザル田畑ニ對シ地租條例第一條ノ地價ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

特別地稅ノ徵收ニ關シテハ地租條例第十三條ノ規定ヲ準用ス

第三條 特別地稅ノ賦課率ハ北海道ニ在リテハ地價百分ノ二・六以內 府縣ニ在リテハ地價百分ノ三・七以內トス

特別地稅ニ對シ市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ賦課スヘキ附加稅ノ賦課率ハ前項ニ規定スル制限ノ百分ノ八十以內トス

第四條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第二條ノ例ニ依リ地價百分ノ二・九ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ前條第一項ニ規定スル制限ニ達スル迄特別地稅ヲ賦課スルコトヲ得

北海道地方費又ハ府縣費ノ一部ノ分賦ヲ受ケタル市町村ハ前條第二項ニ規定スル制限ノ外其ノ分賦金額以內ニ限リ特別地稅附加稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ北海道、府縣ノ賦課額ト市町村ノ賦課額トノ合算額ハ前條第一項ニ規定スル制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 特別地稅又ハ其ノ附加稅ト段別制トヲ併課スル場合ニ於テハ段別制ノ

總額ハ第三條又ハ前條ノ規定ニ依リテ其ノ地目ノ土地ニ對シ賦課シ得ヘキ制限額ト特別地稅額又ハ其ノ附加稅額トノ差額ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 特別地稅又ハ其ノ附加稅ノ賦課カ第三條乃至前條ニ規定スル制限ニ達シタル場合ニ非サレハ明治四十一年法律第三十七號第五條ノ規定ニ依ル地租、營業收益稅又ハ所得稅ノ附加稅ノ制限外課稅ヲ爲スコトヲ得ス

特別地稅又ハ其ノ附加稅ト段別制トヲ併課シタル場合ニ於テ一地面ニ對スル賦課カ前條ニ規定スル制限ニ達シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ特別地稅又ハ其ノ附加稅カ制限ニ達シタルモノト看做ス

第七條 特別ノ必要アル場合ニ於テハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ第三條乃至第五條ニ規定スル制限ヲ超過シ其ノ百分ノ十二以內ニ於テ特別地稅又ハ其ノ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ特ニ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定スル制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

一 內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケテ起シタル負債ノ元利償還ノ爲費用ヲ要スルトキ

二 非常ノ災害ニ因リ復舊工事ノ爲費用ヲ要スルトキ

三 水利ノ爲費用ヲ要スルトキ

四 傳染病豫防ノ爲費用ヲ要スルトキ

前二項ノ規定ニ依リ制限ヲ超過シテ課稅スルハ營業收益稅及所得稅ノ附加稅ノ賦課カ明治四十一年法律第三十七號第二條及第三條ニ規定スル制限ニ達シタルトキニ限ル

第八條 特別地稅及其ノ附加稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對シタル地租附加稅ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租附加稅額ノ當該田畑ノ地價ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條 家屋稅ハ家屋ノ賃貸價格ヲ標準トシテ家屋ノ所有者ニ之ヲ賦課ス

第十條 家屋ノ賃貸價格ハ家屋稅調查委員ノ調査ニ依リ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ決定ス

第十一條 左ニ掲ケタル家屋ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ家屋稅ヲ賦課セサルコトヲ得

一 一時ノ使用ニ供スル家屋

二 賃貸價格一定額以下ノ家屋

三 公益上其ノ他ノ事由ニ因リ課稅ヲ不適當トスル家屋

第十二條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第九條乃至前條ノ例ニ依リ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ市長之ヲ行フ

第十三條 家屋稅及其ノ附加稅ノ賦課率及賦課ノ制限並家屋ノ賃貸價格ノ算定及家屋稅調查委員ノ組織ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 營業稅ハ營業收益稅ノ賦課ヲ受ケサル營業者及營業收益稅ヲ賦課セサル營業者爲ス者ニ之ヲ賦課ス

第十五條 營業稅ヲ賦課スヘキ營業ノ種類ハ營業收益稅法第二條ニ掲ケタルモノ及勅令ヲ以テ定ムルモノニ限ル

第十六條 府縣費ノ全部ノ分賦ヲ受ケタル市ハ第十四條及前條ノ列ニ依リ營業稅ヲ賦課スルコトヲ得

第十七條 第十一條第三號ノ規定ハ營業稅ニ之ヲ準用ス

第十八條 營業稅ノ課稅標準並營業稅及其ノ附加稅ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ヘキモノノ種類ハ勅令ヲ以テ定ムルモノ並內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十條 第十一條第三號ノ規定ハ雜種稅ニ之ヲ準用ス

第二十一條 雜種稅ノ課稅標準並雜種稅及其ノ附加稅ノ賦課ノ制限ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 市町村ハ本法ニ依リ戶數割

ヲ賦課スルコトヲ得

第二十三條 戶數割ハ一戶ヲ構フル者ニ之ヲ賦課ス

戶數割ハ一戶ヲ構ヘサルモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

第二十四條 戶數割ハ納稅義務者ノ資力ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

第二十五條 戶數割ノ課稅標準タル資力ハ納稅義務者ノ所得額及資產ノ狀況ニ依リ之ヲ算定ス

第二十六條 第十一條第三號ノ規定ハ戶數割ニ之ヲ準用ス

第二十七條 戶數割ノ賦課ノ制限、納稅義務者ノ資產ノ狀況ニ依リ資力ヲ算定シテ賦課スヘキ額其ノ他納稅義務者ノ資力算定ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 北海道府縣以外ノ公共團體ニ對スル第七條ノ許可ノ職權ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

附則

本法ハ大正十五年分ヨリ之ヲ適用ス但シ家屋稅營業稅及雜種稅其ノ附加稅並戶數割ニ關スル規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス

明治十三年第十六號布告及同年第十七號布告ハ大正十五年分限リ之ヲ廢止ス

第六條及第七條中營業收益稅トアルハ大正十五年度分特別地稅及其ノ附加稅ニ付テハ國稅營業稅トス

家屋稅ハ大正十八年度分迄ニ限リ第九條乃至第十二條ノ規定ニ拘ラス別ニ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ賦課スルコトヲ得

第二十一 明治四十一年法律第三十七號中改正法律案(地方稅制限ニ關スル件)(政府提出)

第一讀會

明治四十一年法律第三十七號中改正法律案

明治四十一年法律第三十七號中左ノ通改正ス

第一條第一號中「其ノ他ノ土地地租百分ノ八十三」ヲ「田畑地租百分ノ百七其ノ他ノ土地地租百分ノ八十三」ニ

「其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ八十三ニ
「田畑ニ在リテハ百分ノ百七、其ノ他
ノ土地ニ在リテハ百分ノ八十三ニ改ム
同條第二號中「其ノ他ノ土地地租百分ノ
六十六」ヲ「田畑地租百分ノ八十五其ノ
他ノ土地地租百分ノ六十六」ニ、
其ノ他ノ土地ニ在リテハ百分ノ六十六ヲ
「田畑ニ在リテハ百分ノ八十五、其ノ他ノ
土地ニ在リテハ百分ノ六十六」ニ改ム
第二條中「營業稅附加稅ヲ課スルノ外營
業稅ヲ納ムル者」ヲ「營業收益稅附加稅ヲ
課スルノ外營業收益稅ヲ納ムル者」ニ、
「營業稅百分ノ四十一」ヲ「營業收益稅百
分ノ四十三」ニ、「營業稅百分ノ六十一」
ヲ「營業收益稅百分ノ六十三」ニ改ム
第三條第一項ヲ左ノ如ク改ム
北海道、府縣ハ所得稅百分ノ二十四以
內ノ所得稅附加稅ヲ課スルノ外所得稅
ヲ納ムル者ノ所得ニ對シ課稅スルコト
ヲ得ス
北海道府縣以外ノ公共團體ハ府縣費ノ
全部又ハ一部ノ分賦ヲ受ケタル場合ヲ
除クノ外所得稅ヲ納ムル者ノ所得ニ對
シ課稅スルコトヲ得ス
戶數制ヲ賦課シ難キ市町村ニ於テハ前
項ノ規定ニ拘ラス內務大臣兩大臣ノ許
可ヲ受ケ所得稅附加稅ヲ課スルコトヲ
得但シ其ノ賦課率ハ所得稅百分ノ七ヲ
超ユルコトヲ得ス

附則
本法ハ大正十五年分ヨリ之ヲ適用ス但
シ第二條及第三條ノ改正規定ハ大正十六
年度分ヨリ之ヲ適用ス
營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セララル
營業稅額ハ大正十五年分營業稅附加稅
ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看
做ス
本法公布ノ日迄ニ北海道、府縣其ノ他ノ
公共團體カ地租附加稅又ハ段別制ニ付制
限外課稅ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ其
ノ制限外ノ賦課率又ハ賦課額ハ之ヲ本法
ニ依リテ許可ヲ受ケタル制限外ノ賦課率
又ハ賦課額ト看做ス

市町村地租法案(山本悌二郎君外十
三名提出)
第一讀會
市町村地租法案
提出者
山本悌二郎
外十三名

市町村地租法

第一條 市町村ハ本法ノ定ムル所ニ依リ
其ノ市町村內ノ土地ニ付地租ヲ賦課ス
ルコトヲ得
第二條 左ニ掲クル土地ニ付テハ地租ヲ
課スルコトヲ得但シ第一號及第二號
ノ土地ニ付テハ所有者以外ノ者ニ於テ
之ヲ使用收益スルトキ其ノ土地ニ對シ
地租ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラス
一 國、北海道、府縣、市町村其ノ他
勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ
公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地
二 北海道、府縣、市町村其ノ他勅令
ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ
公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル
其ノ所有地但シ命令ノ定ムル期間內
ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス
三 府縣社地、鄉村社地、招魂社地但
シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス
四 墳墓地
五 用惡水路、溜池、堤塘、井溝
六 鐵道用地、軌道用地、運河用地
七 保安林
八 公衆ノ用ニ供スル道路
九 勅令ヲ以テ指定スル私立學校用地
但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス
軌道用地ノ區域ニ關シテハ地方鐵道法
第十五條ノ規定ヲ準用ス
第三條 地租ハ土地ノ賃貸價格ヲ課稅標
準トシ各地目均一ノ稅率ニ依リ毎年之
ヲ賦課ス

第四條 土地ノ賃貸價格ハ貸主カ公課、
修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費
ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貸スル場
合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ金額ニ依リ
之ヲ算定ス
第五條 土地ノ賃貸價格ハ各市町村ニ於
ケル土地賃貸價格調査委員會ノ議決ニ
依リ地方長官ノ認可ヲ經テ市町村長之
ヲ決定ス
左ノ場合ニ於テハ市町村會ノ議決ニ依
リ地方長官ノ認可ヲ經テ市町村長ニ於
テ土地ノ賃貸價格ヲ決定ス
一 調査委員會會成立セザルトキ
二 調査委員會ノ調査ニ付シタル日ヨ
リ三十日以内ニ調査終了セザルトキ
土地賃貸價格調査委員會及調査委員會ニ
關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六條 地方長官ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
リ道府縣內各市町村ノ土地賃貸價格ニ
關スル市町村位ヲ決定スヘシ
第五條第一條及第二項ノ規定ニ依ル土
地ノ賃貸價格ノ決定ニ關スル認可ハ前
項ノ市町村位ニ準據スルコトヲ要ス
第七條 土地ノ賃貸價格ハ左ノ場合ニ該
當スルニ非サレハ之ヲ修正セス
一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ
二 開墾シタルトキ
三 開拓後下年期明ニ至リタルトキ
四 荒地免租年期明ニ至リ原賃貸價格
ニ復シ難ク若ハ他ノ地目ニ變シタル
トキ又ハ賃貸價格低廉年期明ニ至リ
原賃貸價格ニ復シ難キトキ
第八條 免租地ノ有租地ト爲ルニ至リタ
ルトキハ其ノ他ノ現況ニ依リ直ニ其ノ
賃貸價格ヲ定ム但シ命令ノ定ムル所ニ
依リ免租年期ノ許可ヲ與ヘタル土地ニ
付テハ此ノ限ニ在ラス
第九條 地類ヲ變換シ又ハ地目ヲ變換シ
タルトキハ直ニ其ノ賃貸價格ヲ修正ス
但シ命令ノ定ムル所ニ依リ賃貸價格據
置年期ノ許可ヲ與ヘタル土地ニ付テハ
此ノ限ニ在ラス
開墾地ハ開墾成功ノトキ其ノ賃貸價
格ヲ修正ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ
免租年期ノ許可ヲ與ヘタル土地ニ付テ
ハ此ノ限ニ在ラス
第十條 命令ノ定ムル所ニ依リ新開免租

年期賃貸價格據置年期、免租年期ノ許
可ヲ與ヘタル土地ニ對シテハ年期明ト
爲リタルトキ其ノ賃貸價格ヲ定ム又ハ
修正ス
命令ノ定ムル所ニ依リ荒地免租年期又
ハ賃貸價格低廉年期ノ許可ヲ與ヘタル
土地ニシテ年期明ニ至リ尚原賃貸價格
ニ復シ難キモノ又ハ年期明ニ至リ原地
目ニ復セス他ノ地目ニ變換スルモノハ
其ノ際賃貸價格ヲ修正ス
第十一條 第八條乃至第十條ニ依ル賃貸
價格ノ決定又ハ修正ニ付テハ第五條ノ
規定ニ拘ラス市町村長ニ於テ近傍類地
ニ比準シテ其ノ賃貸價格ヲ決定又ハ修
正スルコトヲ得
第十二條 地租ハ左ノ者ニ之ヲ賦課ス
一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權
者
二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地
上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權
者
三 其ノ他ノ土地ニ付テハ所有者
前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者
ト稱スル土地臺帳ニ質權者、地上權者、
所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ
第十三條 開墾地、開拓地、新開地及荒
地ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ地租
ヲ減免スルコトヲ得
地目ヲ變換スル爲開墾ニ等シキ勞費ヲ
要スルモノハ開拓地ニ準スル取扱ヲ爲
スコトヲ得
海嘯ノ爲海水浸入シ作土ヲ損害シタル
モノハ其ノ情況ニ依リ荒地ニ準據スル
コトヲ得
第十四條 災害又ハ天候不順ニ基因シ田
畑ノ收穫皆無ニ歸シタルトキハ命令ノ
定ムル所ニ依リ被害當年分ノ地租ヲ免
除スルコトヲ得
第十五條 前二條ノ規定ニ依ル地租ノ減
免ハ納稅義務者ノ申請ニ因リテ之ヲ爲
ス
前項ノ申請アリタルトキハ市町村長ハ
當該土地ニ對スル地租ノ徵收ヲ猶豫ス
ルコトヲ得

第十六條 地租ハ同一人ニ屬スル其ノ市

町村內ノ土地ノ賦課期日現在ニ於ケル
賃賃價格合計額ニ稅率ヲ乘シテ之ヲ算
出ス

地租算出上一錢未滿ノ端數ハ之ヲ切捨
ツ但シ一年分ノ地租又ハ各納期ニ配分
シタル地租額一錢未滿ナルトキハ之ヲ
一錢トス

第十七條 賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ
付テハ賃賃價格修正後ニ開始スル納期
分ヨリ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收
ス但シ賃賃價格修正後ニ開始スル納期
ニ於テ前年分地租ヲ徵收スル場合ニ於
テハ翌年分地租ヨリ修正賃賃價格ニ依
リ地租ヲ徵收ス

第十八條 有租地力免租地ト爲リタルト
キハ其ノ届出アリタル後又ハ其ノ事實
ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租
ヲ免除ス

免租地力有租地ト爲リタルトキハ賃賃
價格設定後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ
徵收ス但シ賃賃價格設定後ニ開始スル
納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘキ場
合ニ於テハ其ノ納期分ノ地租ハ之ヲ徵
收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若ハ賃賃
價格低減年期許可ノ場合又ハ荒地免租
年期明若ハ新開免租年期明ノ場合ニ之
ヲ準用ス

第十九條 市町村長又ハ其ノ代理吏員ハ
地租ノ賦課徵收ニ關シ必要アルトキハ
土地ヲ検査シ又ハ納稅義務者若ハ其ノ
納稅管理人又ハ土地ヲ使用若ハ占有ス
ル者ニ對シ質問スルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者
又ハ納稅義務者ハ之ヲ市町村長ニ届出
ツヘシ

- 一 地類又ハ地目ヲ變換シタルトキ
- 二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功
シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ
及開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ
- 三 有租地ノ免租地ト爲リタルトキ又
ハ免租地ノ有租地ト爲リタルトキ

四 土地ヲ分割シ又ハ合併セムトスル
トキ

五 欲下年期 賃賃價格據置年期、新
開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期
明ト爲リタルトキ

六 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ
年期明ニ至リ他ノ地目ニ變換シタル
トキ

七 賃賃價格低減年期ヲ有スル土地ニ
シテ其ノ年期明ニ至リ原賃賃價格ニ
復シ難キトキ又ハ他ノ地目ニ變換シ
タルトキ

第二十一條 納稅義務者其ノ土地所在ノ
市町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサル
キハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル
爲其ノ市町村內ニ住所スル者ヲ納稅管
理人ト定メ當該市町村長ニ之ヲ届出ツ
ヘシ

第二十二條 第五條ニ依リ土地ノ賃賃價
格ヲ決定シタルトキハ市町村長ハ遲滯
ナク其ノ旨ヲ告示シ同時ニ其ノ決定書
ヲ市役所又ハ町村役場內ニ於テ七日間
毎日午前八時ヨリ午前四時迄地租ヲ納
ムル義務アル者又ハ其ノ納稅管理人ノ
縦覧ニ供スヘシ

第二十三條 地租ヲ納ムル義務アル者又
ハ其ノ納稅管理人第五條ノ規定ニ依リ
市町村長ノ決定シタル土地ノ賃賃價格
ニ異議アルトキハ縦覧期間満了ノ日ヨ
リ二十日以内ニ市町村長ニ異議ノ申立
ヲ爲スコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ市參事會又ハ町村會
ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケタル者其
ノ決定ニ不服アルトキハ道府縣參事會
ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行
政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ決定及裁決ニ付テハ
市町村長ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起ス
ルコトヲ得

第二十四條 本法ノ適用ニ付テハ町村組
合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理
スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス
第二十五條 市制町村制ヲ施行セザル地

ニ在リテハ本法中市町村、市町村長ニ
關スル規定ハ之ニ相當スル地區吏員ニ
之ヲ準用ス

第二十六條 北海道、府縣ハ勅令ノ定ム
ル所ニ依リ地租ニ附加スル道、府縣稅
ヲ賦課スルコトヲ得

第二十七條 北海道、府縣、市町村其ノ
他ノ公共團體ハ特別法ノ規定ニ依リ
外市町村稅地租ヲ賦課スヘキ土地ヲ目
的トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコ
トヲ得ス

第二十八條 本法ノ施行ニ必要ナル命令
ノ規定ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム
附則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行
ス
地租條例ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
但シ大正十五年分以前ノ地租ノ徵收ニ關
シテハ仍從前ノ例ニ依ル

土地ノ情況又ハ從前ノ慣行ニ依リ本法ノ
全部又ハ一部ヲ適用シ難キ地方ニ在リテ
ハ內務大臣及大藏大臣ニ稟申シテ特例ヲ
設クルコトヲ得

市町村稅地租法ノ施行ニ關スル法律案
(山本傑二郎若外十三名提出) 第一讀會
市町村稅地租法ノ施行ニ關スル法律案
提出者 山本傑二郎

外十三名

第一條 法律命令中地租トアルハ市町村
稅地租、地租附加稅トアルハ其ノ府縣ニ
於テ賦課スヘキモノハ市町村稅地租ニ
附加スル、府縣稅、其ノ市町村ニ於テ賦
課スヘキモノハ市町村稅地租ト看做ス

第二條 本法施行前地租條例其ノ他ノ法
令ノ規定ニ依リ決定シタル地租ノ輕減又
ハ免除ニ關スル處分ハ市町村稅地租法ノ
施行ニ依リテ其ノ效力ヲ失フコトナシ

第三條 本法施行前地租條例其ノ他ノ法
令ノ規定ニ依リ許可シタル地租ノ免租年
期、欲下年期、低價年期、地價據置年
期及其ノ繼續年期ハ市町村稅地租法ノ
施行ニ依リテ其ノ效力ヲ中斷セザルコ

トナシ

第四條 前二條ノ規定ノ適用アル土地ニ
付テハ其ノ地租ヲ輕減若ハ免除スル間
又ハ年期中ハ市町村稅地租法ニ依リ賃
賃價格ノ決定ヲ爲サス地租ノ輕減若ハ
免除期間ノ満了又ハ年期限明ノトキ其ノ
賃賃價格ヲ決定ス

第五條 本法施行前耕地整理法又ハ明治
三十年法律第三十九號ニ依リ耕地ノ整
理又ハ土地ノ改良ニ著手シ事業成功ニ
至ラサル地區內ニ在ル土地ニ付テハ市
町村稅地租法ニ依リ賃賃價格ノ決定ヲ
爲サス事業成功ニ至リ類地ノ比準ニ依
リ其ノ賃賃價格ヲ決定ス

第六條 市町村稅地租法ニ依リ土地ノ賃
賃價格ハ大正十七年一月一日ノ現在ニ
於テ之ヲ決定シ大正十七年分地租ヨリ
之ヲ適用ス

第七條 市町村稅地租法ニ依リ地租ノ賦
課ハ土地ノ賃賃價格ヲ決定スルニ至ル
迄ハ從前ノ地價ニ依ル
新ニ地價ヲ定メ又ハ地價ノ修正ヲ要ス
ルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第八條 各市町村ニ於ケル市町村稅地租
ノ賦課總額ハ當分ノ內其ノ市町村內ノ
土地ニ付賦課シタル大正十五年分地租
及市町村附加稅ノ合計額ヲ超ユルコト
ヲ得ス但シ地價ノ標準トシ地目別ニ從
前ノ國稅地租ノ稅率ト同一又ハ低キ稅
率ニ依リ地租額ヲ計上スル場合ニ於テ
増加スヘキ地租額ノ増徴ヲ妨ケス

附則

本法ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行
ス土地ノ情況又ハ從前ノ慣行ニ依リ本法
ノ全部又ハ一部ヲ適用シ難キ地方ニ在リ
テハ內務大臣及大藏大臣ニ稟申シテ特例
ヲ設クルコトヲ得

地租條例中改正法律案(床次竹二郎君
外二十三名提出) 第一讀會
地租條例中改正法律案 提出者 床次竹二郎
外二十三名

理ノ實行ヲ遲延セシムルガ如キハ、決シテ國家國民ノ爲ニ忠實ナル所以デナイト思フノデアリマス、現内閣ハ我國租稅制度ノ現狀ニ照シマシテ、速ニ全般ニ互テ稅制ヲ整理スルノ必要緊切ナルコトヲ認メマシテ、前議會ニ於テ是ガ實行ノ意圖アルコトヲ聲明致シ、爾來各種ノ方面カラ調査研究ヲ進メ實行ノ成案ヲ得ルニ努力致シマシタ結果、茲ニ所得稅法中改正法律案、外十八件ノ法律案ヲ提出致シマシテ、諸君ノ御協賛ヲ求ムルノ運ビニ立至、タノデアリマス、今回ノ國稅整理ノ綱要ハ、先ヅ第一ニ直接國稅ノ體系ニ關シマシテハ、大體ニ於テ現在ノ制度ヲ是認致シマシテ、一般所得稅ヲ中樞トシ、之ニ適當ナル改正ヲ施シ、地租ニ相當ノ改善ヲ加ヘテ之ヲ存置シ、現行營業稅ハ之ヲ廢止シ、之ニ代フルニ營業收益稅ヲ以テシ、新ニ資本利子稅ヲ設ケテ以テ租稅ノ體系ヲ整ヘ、負擔ノ衡平ヲ圖ルコトニ致シタノデアリマス、第二ニ通行稅、醬油稅、賣藥稅ヲ廢止シ綿織物ニ對スル織物消費稅ヲ免除致シマシテ、中産階級以下、多數國民ノ生活上ノ負擔ヲ輕減スルニ努メタノデアリマス、第三ニハ是等諸稅ノ改廢ニ依ル所ノ財源不足ヲ補填センガ爲ニ、相續稅及酒類ニ對スル租稅ノ増率ヲ行ヒ、煙草ノ定價ヲ引上ゲ上ニ申述ベマシタ所ノ資本利子稅ノ外ニ新ニ清涼飲料稅ヲ設ケントスルニ在ルノデアリマス、稅制整理ニ著手シタ點ハ、稅制整理ニ依ル所ノ歲入總額ノ増減如何ノ點ニ在リタノデアリマス、蓋シ經濟界今日ノ狀況、國民負擔ノ現況ニ照シマシテ、此際稅制整理ニ依リテ増稅ヲ行フコトノ不可ナルコトハ勿論、若シ出來得ベクンバ減稅ノ整理ヲ斷行致シマシテ、國民負擔ノ輕減ヲ圖リタイト云フコトハ、政府ニ於テ最モ希望スル所デアリマス、クレドモ、我國財政ノ現狀ハ到底歲入ノ減少ヲ生ズベキ所ノ減稅ノ整理ヲ行ヒ得ルノ餘格ノ無イト云フコトヲ遺憾トスルモノデアリマス、現内閣ハ諸君御承知ノ通り、行政財政ノ整理緊縮ヲ以テ主要ナル政綱ノ一ト致

シ、大正十四年度ノ豫算編成ニ當リマシテ萬難ヲ排シテ、出來ルダケ是ガ實現ヲ圖リマシテ、前議會ニ於テ幸ニ諸君ノ御協賛ヲ得マシテ、財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ、經濟界ニ對スル財政ノ壓迫ヲ緩和スルコトヲ得タノデアリマス、十五年度ノ豫算編成ニ當リマシテモ、依然トシテ緊縮ノ方針ヲ繼續シテ居リマスガ、而モ一面ニ於キマシテ幾多懸案ノ解決ヲ要スルモノガアルノデアリマス、其他緊急避クベカラザル經費モ亦少クナイノデアリマス、隨テ此上國家ノ歲入ヲ著シク減少セシメントスルガ如キハ、財政ノ現狀ニ照ラシ、到底不可能ノ事デアルノデアリマス、是ヲ以テ今回ノ稅制整理ハ歲入ニ著シキ増減ナカラシムル範圍内ニ於テ之ヲ實行スルコト、致シタ次第デアリマス、次ニ今回ノ稅制整理ニ關シテ特ニ考慮ヲ費シマシタル點ハ、直接國稅ノ體系ヲ如何ニ組織スベキカハ問題デアリタノデアリマス、此點ニ關シテハ世上種種ノ論議ヲ試ムル者ガアリマス、クレドモ稅制整理ノ事業ハ机上ノ空論ヲ許サナイノデアリマス、直ニ採リテ以テ國政ノ上ニ施行シ得ベキ實行ノモノナカレバナラヌノデアリマス、政府ハ慎重ナル調査研究ヲ遂ゲマシタル結果、諸般ノ狀況ニ照シ、我國直接國稅ノ體系ハ大體ニ於テ現行ノ制度ヲ是認シ、一般所得稅ヲ中樞ト致シ、地租、營業收益稅及資本利子稅ヲ以テ、之ヲ補充スルコトガ最モ適當ニシテ且ツ實行ノデアルト認メタノデアリマス、尙ホ茲ニ直接國稅ノ體系ニ關聯シテ一言致シタイト思ヒマス、コトハ家屋稅ノ事デアリマス、土地營業及資本利子ニ補完稅ヲ課シマスル以上ハ、同ジク資產所得タル所ノ家屋ノ收益ニ對シテモ、亦理論上國稅トシテ相當ノ負擔ヲ爲サシムルヲ適當トスベキデアリマス、クレドモ、特ニ徵稅上ノ便否ト地方財源ノ關係等ヲ考慮致シマシテ、今之ヲ國稅トスルハ策ノ得タルモノデナイト信ジマシタルガ故ニ、家屋稅ハ之ヲ地方稅ヲラシムル事ト致シタノデアリマス、以上申述ベマシタルガ如ク、今回ノ稅制整理ハ歲入ニ著シキ増減ナカラシムル範

圍内ニ於テ、大體現行直接國稅ノ組織ヲ基トシテ實行セントスルモノデアリマシテ、其各稅ヲ通ジタル具體的ノ整理改正ニ當リマシテハ、租稅ノ體系ヲ正シ、負擔ノ均衡ヲ期スルニ在ルハ勿論デアリマス、クレドモ、一面國民全體ノ福利ヲ増進セントニ深甚ノ注意ヲ拂ヒマシテ、殊ニ時代ノ趨向ニ鑑ミ、社會政策的ノ效果ヲ舉グルコトニ努メルト同時ニ、事業ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ産業ノ發展ニ資セントスルノ方針ヲ採リタノデアリマス、即チ所得稅及相續稅ノ免稅點ヲ引上ゲ、新ニ地租ニ免稅點ヲ設ケ、又綿織物ノ消費稅ヲ免除シ、通行稅、醬油稅、賣藥稅等ヲ全廢セントスルハ負擔ノ公正ヲ圖ルト共ニ、現在並ニ將來ニ於ケル社會的、經濟的ノ狀態ニ深ク思フ致シ、中産階級以下多數國民ノ生活上ノ負擔ヲ輕減シ、以テ社會政策的ノ效果ヲ舉グントスルノ趣意ニ出デタルモノデアリマス、法人ノ留保所得ニ對スル累進課稅ヲ撤廢シテ、比例稅ト爲シ、外形標準ニ依ル所ノ現行營業稅ヲ全廢シテ、之ニ代ヘマスルニ純益ヲ標準トスル營業收益稅ヲ以テシ、第一種所得稅ト第二種所得稅トノ重複課稅ヲ避ケ又營業收益稅ト地租又ハ資本利子稅トノ重複課稅ヲ避ケ、又地租ノ課稅標準ヲ負擔價格ニ改メ、田畑地租ニ對シテハ相當ノ減稅ヲ行ハントスルハ、主トシテ負擔ノ公平ヲ圖ルト同時ニ、事業ノ基礎ヲ鞏固ニ致シ、産業ノ發展ヲ助成セントスルガ爲メデアルノデアリマス、而シテ是等諸稅ノ改廢ニ因リマスル所ノ財源補填ノ爲ニモ、亦前記ノ方針ヲ基ト致シマシテ、國民ノ負擔ヲ其擔稅能力ニ應ゼシメマスルト同時ニ、生活必需品ニ對スル課稅ヲ避ケマシテ、主トシテ嗜好品ニ對スル課稅ヲ選ビ、前記資本利子稅創設ノ外相續稅ノ稅率引上、酒精飲料稅ニ對スル増率、清涼飲料稅ノ新設、及煙草ノ定價引上ニ依ルコト、致シタノデアリマス、以上ノ稅制整理計畫ノ歲入ニ及ボス所ノ影響ニ付キマシテ、茲ニ二十一日ノ財政演說ニ於キマシテ、其大要ヲ述ベタ所デアリマス、ルガ、今之ヲ社會政策的ノ方面ト其他ノ方面

トニ分ケマシテ觀察ヲ致シテ見マスルニ、先ヅ社會政策的效果ヲ舉ゲンガ爲ニ行ヒマスルモノハ、平年度ニ於キマシテ所得稅ニ於ケル免稅點ノ引上、及小額ノ所得者ニ對スル扶養家族ニ對スル控除額ノ改正ニ因リテ四百七十餘萬圓、地租ニ於ケル免稅點ノ設置ニ因リテ二百餘萬圓、相續稅ニ於ケル免稅點ノ引上ニ因リテ六十餘萬圓、通行稅ノ廢止ニ因リテ千六百六十餘萬圓、醬油稅ノ廢止ニ因リテ七百十餘萬圓、賣藥稅ノ廢止ニ因リテ千七百十餘萬圓、以上減少額ノ計ガ九百三十餘萬圓、以上減少額ノ計ガ九百三十餘萬圓、資本利子稅ノ新設ニ因ル増ガ四千八百八十餘萬圓、相續稅ノ改正ニ因ル増ガ六百八十餘萬圓、酒造稅ノ改正ニ因ル増ガ二千七百九十餘萬圓、麥酒稅ノ改正ニ因ル増ガ五百五十餘萬圓、酒精及酒精含有飲料稅ノ改正ニ因リマスル増ガ三十餘萬圓、沖繩縣酒類出港稅ノ新設ニ因リマスル増ガ六萬餘圓、清涼飲料稅ノ新設ニ因リマスル増ガ四百三十餘萬圓、骨牌稅ノ改正ニ因ル増ガ五十餘萬圓、煙草定價ノ引上ニ因ル増ガ二千二百二十餘萬圓、以上増加額ノ計ガ八千二百七十餘萬圓、増減差引増加額ガ六千三百四十餘萬圓デアリマシテ、此増加額ヲ前ニ申述ベマシタル所ノ社會政策的整理ニ依ル所ノ減少額七千七百七十餘萬圓ト更ニ差引ヲ致シマスルト云フト、結局今回ノ稅制整理ノ全體ニ因リテ、平年度即チ大正二十二年度ニ於テ八百三十萬餘圓ノ減少トナル計算デアリマス、世上或ハ今回ノ稅制整理ヲ以テ直接稅ニ減ズル所ガ多ク、却テ間接稅ノ増徴ニ依リテ其財源ヲ補填セントスルモノデナイト云フコトヲ如キ誤解ヲ致シ、殊ニ酒稅ノ増徴、清涼飲料稅ノ新設、及煙草定價ノ引上等ニ對シテ非難ヲ試ミントスル者ガアルヤウデアリマス、ルガ、以上說明致シマ

シタル通り、今回ノ稅制整理ハ社會政策的の效果ヲ舉グルコトニ特ニ重キヲ置キマシテ(拍手)其直接國稅タルト間接國稅タルトヲ問ハズ、主トシテ中産階級以下多數國民ノ負擔ヲ輕減センガ爲ニ、實ニ七千七百七十餘萬圓ノ減稅ヲ行ヒタルニ拘ラズ(拍手)間接國稅ノ增加ハ嗜好品タル所ノ酒類、清涼飲料及煙草等ニ對スル負擔ニ於テ、六千六百餘萬圓ヲ算スルニ過ギナイノデアリマス、即チ稅制整理ノ全體ヲ通ジマシテ、社會政策的の效果ノ顯著ナルコト毫モ疑フ客レナイ所デアルト信ズルノデアリマス(拍手)以上ハ稅制整理ノ諸案ニ對スル總括的ノ說明デアリマスガ、是ヨリ所得稅法中改正法律案以下各法律案ノ内容ニ付テ其要點ヲ說明致サウト思ヒマス、先ツ所得稅ニ付キマシテハ、現行ノ所得稅法ハ大正九年ニ於テ殆ド根本的ニ改正セラレタルモノデアリマス、其後未ダ多クノ年月ヲ經過致シテ居リマセマケレドモ、是ガ實施ノ狀況ト社會上、經濟上ノ變遷等ニ鑑ミマシテ、相當ノ改正ヲ加フルノ必要ガアルト思フノデアリマス、今回改正ノ主要ナル點ヲ舉ゲテ申シテ見マシテ、第一ニ法人ノ留保所得ニ對スル累進的課稅ヲ廢シ、留保所得ト配當所得トノ區分ヲ爲サズシテ所得ノ總額ニ對シ百分ノ五ノ比例稅ヲ課セントスルモノデアリマス、現行法ニ於テキマシテハ、法人ノ所得中配當シタル部分ト、留保シタル部分トニ對スル課稅ヲ異ニ致シ、配當所得ニ付テハ百分ノ五ノ比例稅デアリマス、留保所得ニ對シテハ百分ノ五カラ百分ノ二十ニ達スル所ノ累進的稅率ヲ適用シマスガ故ニ、自ラ法人ノ社内ノ留保少カラシムル傾向ヲ生ジマシテ、事業ノ基礎ヲ薄弱ナラシメ、延テ產業ノ發達ヲ阻礙スルモノデアルト云フ非難ガ高イノデアリマス、而シテ現行ノ制度ハ元來配當金ノ綜合課稅ヲ回避センガ爲ニスル所ノ、不當ノ留保ヲ防クノ目的ニ出ヅルモノデアリマシテ、一應ノ理由ガナキニシモアラズデアリマスガ、法人ノ種類ヲ問ハズ、又留保ノ要否ヲ論ゼズシテ、總テノ法人ニ對シテ一律ノ取扱ヲ致シマスルガ故ニ、

實際上配當金ノ綜合課稅ヲ回避セントスル意思ヲ有シテ居ナイ所ノ一般ノ法人ニ對シマシテモ、尙ホ高率ノ課稅ヲ爲スコト、ナリマシテ、實際ノ狀況ニ照シ甚ダ適當デナイト認メマシタノデ、今回改正ニ於テ留保所得ニ對スル累進的課稅ヲ撤廢致シ、留保ト配當トノ區分ヲ爲サズシテ、其所得ノ總額ニ對シ現行留保所得ノ最低稅率、即チ百分ノ五ノ比例稅ヲ課スルコト、致シマシタノデアリマス、然レドモ一面同族會社等ニ於キマシテ、故意ニ多額ノ留保ヲ致シマシテ、配當金ノ綜合課稅ヲ免レントスルモノニ付キマシテハ、負擔ノ公平ヲ圖ルノ見地ニ於テ、固ヨリ之ヲ看過スベキ限リデハナインデアリマス、此點ニ關シマシテハ、現行法ノ規定ニ適當ナル改正ヲ加ヘマシテ、其活用ヲ圖リ、以テ負擔ノ均衡ヲ保持スル上ニ於キマシテ、遺憾ナカラシメントスル考デアリマス、第二ニ第一種ノ所得稅ト第二種ノ所得稅トノ重複課稅ヲ避クルガ爲ニ、第一種所得稅額中カラ、其事業年度ニ於テ納付シタル所ノ第二種所得稅ヲ控除スルコト、致シタルデアリマス、現行ノ所得稅法ニ於テハ、公債社債ノ利子、及銀行預金利子等ヲ第二種所得稅トシテ、所謂源泉課稅ノ方法ニ依リテ課稅致シテ居リマスノハ、主トシテ實行上ノ便宜ニ基キモノデアリマシテ、單純ナル理論ノミニヨリ致シマスレバ、之ヲ廢止シテ第二種ノ所得稅ニ合併致シ、他ノ所得ト共ニ綜合課稅スルヲ相當トスルノデアリマスルケレドモ、我國現在ノ實情ニ鑑ミマスルニ租稅通脫ノ弊ガ遺憾ナガラ少クナイノデアリマス、隨テ是ガ爲ニ歲入ノ缺陷ガ多大デアルト云フコトハ、殆ド疑問ノ餘地ナキ所デアリマシテ、到底之ヲ實行スルコトガ出來ナイノデアリマス、併ナガラ法人ノ所得ヲ計算スルニ當リマシテ、其所得中ニ第二種所得稅ヲ課稅セラレタ所得ガアルト云フコトガ明瞭ナル場合ニ於テモ、尙ホ其所得ノ總額ニ對シテ第一種所得稅ノ全額ヲ賦課致シマスルコトキハ、明ニ二重課稅ノ結果ヲ生ジマスルガ故ニ、此點ニ關シ適當ナル改正ヲ加フルノ必要アルコトヲ

認メマシテ、第一種所得稅額ヨリ其事業年度ニ於テ納付致シマシタル所ノ、第二種所得稅ヲ控除スルコトニ致シ、以テ法人ノ所得稅ノ負擔ヲ適當ニ緩和スルコトヲ致シタルデアリマス、第三ニ、第三種所得稅ノ免稅點八百圓ヲ千二百圓ニ引上ゲンタルノデアリマス、現行法ニ於ケル免稅點ハ御承知ノ通り八百圓デアリマスルガ、現時我國ニ於ケル國民生活ノ程度ヲ標準トシテ觀察致シマスルニ、一ヶ月所得百圓ニ滿タザル者ニ對シテ、一般所得稅ヲ負擔セシムルト云フコトハ、社會政策的ノ見地カラ見マシテ相當ニ非ズト認メマスルガ故ニ、所得年額千二百圓ヲ以テ、第三種所得稅ノ免稅點ト致サントスルノデアリマス、第四ニ山林所得ニ付キマシテハ、其所得額ヲ五分シタル金額ニ對スル稅額ヲ五倍シタルモノヲ以テ、其稅額トスルコトニ改メントスルノデアリマス、現行法ニ於キマシテハ、山林所得ナルモノハ數年、又ハ數十年間、其立竹木ヲ養成シタル結果主ズルモノデアルト云フ點ニ鑑ミ、之ヲ他ノ所得ト區分ヲ致シテ稅率ヲ適用シテ居ルノデアリマスルガ、實際上尙ホ林業者ノ苦痛ガ少カラザルモノガアルト思ヒマスルガ故ニ、其負擔ヲ緩和スルノ必要ガアルト認メタルデアリマス、而シテ其負擔ヲ緩和致シマスル方法ニ付キマシテハ、從來種々ノ議論ガアルノデアリマスガ、合理的ニシテ而モ實行のナル方法ヲ發見致シマスルコトガ頗ル困難デアリマシテ、大體ノ達觀上、今回政府ノ提案致シマシタル程度ヲ以テ適當ノ負擔ニ歸者セシムルコトガ出來ルト認メタルデアリマス、第五ニ、尙ホ現行法ニ於ケル所ノ扶養家族ノ控除ハ、所得三千圓以下五十圓、二千圓以下八十圓、千圓以下八十圓ト區分ヲシテアリマスルケレドモ、此際所得總額三千圓以下ノモノハ扶養家族一人ニ付キ總テ百圓ノ控除ヲ行フコト、致シ、又勤勞所得ノ控除等、其他ノ點ニ付テモソレレト適當ナル改正ヲ加フルコトニ致シタルデアリマス、次ニ地租ニ付キマシテハ、課稅標準ヲ土地ノ賃貸價格ニ改メマシテ、之ニ依リテ現行ノ

法定地價課稅ノ最大缺點タル負擔ノ不公平ヲ除キ、土地ノ負擔ヲシテ成ベク其收益ニ伴ハシメントスル計畫デアリマス、蓋シ賃貸價格ノ調査ハ相當困難ナル事業デアリマスルガ、現行地價ノ修正ニ較ベテ見マシレバ、其實行ガ比較的容易デアリマシテ、且ツ實際ノ事情ニ適合シタル結果ヲ得ラルモノト考ヘマス、賃貸價格ノ調査方法等ニ關シマシテハ、別途法律案ヲ提出致シマシテ御協議ヲ求メル筈デアリマス、而シテ賃貸價格ノ調査完了マデニハ、約二箇年ノ日子ヲ要スル豫定デアリマスルガ故ニ、地租條例ノ根本的改正ハ之ヲ二箇年ノ後ニ俟タナケレバナラヌデアリマス、然ルニ今回ノ稅制整理ニ因ル他ノ稅法ノ改正ハ、大體大正十五年度ヨリ實施スルコトニナツテ居リマスルガ故ニ、是トノ權衡上、地租ニ對シマシテモ賃貸價格ノ調査完了ニ至ルマデノ期間ニ付キ、相當ノ經過の改正ヲ加ヘテ其負擔ヲ輕減スルノ必要ガアルト認メタルデアリマス、只今議題トナツテ居リマスル地租條例中改正法律案ハ、即チ此趣旨ニ基クモノデアルトデアリマス、改正ノ要點ハ第一、田畑地租ノ一分減ヲ實行セントスルノデアリマス、現行法ニ於ケル田畑ノ稅率百分ノ四箇五ヲ百分ノ三箇五ニ低減シ、北海道ニ於ケル地租ニ付キマシテモ、同一ノ割合ヲ以テ百分ノ三箇二ニナツテ居リマスノヲ百分ノ二箇五ニ低減ヲ致シ、大正十五年及十六年度分ノ地租ニ付テ之ヲ適用セントスルノデアリマス、田畑ニ對スル地租率輕減ノ理由ハ、申スマデモナク耕地ニ對スル負擔ヲ輕減致シ、農村ノ振興ニ資セントスルモノデアリマス、曩ニ大正十二年ニ於ケル稅制ノ應急的整理ニ當リマシテ、營業稅ニ付テハ約千九百萬圓ノ減稅ヲ爲シタルニ拘ラズ、地租ニ付テハ少シモ輕減ヲ行ハナカッタノデアリマシテ、兩者ノ權衡上宜シキヲ得テ居ナイト考フルノデアリマス、仍テ今回改正ヲ機トシテ、田畑ノ地租ニ對シテ相當ノ輕減ヲ行フコトヲ適當デアルト考ヘタルデアリマス、而シテ賃貸價格ヲ課稅標準ト致シマスル場合ニ於ケル地租ノ稅

率ハ、之ヲ二箇年ノ後地租ノ根本的改正ヲ行フトキニ於テ決定致スヨリ外ハナイノデアリマスルガ其稅率ノ定メ方ハ、大體地租ノ總額ヲシテ今回ノ經過的改正ニ因テ低減セラレマシタル結果ノ金額ヲ超過セシメナイヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、第二ニハ、田畑ノ地租ニ免稅點ヲ設ケ、納稅者ガ住所ノ市町村內ニ於テ所有スル田畑ノ地價ニ百圓未滿ナル場合ニ於テハ、其地租ノ免稅點ヲ設ケントスルデアリマス、田畑地租ニ免稅點ヲ設ケントスルノハ、主トシテ地主タル自作農ノ負擔ヲ輕減シ、是ガ維持創設ヲ助成センガ爲デアリマス、此點ニ關シマシテハ、或ハ理論上、同一ノ全國ニ於ケル所有田畑ヲ綜合シテ免稅點ヲ定ムベシトノ説ガアルヤウデアリマスルケレドモ、此説ハ現在ニ於ケル地租徵收ノ實務ニ照シテ實行困難デアリマスルノミナラズ、若シ強テ之ヲ實行セント致シマスレバ、容易ナラザル經費ト手數トヲ要シ、而モ是ガ實益ニ乏シク、事實上得策デナイト認メマシタルガ故ニ、實行論トシテハ市町村ヲ單位トシテ之ヲ決定スルノ外ハナイノデアリマス、而シテ住所市町村分ニ限リ免稅スルコト、致シマシタノハ、住所以外ニ田畑ヲ所有スル者ハ概シテ小農モト認メ且ツ其多クハ小作ニ付シテ居ルモノト認メラル、ガ故デアリマス、其結果小地主ガ個々他町村ニ所有シテ自作ヲ致シテ居リマスル土地ハ免稅セラレナイコト、相成リ、又住所市町村ニ於ケル地價ニ百圓未滿ノ田畑ハ、假令小作ニ付スル場合ニ於テモ尙ホ免稅セラレ、コトガ有リ得ルノデアリマスルケレドモ、是等ハ極メテ例外ノ場合デアルト思ヒマスルノミナラズ、現實自作スルヤ否ヤト云フコトヲ調査致シマシテ、地租ノ課否ヲ決定スルコト云フコトハ、實行上甚ダ困難デアリマスルガ故ニ、多大ノ經費ト手數トヲ要セズ、而モ大體ニ於テ其目的ヲ達スルコトヲ得ベキ簡明ナル方法ヲ採用スルコト云フコトガ、實行ニ重キヲ置クベキ租稅ノ法規トシテハ、最も適當デアルト認メタノデアリマス、尙ホ賃分價格ノ調査完

了後ニ於テハ、賃分價格ヲ標準トシテ適當ニ免稅點ヲ決定スル見込デアリマス、次ニ營業稅ノ廢止及營業收益稅ノ創設ニ付テ說明ヲ致サウト思ヒマス、現行營業稅ノ缺點ニ對シテハ、多年本議場ニ於テモ論議セラレタル所ニ依テ明瞭デアリマスルガ如ク、外形標準ニ依テ課稅ヲ致シマスルガ故ニ、課稅ノ負擔ガ概シテ營業ノ利益ト伴ヒマセヌガ爲ニ、負擔ノ均衡ヲ失スルノ非難ガ高クデアリマス、此缺點ヲ除カンガ爲ニハ區々タル部分の改正ヲ以テ致シマシテハ、到底其目的ヲ達スルコトガ出來マセヌ、結局營業純益ヲ標準トシテ、各納稅者ノ擔稅能力ニ應ジ、適當ナル負擔ヲ課スルノ外ニ、他ニ良策ノナイモノト認メルノデアリマス、而シテ純益ヲ課稅標準トスルコトハ、現行營業稅ノ組織ヲ根本的ニ改革スルモノデアリマスルガ故ニ、寧ろ現行營業稅ハ之ヲ廢止致シ、新ニ營業收益稅ヲ創設スル方ガ適當デアルト考ヘタノデアリマス、營業收益稅ノ要點ヲ舉ゲテ見マスレバ、第一ニ其課稅ノ範圍ハ法人ニ在リマシテハ、原則トシテ營利法人全部ニ課稅ヲ致ス、個人ニ在リテハ大體現行營業稅法ノ課稅業體ニ限定スルコト、致シタノデアリマス、個人ノ課稅業體ハ大體現行營業稅ノ如クスルニ拘ラズ、法人ニ付テハ其業體ヲ限定セズシテ、原則トシテ總テノ營利法人ニ對シテ課稅セント致シマスルノハ、等シク營利ヲ目的トスル法人ノ間ニ於テ、其事業ノ種目ニ依テ營業收益稅ノ課否ヲ異ニスベキ理由ニ乏シ、是ガ爲ニ負擔ノ不均衡ヲ來スバカリデナク、假令其課稅業體ヲ限定スルモノト致シマスレバ、營業收益稅ノ課稅ヲ受ケザル法人ノ利益配當ニ對シテハ、理論上此度新ニ設ケタルベキ所ノ資本利子稅ヲ課セナケレバナラナイノデアリマス、即チ法人事業ノ利益ニ對シマシテハ、何レカノ補完稅ノ負擔ヲ免ル、コトヲ得ナイノデアリマスルガ故ニ、法人ニ於テ課稅業體ヲ限定スルコト云フコトハ、營業收益稅ヲ課スベキデアルカ、將又資本利子稅ヲ課スベキデアルカト云フ、其區分タルニ過ギナイノ

デアリマス、果シテ然ラバ負擔ノ公平ヲ期センガ爲ニ、寧ろ總テノ法人ニ對シテ一律ニ營業收益稅ヲ課スルコトガ相當デアルト考ヘタノデアリマス、加之、課稅業體ヲ限定致シマスルトキハ、課稅營業ト非課稅營業トヲ兼營シテ居ル所ノ法人ノ純益金額ノ計算ニ付テ、頗ル煩雜至極ナル手數ヲ要シマスルノミナラズ、其配當金中非課稅營業ノ分ヲ適當ニ見積リ、之ニ對シテ資本利子稅ヲ徵收スルコト云フコトハ、實行殆ド不可能ナルト申シテ宜シイノデアリマス、以上ノ理由ニ依リマシテ營利法人ニハ原則トシテ、全部營業收益稅ヲ課スルコト、致シタ次第法人ニ在リテハ百分ノ三・六個人ニ在リテハ百分ノ二・八ト致シタノデアリマス、法人ト個人トハ其純益ヲ計算スル所ノ方法ヲ異ニ致シマスルシ、且ツ個人ノ純益中ニハ勤勞ニ依ル所得ヲ包含スル部分ガ、大體ニ於テ法人ヨリモ多イノデアリマスルガ故ニ、個人ハ法人ニ比シテ幾分其稅率ヲ低下スベキ理由ガアリマスルノミナラズ、法人ト個人トノ現在ノ稅額ノ權衡上カヲ考ヘマシテモ、稅率ニ於テ右ノ程度ノ區分ヲ設ケルト云フコトガ、相當デアルト考ヘルノデアリマス、而シテ法人個人ノ全體ヲ通ジマシテ、現行營業稅法ニ依ル稅額ニ對シ、其負擔ヲ相當低減セシムル見込ヲ以テ、此稅率ヲ決定致シタノデアリマス、第三ニハ個人ノ營業ニ付キマシテハ、純益四百圓ヲ以テ免稅點ト致シマシタ、營業收益稅ニ免稅點ヲ設ケマスルノハ、現行營業稅ニ於ケルト同一ノ趣旨ニ出ヅルモノデアリマス、唯、現行營業稅ノ免稅點ハ、外形標準ニ依テ決定メラレテ居リマスルノ反シ、本稅ノ免稅點ハ純益ニ依ルノデアリマスルガ故ニ、其程度ハ必ズシモ一致シナイノデアリマスルガ、田畑地租ニ於ケル免稅點トノ關係等ヲモ考慮致シ、且ツ現行營業稅ニ比シマシテ幾分か其程度ヲ高ムルノ目的ヲ以テ、之ヲ純益四百圓ト定メタノデアリマス、第四ニ營業收益稅ト地租及資本利子稅ノ重複課稅ヲ避クルガ爲ニ營業收益稅中カラ致シマシテ、地租及資本利

子稅額ヲ控除スルコト、致シタノデアリマス、營業收益稅ノ課稅標準タル純益中ニ、土地ノ收益又ハ資本利子ヲ包含スル場合ニ於キマシテ、之ニ對シマシテ何等ノ斟酌ヲ加フルコトナク、營業收益稅ヲ賦課致シマスルトキハ、同一ノ收益ニ對シテ二樣ノ補完稅ヲ課スルコト、ナリマスルノデ、恰モ第一種所得稅ト第二種所得稅トノ重複課稅ヲ避ケタルガ如ク、營業收益稅額中カラ、地租及資本利子稅額ヲ控除スルノガ相當デアルト認メタノデアリマス、但シ個人ノ資本利子ハ營業純益ノ計算上、初メカラ之ヲ除外致シマスルカラ二重課稅ノ問題ヲ生ズルコトハアリマス、故ニ個人營業者ニ付キマシテハ、其營業ニ專用スル所ノ土地ノ地租ノミヲ、營業收益稅額中カラ控除スルコト、致シタノデアリマス、其他純益金額ノ調査決定並ニ申告、徵收方法等ニ關シマスル規定ハ、大體所得稅ニ準ジテ居ルノデアリマス、個人營業ノ純益金額ヲ調査スベキ所ノ調査委員會モ亦本稅ノ爲ニ之ヲ特設スルコトヲ致シマセヌデ、所得調查委員會ニ於テ所得金額ノ調査同時ニ之ヲ調査スルコトト致シ、以テ手數ヲ省略致シマスルト共ニ、兩稅ノ聯絡ニ付テ遺憾ナカラシメンコトヲ期シタノデアリマス、而シテ本稅ハ大正十五年分カラ之ヲ實施スルコトガ困難デアリマスニ依ッテ、其施行期ヲ大正十六年分ヨリト致シ、大正十五年分ノ營業稅ニ付テハ、尙ホ現行ノ營業稅法ニ依ルコトニ致シマシテ、其稅額ノ百分ノ八ヲ免除セントスルノデアリマス、此免除額ハ現行營業稅額ニ對シ、之ニ代ルベキ所ノ營業收益稅額ノ減少スベキ金額ヲ、凡ソノ標準トシテ定メタモノデアリマス、次ニ資本利子稅ノ創設ニ付テ說明ヲ致サウト思ヒマス、今回ノ稅制整理ニ當リマシテハ、我國現下ノ經濟事情ニ照シ、成ベク新稅ノ設定ヲ避クルノ方針ヲ採リタノデアリマスガ、租稅ノ體系ヲ整ヘテ、負擔ノ均衡ヲ圖リ、併セテ一部ノ財源補填ノ方法ト致シマシテ、全體ノ整理計畫上、資本利子稅ヲ新設スルコトト致シタノデアリマス、蓋シ資本所得ニ對

シ一般所得稅ノ外ニ、別ニ補完稅ヲ課スヘキノ理由ニ付テハ、改メテ說明ヲ要シナイ所デアリマシテ、土地及營業ニ對スル補完稅トノ權衡上、公債、社債、其他ノ資本利子ニ對シマシテモ亦一ツノ補完稅ヲ課スルコト、致シ、以テ直接國稅ニ於ケル體系ノ不備ヲ矯正スルト同時ニ、之ニ依テ一面他ノ直接國稅ノ整理ニ依ル所ノ、歲入ノ減收ヲ補填スル所ノ財源ノ一部ニ供セントスルニ在ルノデアリマス、而シテ資本利子稅ノ要點トスル所ハ、第一ニ課稅物件ヲ甲乙ノ二種ニ區分致シマシテ公債、社債、銀行預金ノ利子等、所得稅法ノ第二種ノ所得ニ屬スルモノヲ、甲種ノ資本利子ト致シマス、第三種所得納稅義務者ノ取得ハ營業ニアラザル貸金、預金ノ利子ヲ乙種ノ資本利子ト致シマシテ區分ヲ致シタノデアリマス、甲種ノ資本利子中ニハ無論國債ノ利子ヲモ包含セシメテ居ルノデアリマス、近來國債ノ利子ニ對スル所得稅ノ免除ニ付キマシテ、展、有力ナル反對ノ聲ヲ耳ニ致スノデアリマス、併ナガラ財政ノ現狀ニ照シ、本連ニ從來ノ傳統の特典ヲ奪ヒマシテ、之ニ向テ所得稅ヲ課スルト云フコトガ、國策トシテ果シテ利益デアルヤ否ヤ、慎重ナル考慮ヲ要スル所デアルト思ヒマスルガ、今回創設スベキ所ノ資本利子稅ニ於キマシテ、又々國債ノ利子ヲ除外スルコトハ、他ノ證券ニ對シテ益、負擔ノ均衡ヲ失スルコト、ナリマスルガ故ニ、國債利子ニ對シテハ依然トシテ所得稅ヲ課セザルノ方針ヲ繼續致シマシテ、唯、新ニ設ケラルベキ所ノ補完稅タル資本利子稅ノミヲ課スルコト、致シタノデアリマス、第二ニ資本利子稅ノ稅率ハ、資本利子金額ノ百分ノ二ト致シテ居ルノデアリマス、土地及營業收益稅トノ權衡カラ考ヘマスレバ、本稅ノ稅率百分ノ二ト云フモノハ稍、低キニ失スルノ感ガナイデモアリマセヌケレドモ、現下經濟界ノ狀況ニ鑑ミ、且ツ本稅ガ新稅ト云フ點ヲ斟酌致シマシテ、此程度ニ止ムルノガ穩當デアルト認メタノデアリマス(拍手)第三ニハ課稅ノ方法ハ所得稅ニ準ズルコトニ致シマシ

タ、即チ甲種ノ資本利子ハ第二種所得ト同ジク、利子支拂ノ際ニ徵收シ、乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種所得ト同時ニ所得調査委員會ニ於テ決定セントスルノデアリマス、次ハ相續稅デアリマス、相續稅ノ改正ノ要點ハ、第一ニ免稅點ヲ引上ゲテ家督相續二千圓ヲ五千圓ニスル、遺產相續五百圓ヲ一千圓トスルコト、第二ニハ相當程度以上ノ相續財產ニ對スル稅率ヲ引上ゲマシテ、他ノ直接國稅ノ整理ニ依テ生ズル歲入、減少ノ一部ヲ補填スルコトノ二點デアリマス、増稅ト云フコトハ成ベク之ヲ避ケナケレバナラナイコトハ勿論デアリマス、ミナラズ、殊ニ相續稅ニ於テハ我國古來ノ美風タル家族制度トノ關係ヲ考慮致シマシテ、其稅率ノ引上ハ政府ノ好ム所デハナカ、タノデアリマス、併ナガラ他ノ直接國稅ニ於キマシテ是非共實行シナケレバナラナイ所ノ整理ノ爲ニ生ジタル歲入ノ減少ヲ補填スベキ財源ハ、前ニ說明致シマシタル資本利子稅ノ外ニハドウシテモ之ヲ相續稅ノ引上ニ求メナケレバ、他ニ之ヲ發見スルコトガ出來ナイノデアリマス、且ツ本稅ハ施行以來二回ニ互テ減稅ヲ行ヒマシタル結果、現行ノ稅率ハ創設當時ノ稅率ニ比較テ致シマシテ、著シク低下セラレテ居リマスルガ故ニ、一面ニ於テハ免稅點ヲ引上ゲマシテ、小資產ノ相續ニ對スル負擔ヲ免除シマスト同時ニ、相當程度以上ノ財產ヲ相續致シマシタ場合ノ稅率ヲ幾分引上ゲマスルト云フコトハ、全體ノ整理計畫上カラシテモ、將又今日ノ社會狀態ニ照シテモ、洵ニ已ムヲ得ナイ所デアルト信ズルノデアリマス、尤モ稅率ノ引上ハ納稅者ノ苦痛ヲ增加スベキコト勿論デアリマスルガ故ニ、之ヲ緩和スル趣旨ヲ以テ税金延納期間ヲ相當延長スルコトニ致シタノデアリマス、次ニ綿織物ニ對スル所ノ消費稅ノ免除、通行稅、醬油稅及賣藥稅ノ廢止ニ付テ、極メテ簡單ニ說明ヲ致サウト思ヒマス、綿織物ハ多數國民ノ生活必需品デアリマスルガ故ニ、之ニ對スル消費稅ヲ免除シ、消費者ノ負擔ヲ輕減シタイト考ヘタノデアリマス、尤モ綿

織物必ズシモ悉ク廉價品デハナイト同時ニ、一面綿織物以外ノ織物ノ中ニモ、隨分廉價品ガアルノデアリマスル所カラ、織物ノ一定價格ヲ標準トシテ、其以下ノ廉價品ニ對シテノミ免除スベキデアルト云フ說モナイデハアリマセヌガ、織物價格ハ經濟界ノ狀況ニ應ジテ常ニ變動致シマスルガ故ニ、織物ノ價格ヲ標準トシテ、織物稅ヲ課スベキヤ否ヤト云フコトヲ決定致シマスルコトハ、課稅技術上到底是ハ不可能ノ事柄デアリマス、而シテ我國ノ今日ノ國民生活ノ實況ニ於キマシテハ、綿織物ハ國民一般ニ使用セラレ、殊ニ中產階級以下多數國民ニ取ッテ日常缺クベカラザル重要ナル生活ノ必需品デアリマスルガ故ニ、大體ニ於テ之ヲ他ノ織物ト區別ヲ致シ、綿織物ニ對シテ免稅ヲスルト云フコトハ、社會政策上最モ當ヲ得タルモノデアルト信ズルノデアリマス、次ニ通行稅ハ施行以來長年月ヲ經過致シ、國民ノ久シク慣熟シタル和稅デアリマシテ、納稅者ガ苦痛ヲ感ズルコト少ク、且ツ徵收費ヲ要スルコトモ比較ノ少イノデアリマスルガ故ニ、之ヲ存置スル方ガ宜シイト云フ說モアルヤウデアリマスルガ、斯ノ如キハ畢竟姑息ノ議論デアリマシテ、社會政策上甚ダ不適當ナル和稅デアルト信ズルノデアリマス、其歲入ノ實際ヨリ見マシテモ、稅額ノ大部分ハ電車又ハ汽車ノ三等乘客ノ負擔スルモノデアリマシテ、若シ是等中產階級以下ノ負擔スル部分ヲ免除スルモノト致シマスレバ、財政上全ク本稅ヲ存續スベキ理由ヲ失フノデアリマス、要スルニ通行稅ハ理論上ノ根據ニ乏シク、又實際中上產階級以下多數國民ノ負擔スルモノデアリマスルガ故ニ、單ニ其徵收ガ容易デアルト云フガ如キ、極メテ薄弱ナル理由ヲ以テ之ヲ存置スルコト云フコトハ、和稅制度トシテ甚ダ公正ヲ缺クモノト謂ハナケレバナラヌト思ヒマス(拍手)ノウ(一)併ナガラ通行稅ノ廢止ヲ機會ト致シマシテ、公共團體又ハ民間ニ於テ直ニ其資金ヲ增加スルガ如キコトガアリマシテハ、殆ド本稅ノ廢止ヲ無意義ナラシムルモノデアリマスルカ

ラ、此點ニ付キマシテハ政府ニ於キマシテモ適當ノ方策ヲ講ジマシテ、斯ノ如キ弊害ナカラシメンコトヲ期スル見込デアリマス、次ニ醬油稅ハ國民生活上ノ必需品デアリマスルガ故ニ、之ニ對スル課稅ハ廢スルヲ相當ナリト認メマシテ、醬油造石稅及自家用醬油稅共之ヲ廢スルコトニ致シタノデアリマス、次ニハ賣藥稅デアリマス、賣藥ハ主トシテ僻地ノ住民又ハ貧困ニ致シマシテ、醫師ノ診療ヲ受ケルコトガ出來ナイ者ニ多ク需用セラレルモノデアリマスルカ、社會政策的ノ見地ヨリ賣藥稅ハ之ヲ全廢セントスルモノデアリマス(拍手)而シテ賣藥稅廢止ノ際ニ於テ未ダ消費セラレナイ所ノ賣藥ニ貼附シタル印紙ニ對シテ、其相當額ノ拂戻ヲ爲スベシトノ要求ガアルヤウデアリマスルケレドモ、若シ之ヲ拂戻スコト、致シマシタナラバ、之ニ依ル國庫ノ負擔ハ容易デナイノデアリマス、加之醬油、綿織物等ニシテ、未ダ消費セラレザルモノニ對シテモ亦拂戻ヲ爲スノ必要ヲ生ズルコト、ナラウト思ヒマス、而モ是等ノ物品ハ其既ニ課稅セラレタル物デアリマシテ、到底拂戻ヲ實行スルコトガ不可能デアリマス故ニ、其間若シク均衡ヲ失シ、不公平ナル結果ヲ生ズルノデアリマス、故ニ賣藥稅ニ付テハ拂戻ヲ致サナイコト、致シタノデアリマス、唯、失効シタル賣藥ニシテ廢棄セントスルモノニ付キマシテハ、既ニ現行賣藥稅法ニ於テ、既貼印紙稅額ノ八割又ハ八割五分ヲ新印紙ニ交換スベキ規定ガアルノデアリマス、然ルニ此際賣藥稅ノ廢止ト共ニ此制度ヲモ全然撤廢スルコト、致シマスルコトハ、營業者中非常ニ苦痛ヲ感ズル者ガアルデアラウト云フコトヲ慮リマシテ、失効賣藥ニ對シマシテハ、賣藥稅廢止後二箇年ヲ限リ、既貼印紙稅額ノ五割ニ相當スル金額ヲ交付スルコト、致シタノデアリマス、次ニ酒造稅、酒糟及酒精含有飲料稅、並ニ麥酒稅ノ改正ニ付テ說明ヲ致サウト思ヒマス、以上述ベマシタル諸稅ノ社會政策的整理ニ依ッテ生ズベキ歲入缺陥ノ一部ヲ補填センガ爲

ニ、嗜好飲料ニシテ、比較的税率増徴ノ餘地アリト認メラル所ノ酒類ノ税率ヲ改正スルコト、致シ、先ヅ酒造税ニ付テハ清酒一石三十三圓ヲ四十圓ニ引上ゲ、其他之ニ準ジテ二割程度ノ増率ヲ實行セントスルノデアリマス、但シ沖繩縣ニ於キマシテハ、同縣ノ財界著シク不況デアリマシテ、縣民ガ窮狀ニ陥リテ居ルト云フ特殊ノ事情ニ鑑ミマシテ、當分ノ中從前ノ通りノ税率ニ止メ、縣外ニ移出スル所ノ酒類ニ對シテノミ、出港税トシテ今回ノ増率ニ相當スル課税ヲ行フコト、致シタノデアリマス、尙ホ酒造税法ノ改正ヲ機トシテ、酒造組合ニ對シマシテ、徵稅上必要ナル設備又ハ補助ヲ爲サシメルコトヲ條件トシテ、是等ニ一定ノ交付金ヲ交付スルノ制度ヲ設ケントスルノデアリマス、其交付金ノ額ハ命令ヲ以テ定メル考デアリマシテ、當該酒造組合員ノ製造ニ係ル酒類一石ニ付十錢ヲ交付スル見込デアリマス、此制度ハ現ニ織物消費税ニ付テ之ヲ實行シテ居ルノデアリマシテ、徵稅上官民共ニ頗ル便宜ヲ得テ居リマス、ナラズ、一面酒造組合ノ健全ナル發達ヲ助長シ、醸造業ノ進歩改善ヲ圖ル上ニ於テ、相當ノ效果ガアルコトヲ信ズルノデアリマス、酒造税ノ増率ト同時ニ、酒精及酒精含有飲料税ニ付キマシテモ亦凡ソ二割程度ノ増率ヲ行フコト、致シタノデアリマス、而シテ從來工業用ノ酒精ニ對シテ戻稅ヲ爲スベキ品種ノ範圍ガ稍、狹キニ過ギ工業ノ發達ヲ助長スル上ニ於テ多少ノ遺憾ガアルト考ヘテ居リマス、之ヲ擴張スベキ計畫デアリマシテ、目下尙ホ調査研究中デアリマス、成ベク速ニ適當ナル方法ヲ講ズル見込デアリマス、次ニ麥酒税デアリマス、麥酒モ嗜好飲料デアリマシテ、清酒其他ニ比シ一層増徴ノ餘地ガアルト認メマス、故ニ、約四割ノ増率ヲ行ヒマシテ、其税率一石ニ付キ現在ノ十八圓ヲ二十五圓ニ改メントスルノデアリマス、次ニ骨牌税ニ付キマシテ、明治三十五年本税ノ施行セラレマシテ以來、未ダ一回ノ増稅ヲモ

行、テ居ラナイノデアリマス、爾來一般物價騰貴ノ關係ヨリ之ヲ見マシテモ、相當税率ノ引上ノ理由ガアリマス、ミナラズ、骨牌ノ使用ハ奢侈ノ消費ニ屬スルモノデアリマス、故ニ、今回ノ稅制整理ニ當リマシテ、歲入補填ノ一財源ト致シマシテ、是ガ増徴ヲ計畫ヲ致シ、現行一組二十錢ノ税率ヲ、麻雀ニ付キマシテハ一組三十錢ニ改ムルコト、ニ付キマシテハ一組五十錢ニ改ムルコト、シタノデアリマス、而シテ骨牌ノ製造者ニ課シテ居ル免許料ハ、現今他ノ消費稅ニ於テ其類例ガアリマセヌノミナラズ、其收入モ亦極メテ少額デアリマス、故ニ、此際寧ロ之ヲ廢止スルコトガ適當デアルト認メタノデアリマス、終リニ清涼飲料稅ノ新設ニ付テ說明ヲ致サウト思ヒマス、今回ノ稅制整理ニ當リマシテハ既ニ申述ベマシタルガ如ク、成ルベク新稅ノ創設ヲ避クル方針ヲ執、タノデアリマス、前記酒類ニ對スル税率増徴ト權衡上、就中麥酒ト權衡ヲ保テ、其稅源ヲ權衡スルト同時ニ兼ネテ整理ニ依ル所ノ不足財源ノ一部ヲ補填センガ爲ニ、清涼飲料稅ヲ新設スルコト、シタノデアリマス、清涼飲料ノ範圍ヲ如何ニ定ムベキヤト云フコトニ付キマシテハ、調査考究ヲ重ネマシタル結果、麥酒トノ關係並ニ課稅技術上ノ關係等ヲ考慮致シマシテ、之ヲ炭酸瓦斯ヲ含有スル所ノ飲料ニ限ラタノデアリマス、而シテ玉「ラム」を舉テモ一石ニ付キ十圓、其他ノ録諸ノモノハ一石ニ付キ十圓、舉テ以外ノモノハ總テ炭酸瓦斯ノ使用量ニ應ジテ課稅スルノガ便宜デアルト認メマシテ、一匹ニ付キ三圓ノ税率ヲ課スルコトニ致シタノデアリマス、玉「ラム」を舉テ二付テ特ニ低率ノ課稅ヲ爲シ、舉テ以外ノモノニ稍、高率ナル課稅ヲ致シ、マスノハ、主トシテ其消費者ノ負擔力ヲ考慮シタル結果デアリマス、尙ホ自家用ノ清涼飲料ハ之ヲ課稅外ニ措クコト、致シタノデアリマス、其他尙ホ所得稅ノ改正ニ付キマシテ、大正九年法律第十二號中ニ、地租ノ改正ニ付キ、明治三十七年法律第十二號中ニ、

又醬油稅、賣藥稅ノ廢止及清涼飲料稅ノ新設ニ付キ、大正九年法律第五十一號中ニツレ、適當ナル改正ヲ加フルコト、致シタノデアリマス、最後ニ法律案トハ直接ニ關係ハアリマセヌケレドモ、同ジク稅制整理ノ一部トシテ實行致シマシタル煙草ノ定價引上ニ付テ、此際一言ヲ加フルノ必要ガアルト思フノデアリマス、既ニ申述ベマシタル如ク、今回ノ稅制整理ハ社會政策ノ效果ヲ舉グルコトニ重キヲ置キ（ノウ）直接稅及間接稅ヲ通ジテ、成ベク中產階級以下、多數國民ノ生活上ノ負擔ヲ輕減センガ爲ニ、諸稅ノ改廢ヲ行ハントスルモノデアリマシテ、之ニ依ル所ノ歲入ノ缺陷ヲ補填セシムルコト、嗜好品タル酒類ニ對スル増徴ヲ行ヒマスルト同時ニ、同ジク嗜好品タル煙草ニ付テモ亦相當ノ引上ヲ爲スコトニ決シマシテ、客年十一月七日ヨリ之ヲ施行致シタノデアリマス、彼ノ稅制整理ノ諸法律ノ實施ヲ俟タズシテ、獨リ煙草定價ノ改正ノミヲ施行致シマシタノハ、一旦其計畫ヲ發表シテ是ガ實行ヲ猶豫スルガ如キコトガアリマシテハ、各種ノ弊害續出スベキハ明瞭デアリマス、カ、之ヲ防止致シマスル必要上、先例ニ倣ヒ計畫ノ發表ト同時ニ之ヲ實施致シタノデアリマス（拍手）右ノ改正ハ製造煙草及輸入煙草ノ各品種ヲ通ジマシテ、大體定價ノ一割ヲ標準トシテ引上ヲ行タモノデアリマス、所謂價值ノ關係上、多少此割合ヲ上下スルモノモアリマス、尙ホ社會政策上ノ要求ヲ加味致シマシテ、下級品ニ於テハ、成ベク引上率ヲ低下スルコトニ努メタノデアリマス、以上ハ稅制整理ニ關スル概要ノ說明デアリマス、尙ホ詳細ノ點ニ付キマシテハ、更ニ適當ノ機會ニ於テ說明ヲ致スコトガアラウト考ヘマス、之ヲ要スルニ稅制ノ整理ハ國民負擔ノ狀況ニ照シ、又社會上、經濟上ニ於ケル所ノ將來ノ趨勢ニ稽ヘ、國家ノ爲メ最モ緊切重要ナル問題デアルト思フノデアリマス、願クハ各法律案ニ付テ慎重ニ御審議ヲ盡サレ、速ニ協賛ヲ與ヘラレシコトヲ切望シテ已マザル

次第デアリマス（拍手）
○議長（粕谷義三君） 若槻內務大臣
○國務大臣（若槻禮次郎君） 地方關係法律案ノ提出理由ヲ說明シテ、御協賛ノ場合ノ便宜ニ供セントスルノデアリマス、國運興隆ト地方自治ノ進暢トニ付キマシテ、今ヤ地方財政ハ歲出十三億有餘方圓ノ巨額ニ上テ居リマス、隨テ其負擔モ亦決シテ輕クハナイノデアリマス、即チ政府ハ曩ニ稅制整理ヲ企テマスルヤ、國稅ノ整理ト同時ニ、之ニ對應シテ地方稅制ヲ刷新スルノ必要デアルト認メマシテ、銳意調査ヲ遂ゲタル結果成案ヲ得マシタ故ニ、茲ニ其基本ナルリマス所ノ二ツノ法律案ノ制定及改正ニ關スル提案ヲ致シタ次第デアリマス、今此兩法案ニ付テ逐條ノ二說明ヲ致シマスヨリモ、寧ロ其制定及改正ノ基本デアリマス所ノ、地方稅制整理ノ大綱ヲ申述ベマシタ方ガ、諸君ノ御理解ヲ得ルガ爲ニ最モ便宜デアルト存ジマス、カ、茲ニ其大綱ヲ說明シヤウト思フノデアリマス、第一ハ府縣稅トシテ家屋稅ヲ創設シ、市町村ハ之ニ附加稅ヲ賦課スルコト、致シタノデアリマス、家屋稅ヲ地方稅トシテ創設シマシタノハ、ドウ云フ理由ニ基カト申シマス、之ニ就テ二三ノ理由ヲ申上ゲタイノデアリマス、第一ハ國稅ノ直接稅體系ヲ整備スルニ當リマシテ、一般所得稅ヲ中軸トシテ從來是ガ兩翼ニナシテ居ル、補完稅トシテ存在シテ居リマシタル地租及營業稅ニ改正ヲ加ヘテ、之ヲ存置スルコトニシマシタ外、同ジク一般所得稅ノ補完ヲ目的トシタル資本利子稅ヲ創設致シタノデアリマス、此三稅ト並立致シマシテ、收益稅制ノ一部ヲ組成スベキ家屋稅ハ、既ニ地方ノ一部ニ於テ好箇ノ財源ト致シテ居ルト云フ實情ニ顯ミマシテ、之ヲ地方稅ニ委ネテ國稅トシテ、敢テ創設致シマセナシタガ故ニ、此國稅整理ニ對應致シマシテ、直接國稅ノ體系ヲ補足スル爲ニモ、家屋稅ヲ一般的ニ施行スルノ必要ガアルト認メタノデアリマ

ス、家屋税ヲ設ケテ第二ノ理由ハ、後ニ述
ベマス如ク、府縣稅トシテハ戶數割ハ極メ
テ不適當ナル稅種ト認メラル、ヲ以テ、之ヲ
廢止スルコトニ致シタルノデアリマス、其結
果府縣ニ於テハソレダケ收入ガ減額スル次
第デアリマスカラ、其收入ノ缺陷ヲ補填ス
ベキ適當ノ財源ヲ求ムル必要ガアリマシテ
其必要トシテ家屋稅ヲ求メテ來タノデアリ
マス、第三ノ理由ハ家屋ハ土地營業ト同ジ
ク地方團體ノ施設經營ニ依リマシテ、利益
ヲ享受スルモノデアリニ拘ラズ現行地方稅
ニ於テハ土地營業ニ對シテハ相當ノ課稅ヲ
致シテ居リマスケレドモ、未ダ家屋ニ對シ
テハ、一般ニ課稅スルノ制度ガナイノデア
リマス、即チ應益原則ニ照シテ、地方ニ家
屋稅ヲ創設致シマスコトガ、蓋シ正當ノ處
置デアルト認メタノデアリマス、大體以上
ノ如キ理由ニ依リマシテ、家屋稅ヲ創設ス
ルコトニ致シ、而シテ其課稅標準ハ收益稅
タルノ本質ニ鑑ミマシテ、評定賃賃價格ヲ
以テ課稅標準トスルコトニ致シテ、府縣ニ
家屋稅調查委員ト云フモノヲ拵ヘサセマシ
テ、其調査ニ依ッテ府縣知事ヲシテ決定セ
シムルコトニシタルデアリマス、但シ施行
ノ當初、其實施ノ圓滑ヲ期スル爲ニハ、暫
定的ニ一時市町村ニ對シテ配賦シテ、是ガ
徵收ヲ爲スコトモ許シテアルノデアリマス、
而シテ大正十八年度マデニ家屋賃賃價格ノ
準備調査ヲ完了致シマシテ、配賦稅制度ハ
之ニ依ッテ廢止ヲ致シテ參見込デアリマ
シテ、結局家屋稅徵收ノ見込額ハ約三千万
圓ニナル積リデアリマス、第二ハ戶數割ハ
府縣稅トシテハ之ヲ廢止致シマシテ、市町
村稅トシテ戶數割ヲ創設スル、斯様ニ致シ
タルノデアリマス、此改正ヲ必要トシタル理
由如何ト申シマス云フト、現行戶數割ハ
納稅義務者ノ資力ヲ標準トシテ課稅シテ居
リマスケレドモ、府縣ノ如キ區域ノ廣大ナ
ル團體ニ於テマシテハ、能ク各人ノ資力ヲ個々
ニ付テ調査シテ、公正ナル課稅ヲ爲スコト
ハ、到底不可能デアリマスガ故ニ、現行ノ
制度ニ於テモ戶數割ハ一旦之ヲ市町村ニ配

賦スルコトニシテ居ルノデアリマス、然ル
ニ市町村ニ配賦致シマス結果トシテ、同一
府縣ノ構成分子デアリマス所ノ各個人ハ、
假令同一ノ資力ヲ持ッテ居リマス場合デア
テモ、其居住スル市町村ガ違フテ居リマス
云フト、隨テ負擔額ガ違フト云フヤウナ例
ニナッテ居ルノデアリマス、斯ノ如キハ決シ
テ適正ナル課稅デアルト申スコトハ出來マ
セヌ、ソレ故ニ此際之ヲ廢止スルノガ最モ
適當デアルト認メタノデアリマス、然ルニ
他面、市町村ノヤウナ小團體ニ於キマシテ
ハ、能ク各人ノ資力ヲ調査シテ公正ナル負
擔ヲ爲サシメルコトガ出來ルノデアリマス
ヤウナ廣ガナイノデアリマスカラ、府縣稅
トシテハ戶數割ヲ廢止致シマシタルケレド
モ、市町村稅トシテハ之ヲ存スルコトニ致シ
タ次第デアリマス、而シテ戶數割ノ課稅標
準ハ納稅義務者ノ資力ヲ目安ニスベキコト
從來ト變ルコトハナイノデアリマス、唯、
資力算定ノ標準中ニ、是迄ハ住家ノ坪數
ト云フモノノ入ッテ居リマシタガ、住家坪數
ハ家屋稅トノ關係上、之ヲ除クノガ適當當
アルト認メタノデアリマス、又現ニ家屋稅
施行地デアリマス所ノ市町村ハ、戶數割ガ
市町村稅ニナリマシテモ、戶數割ヲ施行シ
難イ事情ハ依然トシテ從來ト違フコトハナ
イ次第デアリマスカラ、斯ノ如キ市町村ニ
限ッテハ戶數割ニ代ヘテ、家屋稅附加稅ヲ課
スルコトヲ許シマスコトハ、已ムヲ得ナイ
事デアルト認メテ居ルノデアリマス、第三ニ
ハ、府縣稅タル營業稅ハ、雜種稅ノ整理ヲ
行ッタルコトデアリマス、現行府縣稅タル營業
稅、雜種稅中ニハ、往々細民ニ對シテ賦課
スルモノガ少クナイノデアリマス、是ガ整
理ヲ行ヒマスコトハ、社會政策上極メテ緊
要ノ事デアリマス、又其課目ガ徒ニ多岐ニ
互ッテ居リマスガ故ニ、國民負擔ノ關係ヲ明
確ナラシムルガ爲ニモ、亦是ガ整理ヲ爲ス
コトガ頗ル必要デアルト認メマシテ、種目
ノ制限、賦課ノ制限等、總テ府縣稅タル營
業稅、雜種稅ニ整理ヲ加ヘタ次第デアリマ

ス、第四ハ、府縣稅トシテ特別地稅ヲ創設
致シマシテ、市町村ニモ亦其附加稅ヲ課ス
ルコトヲ認メタ事デアリマス、何故ニ特別
地稅ヲ創設シタルカト申シマス云フト、地
租ニ免稅點ヲ設ケマシタル結果、免稅點以下
ノ土地ニ對スル地租附加稅ハ當然消滅致シ
マシテ、ソレガ爲メ地方歲入ニ缺陷ヲ生ズ
ル事ニナルノデアリマス、而モ他ニ之ヲ補
填スベキ好箇ノ財源ガ無イノデアリマス
ラ茲ニ特別地稅ヲ設ケテ其代リト致シタ
次第デアリマス、免稅點以下ノ土地ト雖モ、
他ノ一般土地ト等シク地方公共團體ノ施設
經營ノ利益ヲ享受シテ居ルモノデアリマス
ガ故ニ、所謂應益原則ニ從ヒマシテ、一般土
地ノ地租附加稅ニ代ハル程度マデハ負擔ヲ
爲サシメマスコトガ、寧ロ公正ノ觀念ニ合
致スルモノト申スコトガ出來ルト思フノデ
アリマス、右申上ゲマスヤウナ理由ニ依リ
マシテ特別地稅ヲ創設致シマス同時ニ、
市町村ニ是ガ附加稅ヲ課スルコトヲ認ムル
コトニ致サントシテ居ルノデアリマス、斯
ノ如ク特別地稅ハ地租附加稅ニ代ハルモノ
デアリマスガ故ニ、納稅義務者及課稅標準
ガ、國稅タル地租ト同様デアルベキ事ハ申
上ゲル迄モナイノデアリマス、又其負擔ノ
限度ニ於テモ、之ヲ他ノ一般土地ノ地租附
加稅ト同一程度以下ニ止メナケレバナラヌ
ト思ヒマシテ、左様ニ致シタ次第デアリマ
ス、第五ニハ、地租及營業稅ノ附加稅率ヲ
改正シタルコトデアリマス、國ニ於テ田畑地
租ニ對シ一分減リ行ヒマス、又營業稅ニ對
シテモ亦若干ノ輕減ヲ行ヒマシタルコトニ
依ッテ、此兩國稅ノ附加稅ハ當然ノ結果トシ
テ減收ヲ見ルコトニ、ナル次第デアリマスガ、
諸ソレナラバ地方ノ財政ハ別ニ之ヲ補填セヌ
デモ立行クヤウニナルカト云フト、左様ニ
ハ參ラヌノデアリマス、必ズ之ヲ補填シナ
ケレバナリマセヌガ、補填スベキ他ニ好財
源ガ無イノデアリマス、ソレ故ニ若シ此儘
デ置キマスレバ、結局他ノ地方稅ニ依ッテ之
ヲ補充スルノ外ナイコトニナルノデアリマ
ス、且ツ特ニ此際兩稅ノ輕減ヲ爲サシメナ

ケレバナラヌト云フ理由モナイノデアリマ
スカラ、旁、地租及營業稅ノ納稅者ノ現在
納メテ居ル附加稅負擔ノ程度ヲ變更セナイ
範圍ニ於キマシテ、附加稅率ノ改正ヲ行フ
コト、致シタルデアリマス、第六ニハ、市
町村ノ所得稅附加稅ハ之ヲ府縣ノ方ニ委讓
致シマシテ、原則トシテハ、市町村ニ於テ
ハ所得稅附加稅ヲ廢止スルコト、致シマシ
テ、府縣ノ所得稅附加稅率ヲ引上ゲルコト
ニ致シタルデアリマス、今回府縣ハ戶數割
ヲ廢止スルコトニナリマシタガ、之ヲ廢止
致シマスコトノ結果、府縣稅ノ體系ヲ通觀
致シテ見マスルニ、純然タル人稅ハ所得稅
附加稅ノミニナルノデアリマス、然ルニ所
得稅附加稅ノ稅率ガ餘程低イノデアリマス
カラ、之ヲ相當程度ニ高メマスコトガ府縣
稅ノ體系ヲ整備スル所以デアリマス、即チ
戶數割廢止ノ爲ニ生ジマス歲入缺陷ハ家屋
稅ノ創設ト所得稅附加稅ノ引上ゲト、此二ツ
ノモノヲ以テ補填スルノガ最モ宜シイト認
メマシタカラ、左様ナ方法ニ致シタルデア
リマス、然ルニ他面市町村ニ於キマシテハ
戶數割ノ稅額ガ相當多額ニ上リマシテ、其
相當多額ニ戶數割ガ上ル上ニ、尙又所得稅
ノ附加稅ヲ徵收スルコト云フコトニ致シマス
ト、餘リ人稅ニ偏重スル嫌ガアルノデア
リマス、又府縣ニ於キマシテ戶數割廢止ノ
結果ニ因ル減收補填ノ爲ニ行ヒマス所ノ所
得稅附加稅ノ引上ゲアテ、所得稅納稅者ハ府
縣ノ方デ餘計ニ附加稅ヲ取ラレマスカラ、
ソレヲ緩和スル爲ニハ市町村ノ所得稅附加
稅ハ之ヲ廢メマシテ、其間ノ調和ヲ計ルト
云フ必要ガアリマスガ故ニ、之ヲ府縣ニ委
讓シタル次第デアリマス、唯、是マデ戶數割
ヲ賦課スルコトガ出來ナイ市町村ガアリマ
シテ、左様ナ所ニ於キマシテ、全然所得稅
附加稅ヲ失ハシメマス云フト、其租稅ノ
體系上、又財政ノ經理上不適當ナルコトニ
ナリマスガ故ニ、斯様ナ所ニ於テハ現在ノ
半バ程度ノ附加稅ヲ賦課スルコトヲ許シマ
シタガ、併ナガラソレハ自由ニ賦課スルコ
トハ出來マセヌデ、內務、大藏兩大臣ノ許

可ヲ得テ、初テ左様ナ市町村ニ於テハ輕度ナル所得ノ附加稅ヲ賦課スルコトガ出來ルコトニ致シタノデアリマス、以上大要述べマシタ事項ニ關シテ、規定致シマスガ、惟フニ稅制ノ整備ハ徒ニ空理ニ偏スルコトハ出來マセヌ、サリトテ實際ニノミ泥シテ居ルコトハ亦不可デアリマスルガ故ニ、兩者ノ調和ヲ計ルコトニ付テ格段ノ考慮ヲ加ヘタ次第デアリマス、此整備ノ結果、第一ニ家族稅及其附加稅ヲ創設シ、應益原則ニ從テ地方課稅ノ機會ヲ與ヘマシテ、地租及營業稅ノ附加稅ト相俟テ、地方稅制ニ於ケル物稅ノ體系ヲ整備シタノデアリマス、第二ニハ府縣稅中ノ戶數割ヲ廢止シテ、其人稅體系ノ構成上ニ改善ヲ施シタノデアリマス、第三ニハ市町村稅ノ體系ニ於キマシテ、戶數割ト所得稅ト附加稅ト並立ヲ廢止シマシテ、其人稅組織ノ構造ニ改善ヲ計リマシテ、且ツ人稅偏重ノ程度ヲ緩和シタノデアリマス、之ニ加フルニ義務教育費國庫負擔金ノ増額ニ依リマス所ノ市町村財政ノ餘裕ハ、此機會ニ於テ主トシテ戶數割負擔ノ輕減ニ充當セラル、コトニナルノデアリマスカラ、市町村稅體系ニ於キマス所ノ人稅偏重ノ傾向ハ、一層之ヲ緩和スルコトガ出來ル次第デアリマス、第四ニ營業稅及雜種稅ノ整理ニ依リマシテ、所謂細民稅ヲ廢止シ、地方稅制ノ非社會政策的色彩ヲ除クコトニ致シタノデアリマス、斯ノ如クニシテ地方稅中整理スベキモノハ是ヲ整理シ、廢減スベキモノハ是ガ廢減ヲ斷行シテ、各地方稅間ノ負擔ノ均衡ヲ保持セシムルコトヲ主トシテ茲ニ法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、御審議ノ上ニ御協賛アラント切望シテ已マヌ次第デアリマス

○議長(粕谷義三君) 三土忠造君

(三土忠造君登壇)

○三土忠造君 私人只今議題ニ供セラレマシタル市町村稅地租法案並ニ市町村稅地租法ノ施行ニ關スル法律案、此二法案ニ付キマシテ同志ヲ代表致シマシテ、提案ノ理由

ヲ說明致シタイト存ジマス、此二法案ハ所謂地租委議法案デアリマシテ、我國ノ國稅中最モ古キ歴史ヲ有スル此地租ノ國稅ヨリ外シモシテ、市町村ノ自治團體ニ委讓スルト云フコトハ、頗ル思切テ提案デアリマスルガ、吾々ガ敢テ此提案ヲ致シマスル所以ノモノハ、之ニ依テ稅稅政策上ハ勿論、國民ノ思想上、社會上、將又地方團體ノ完全ナル發達ヲ促ス上ヨリ見マシテ、最モ時宜ニ適シタル方策ナリト確信ニ基クノデアリマス、由來我國ノ政治家ハ國家ノ財政、國家ノ稅制ニ付キマシテハ、相當ニ注意ヲ拂ヒ、絶エズ研究論議セラレマスケレドモ、地方ノ財政、地方ノ稅制ニ付キマシテハ、動モスレバ之ヲ閉却シテ顧ミザル傾向ガアリマスルコトハ、吾々ノ常ニ遺憾ト致シテ居ル所デアリマス、我國ノ府縣市町村ニ於ケル本來ノ事務、事業ナルモノハ、隨分多クアルノデアリマスガ故ニ、國家ノ法律命令ヲ以テ國家ノ事務、國家ノ事業ヲ府縣市町村ノ自治團體ニ限リナク強要致シマスル結果ト致シマシテ、地方自治團體ノ財政ハ年々膨脹致シ、地方ノ負擔ハ極度ニ増加ヲ致シ、是ガ爲ニ負擔ノ均衡公正ヲ失シテ居リマスルコトハ勿論、或ハ社會ノ協調ヲ破リ、自治團體ノ健全ナル發達ヲ阻害シ、甚シキハ地方團體ノ根柢ヲ破壞スル情勢ヲ呈シテ居リマスルコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、吾々ハ夙ニ此情勢ヲ看取致シマシテ、國家ノ深憂實ニ此點ニ在リト考ヘマシテ、セメテハ地方自治團體ノ此窮狀ヲ救ヒ、負擔ヲ輕減致シマスル一助ト致シマシテ、先年教育費國庫負擔ノ提案ヲ致シタノデアリマスルガ、當時憲政會ノ諸君ハ之ニ反對セラレタノデアリマス、然ルニ其後憲政會ノ諸君モ其主張ヲ一變セラレマシテ、吾々ト共ニ教育費國庫負擔ノ増額ヲ提唱スルニ至リマシタコトハ、實ニ國家ノ爲メ欣快至極ニ存ズル次第デアリマス、斯ノ如クニシテ市町村教育費國庫負擔ノ金額ハ増加セラレマシタ、現ニ四千万圓ニ達シテ居リマスルガ、昨年此議會ノ強要

ニ依リマスル本年ノ財政計畫ヲ見マスルト云フト、政府ニ於キマシテモ、更ニ二千万圓増額シテ六千万圓ニ致スコトニナッテ居リマス、洵ニ結構ナ事デアリマスガ、是程マデニ市町村教育費ノ國庫負擔額ヲ増加致シマシテモ、尙ホ之ヲ以テ市町村ノ負擔ヲ輕減シ、而シテ其苦痛ヲ緩和スルニハ十分デナイノデアリマス、過去數年間歷代內閣ノ財政計畫ニ對シマス、政府反對ノ諸君ハ常ニ財政放漫ヲ非難セラレ、或ハ其計畫ヲ杜撰ヲ攻擊セラレ、熱心ニ論議ヲ重ネラレタノデアリマスルケレドモ、吾々ノ見ル所ヲ以テ致シマスレバ、成程國家ノ財政ハ相當膨脹致シテ居リマス、併ナガラ國家ノ財政ノ膨脹ヨリモ、地方財政ノ膨脹ノ方が遙ニ甚シキモノガアルノデアリマス、大正十四年ニ於ケル全國市町村ノ豫算ハ、マダ的確ナル數字ガ手許ニアリマセヌカラ、最近ノ數字ト致シマシテ、大正十三年度ヲ基準ト致シマシテ、十年前ノ大正三年、即チ歐洲戰爭開始ノ年ト、最近ノ大正十三年トヲ比較致シマスルト云フト、國稅ノ方ニ於キマシテハ、大正三年ニハ總額二億四千万圓デアッタノデアリマスガ、ソレガ大正十三年ニ於キマシテハ、七億一千万圓ニ増加致シテ居リマス、此間ニ於テ府縣、市町村、即チ全國自治團體ノ租稅負擔ハ、大正三年ニハ一億九千万圓デアリマシタモノガ、大正十三年ニハ五億八千万圓ノ巨額ニ上ッテ居ルノデアリマス、大正三年ヲ百ト見マシテ其膨脹ノ割合ヲ比較致シテ見マスルト云フト、國稅ノ膨脹率ハ二百八デアリマスルガ、地方稅ノ膨脹率ハ三百五デアリマス、物價騰貴ノ割合ヲ見マスル上云フト、十年前ト大正十三年トハ仰々相場、小賣相場、勞働賃銀等ヲ平均致シマシテ、大正三年ノ百ニ對シテ大正十三年ハ二百五十ト見テ宜シカラウト思フノデアリマス、物價ノ騰貴ヲ尺度ト致シマシテ、國稅地方稅ノ膨脹率ヲ計テ見マスルト云フト、多年反對黨ノ諸君ガ非難攻撃セラレタル國稅膨脹ハ、物價騰貴ノ割合ヨリモ遙カニ以下デアアルノデアリマス、

然ルニ府縣市町村ニ於ケル、地方自治團體ニ於ケル租稅ノ總額ハ物價騰貴ノ割合ヨリモ遙ニ増加致シテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ増加ヲ來シマシタ所以ノモノハ何處ニアルカ、國稅膨脹ノ原因ハ申スマデモナク物價ノ騰貴ト、經濟力ノ發展ニ依リモノデアリマシテ、最近十年來ニ於キマシテハ、御承知ノ通り増稅ヲ致シタモノハ所得稅ト酒造稅トノ二稅ニ過ギマセヌ、而モ此間ニ於キマシテ、營業稅ノ如キハ減稅的改正ヲ致シタノデアリマス、國稅中其他ノ何レノ稅種ヲ取テ見マシテモ、少シモ増稅ハ致シテ居リマセヌガ、唯、經濟力ノ發展、物價ノ騰貴ニ伴ウテ、國家收入ガ増加シタニ過ギナイノデアリマス、然ルニ地方稅ニ於キマシテハ、國稅附加稅、即チ地租、所得稅、營業稅等ノ國稅附加稅ノ増減率ハ、最近ニ於テ高メラレタノデアリマス、其ノ上ニ內務大臣、大藏大臣ノ認可ヲ要スル制限外課稅、此認可方針モ段々ニ寬大ニ取扱ハザルヲ得ナクナッテ參タノヲ、更ニ又都市計畫法ノ如キ特別法ヲ制定致シマシテ、法律ノ結果ニ依ッテ特ニ制限外課稅ヲ許サユウナコトモ行ハレタノデアリマス、斯ノ如クニシテ國稅附加稅ハ非常ナル増稅ニナッテ居リマスルノミナラズ、府縣營業稅、府縣雜種稅、府縣戶數割、家屋稅及其附加稅ニ於キマシテハ、自治團體ノ議決ニ一任サレテ居リマスルガ爲メ、無制限ニ増稅ヲ致シマシテ、所謂増稅ニ次グニ増稅ヲ以テシテ、先刻申サユウナ膨脹ヲ來シタ次第デアリマス、國稅ト地方稅トノ各稅目ニ付テ比較致シテ見マスルト云フト、國稅ノ中ニ於キマシテ、最近十年間物價騰貴ノ割合以上ニ國庫ノ收入ガ増シテ居リマスルモノハ、唯、所得稅ノ一アルノミデアリマス、其他ノ諸稅ハ全部物價騰貴率以下ニ在ルト云フト、何レノ稅種ヲ取テ見マシテモ、一トシテ物價騰貴率以下ニ止ッテ居ルモノハアリマセヌ、例ヘバ地租ニ付テ申シマスルナラバ、地租ハ御承知ノ通り國稅ト

致シマシテハ、十數年以來一定ノ法定ノ地價ニ依リマシテ、一定ノ稅率ヲ課シテ居ルノデアリマシテ、法定地價ニモ稅率ニモ少シモ變化ガアリマセヌ結果ト致シマシテ、國庫ノ收入ト致シマシテハ、一錢一厘モ殖エテ居リマセヌ、十數年前モ國庫ノ收入ハ七千四百萬圓デアリマシタガ、今日モ七千四百萬圓デアリマス、即チ他ノ諸稅ハ經濟ノ發展、物價ノ騰貴ニ伴ウテ、何レモ金額ハ増加致シテ居リマスルニ拘ラズ、單リ地租ノミハ依然トシテ一錢一厘モ増加致シテ居ラヌノデアリマス、然ルニ府縣市町村ニ於ケル附加稅ハ如何カト申シマスルト云フト、大正六年以來七八箇年ノ間ニ附加稅ノ膨脹致シタ金高ノミデモ隨分大キイモノデアリマス、即チ大正六年ニ於キマシテハ、本稅七千四百萬圓ニ對シマシテ、府縣市町村ノ附加稅ガ四千六百萬圓デアッタノデアリマス、然ルニ爾來僅ニ七八箇年ノ間ニ一億二千萬圓ヲ増加シテ居ルノデアリマシテ、即チ大正六年以來七八箇年間ニ増加致シマシタル金額ダケデモ、國稅ノ本稅七千四百萬圓ヨリハ少シ多イノデアリマス、故ニ土地ニ對スル課稅トシテ負擔ノ重課ヲ觀ヘルモノハ國稅ノ本稅ニ非ズシテ、地方稅ノ附加稅ニ在ルコトヲ思ハナケレバナラヌノデアリマス(拍手)更ニ雜種稅ヲ見マスルト云フト、雜種稅ハ大正三年ニハ千七百萬圓デアリマシタモノガ、大正三年ニハ八千九百萬圓ニ上ツテ居ルノデアリマス、即チ五倍以上ノ増稅ニナツテ居ルノデアリマス、而モ此雜種稅中ニハ十數年前ニハ課稅シテ居ラナカタモノニマデ段々掛ツテ參リマシテ、遂ニハ其日々々ノ細キ烟スラ立テ兼ネルヤウナ細民ノ生業ニマデ課稅スルニ至ツテ居ルノデアリマス、斯ノ如クニシテ國稅附加稅ニハ極度ノ増稅ヲ致シ、雜種稅ニハ有ラン限リノ稅種ヲ漁リ盡シ、尙ホ其上足ラザル所ハ全部戶數割、家屋稅及附加稅ニ持ツテ參ル結果ト致シマシテ戶數割、家屋稅及其附加稅ノ總額ハ實ニ二億四千萬圓ヲ超過致シテ居ルノデアリマス、凡ソ法

律上ノ一定ノ規準ナクシテ、自治團體ノ議決ニ依ツテ自由ニ増加セラレマスル所ノ稅種、而シテ如何ナル細民ト雖モ一戸ヲ構ヘテ居リマスル以上ハ必ズ賦課セラルベキ戶數割、家屋稅ノ如キモノガ、租稅ノ中軸大宗タル所得稅及其附加稅ヨリモ多額ノ金額ニ上ルト云フコトハ、吾々政治家ト致シマシテハ看過スルコトノ出來ナイ事實デアリマス(拍手)所得稅及其附加稅ノ總額ハ、大正十三年ニ於キマシテハ一億八千六百萬圓デアリマスルガ、戶數割、家屋稅及其附加稅ハ二億四千萬圓ヲ超エテ居ルノデアリマシテ、即チ租稅ノ中軸大宗タル所得稅ノ本稅及附加稅ヨリモ、此細民ニマデ課稅スル所ノ戶數割、家屋稅ノ總額ガ五千四百萬圓程多イト云フコトデアリマス、吾々稅制ヲ整理スルニ付キマシテハ、最モ考ヘンケレバナラヌ點ハ此點ニ在ルノデアリマス、斯ノ如ク地方稅ナルモノハ如何ナル稅種ヲ取ツテ見マシテモ、總テ租稅ニナツテ居ルノミナラズ、是ガ爲ニ負擔ノ公正ヲ破リ、納稅者ノ苦痛トナリ、思想上恐ルベキ影響ヲ來シ、社會ノ調和ヲ破ラントスル狀況ヲ呈シテ居ルノデアリマシテ、地方稅中一トシテ吾々ノ深キ考慮ヲ要セザルモノハアリマセヌ、此事實ヲ目前ニムザ、ト見マシタ吾等ト致シマシテ、國稅、地方稅ヲ通ジテ一般改正ヲ致シマスル際ニ於キマシテ、國稅ヨリモ地方稅ノ整理ニ最モ重キヲ置カンケレバナラヌト云フコトヲ吾々ガ主張スルノハ、此點ニ在ルノデアリマス(拍手)而シテ地方稅ノ整理ニ付キマシテハ、第一ニ府縣稅タル戶數割、家屋稅ヲ廢止致サンケレバナリマセヌ、是ハ我國ノ地方稅中ニ在リマシテハ最モ負擔ノ不公平ノモノデアリマス、政府ニ於キマシテモ此計畫ヲ立テラレマシテ、只今內務大臣ヨリ御説明ガアッタヤウナ次第デアリマス、第二ニハ府縣營業稅及雜種稅ノ中ニ於キマシテ、細民ノ生業ニ課稅致シテ居リマスルモノハ、成ベク之ヲ廢止致サナケレバナリマセヌ、是亦政府モ相當計畫ヲ立テ、居ルヤウデアリマス、

第三ニハ土地ニ對スル課税、即チ地方ノ附加税ニ於キマシテ相當ノ輕減ヲ加ヘナケレバナリマセヌ、第四ニハ社會政策上ノ見地ニ於キマシテ、戶數割、家屋税ノ附加税ニ於キマシテ、餘程多額ノ輕減ヲ加ヘナケレバナラヌノデアリマス、此四點ニ付キマシテハ、夙ニ原内閣時代ニ於キマシテ、財政經濟調査會ノ審議ニ當リマシテ、吾々其委員ト致シマシテ相當研究調査ヲ遂ゲテ居ルノデアリマス、不幸ニシテ爾來頻々タル政變、彼ノ大震災災ノ爲ニ其遂行ヲ妨ゲラレマシテ、今日ニ及ンダノデアリマス、幸ニシテ現内閣ニ於キマシテ、國稅、地方稅ヲ通ジテ一般の稅制ノ整理ヲ致シマス際ニ於キマシテ、ドウシテモ此地方稅ノ整理ヲ第一ト致シマシテ、提案致サケレバナラヌノデアリマス、諸君、我國ノ自治團體ニ於キマシテ、今日ノ租稅制度ノ下ニ於キマシテハ獨立ノ稅源ガ無イノデアリマス、明治初年ニ於キマシテ抑、自治制ヲ布キマシタル際ニ於キマシテハ、市町村ト云フモノハ手數料、財産收入、其他稅外收入ヲ以テ財源ト致シマシテ、稅收入ハ寧ろ除外スル所ノ方針ヲ以テ定メタヤウデアリマス、此方針ガ今日尙ホ行ハレテ居リマスル結果ト致シマシテ、市町村ニ於キマシテハ是レト云フ獨立ノ稅種ト云フモノハ殆ド無イノデアリマス、又明治王政維新ノ際ニ於キマシテ、舊幕時代ノ極端ナル地方分權ノ制度ヲ打破シ、中央集權ノ制度ヲ確立致シマシタコトハ、當時ノ事情ニ於キマシテ洵ニ當ヲ得タ事デアリマシタ、又明治初年教育モ普及セズ、人智モ從テ發達セズ、國民ガ未ダ自治ノ制ニ慣レテ居リマセヌ時代ニ於キマシテハ、中央政府ニ於キマシテ自治ノ行政ニ對シマシテ保護、干涉、誘掖、指導ヲ必要ト致シマシタコトハ、當時ノ事情上已ムヲ得ヌコトデアリマス、然ルニ今ヤ教育モ普及シ、人智モ進歩シ、通信交通機關モ發達致シ、地方ノ人士モ自治行政事務ニ習熟致シマシタ今日ニ於テモ、明治初年以來ノ中央集權ノ隋勢ガ尙ホ繼續サレテ居リマシ

テ、所謂中央集權ノ餘弊が今日ノ自治團體ノ健全ナル發達ヲ阻害致シテ居ルノデアリマス（拍手）今や大正年間ニ於キマシテ庶政更始一新ヲ必要ト致シマスル機會ニ際會致シマシテ、此場合ニ於キマシテ吾々ハ今日マデノ中央集權ノ餘弊、諸事中央政府ガ干涉致シマスル所ノ此餘弊ヲ脱却致シマシテ、地方分權ノ實ヲ舉ゲ、自治團體ノ健全ナル發達ヲ促シ、人心ヲ作興シテ社會ノ健全ナル發達ヲ遂ゲシメ、之ニ依リテ國家ノ基礎ヲ益、固クスルト云フコトハ、最も吾々ノ考ヘナケレバナラヌ問題デアリマス（拍手）而シテハ吾々ノ是ヨリ執ラントスル所ノ確乎不拔ノ方針デアリマシテ、此方針ニ依リテ、吾々ハ其方針ヨリ出ヅル一大方策ト致シマシテ、地方税制ノ根本整理ヲ提案致スノデアリマス……

〔此時發言スル者多シ〕

○議長（粕谷義三君） 靜肅二

○三土忠造君(續) 而シテ只今申上ダマスル通り、我國ノ地方稅制ヲ整理致シマスルニ付キマシテハ、其根本ハ何處ニ在ルカト申シマスレバ、獨立ノ財源ガナイト云フコトデアリマス、仍テ地方稅制ノ根本整理ヲ致シマスル先決問題ト致シマシテハ、國稅中ヨリ或ル確實ナル稅種ヲ取外シテ、之ヲ地方ニ委讓スルト云フコトガ先決問題デナケレバナラヌノデアリマス(拍手)然ラバ如何ナル稅種ガ之ニ適スルカト申シマスルナラバ、全國如何ナル山間ニ於キマシテモ、如何ナル津々浦々ニ於キマシテモ、到ル所相當ニ徵稅シ得ラル、稅種デナケレバナリマセヌ、即チ普遍的稅種デナケレバナラヌノデアリマス、此條件ヨリ申シマスルト地租ハ最モ之ニ適スルノデアリマス、故ニ吾々ハ地方ニ一ツノ財源ヲ與ヘル、而シテ地方財源ノ基礎ヲ鞏固ニスルト云フ見地ヨリシテ、地租ヲ地方ニ委讓センコトヲ主張スルノデアリマス、即チ之ガ吾々ガ地租ヲ地方ニ委讓スベシト云フコトヲ主張スル第一ノ理由デアリマス(拍手)次ニ國稅ト致シマシテハ、我國ノ國稅中地租ホド負擔ノ

不公平、不正ナルモノハチノデアリマス、此不公平、不正ヲ求メシテ居リマス原因ハ、何處ニ在ルカト申シマス云フ、法定地價ヲ基準トスル點ニ在ルノデアリマシテ、法定地價ハ宅地ヲ除クノ外ハ、明治初年ニ制定致サレマシタガ、其明治初年ニ制定致サレマシタ當時カラシテ、頗ル不正ナルモノデアリマスルガ故ニ、爾來産業ノ發展、經濟ノ膨脹、通信交通機關等ノ發達ニ伴ヒマシテ、土地ノ收益ニ非常ナ變化ヲ來シテ居ルニ拘ラズ、明治初年ニ制定致シタル所ノ地價ニ依リテ課稅サレテ居リマスルガ爲ニ、非常ナ不公平ヲ生ジテ居ルノデアリマス、宅地價ニ付キマシテハ、明治四十三年ニ地價修正ヲ致サレマシタケレドモ、是トモ其當時ニ於テスラ、尙ホ公正ヲ失シテ居リタモノガアリマス、故ニ地價ヲ修正シテ土地ノ負擔ノ公正ヲ保タシムルト云フコトニ付キマシテハ、是マデ議會ニ於キマシテモ、屢、論議サレタ問題デアリマス、一言ニシテ申シマスルト、地價修正ノ叫ハ國會開設以來絶エザル議論デアッタノデアリマス（拍手）然ルニ今日マデ此事ヲ實行スル運ビニ至リマセヌ原因ハ何處ニ在ルカト申シマスルト云フ、全國ノ田畑、宅地、山林、原野、總テヲ通ジマシテ地價修正ヲ致シマスノニハ、非常ナル巨額ノ費ト永イ歲月ヲ要スルノデアリマシテ、到底實行不可能ノ問題デアリマス、政府ニ於キマシテモ今回貸賃價格ニ改メテ、地價廢止ノ計畫ヲ立テ、居ルヤウデアリマスルガ、吾モ此計畫ハ多年主張シテ居ル所デアリマス、故ニ吾々ハ全國ノ租稅ト致シマシテ之ヲヤリマスルヨリモ、地方——市町村ノ如キ狭イ範圍ニ移シテ、サウシテ自治團體ノ能ク實情ニ通ジタル者ヲシテ、此賃賃價格ノ標準ヲ決メサシタナラバ、此ニ於テ初メテ負擔ノ公正ガ期セラレ、而シテ所謂應課稅ノ本旨ニ合セシメルコトガ出來ル、即チ地租ノ負擔ノ公正ニセシメマスル手段トシテ、之ヲ市町村ニ委譲スルト云フコトヲ主張スルノデアリマス、政府ハ賃賃價格ニ之ヲ直

スト云フ計畫デアリマシテ、賃賃價格ニ改メマスルコトハ吾々モ御賛成致シマスルケレドモ、矢張國稅トシテ存置致シマシテ、之ヲ賃賃價格ニ改メルト云フコトハ餘程ムツカシイコトデハナイカト思フノデアリマス、政府ノ御計畫ヲ伺ヒマスルト云フ、僅ニ七百萬圓ノ費用ヲ以テ二箇年間ニ賃賃價格ノ調査決定ヲ致スルト云フノデアリマス、全國田畑、宅地、山林、原野、總テニ互リマシテ、僅ニ二箇年ノ歲月ヲ以テ七百萬圓ノ費用ヲ費シテ賃賃價格ノ調査決定ヲ致シ、負擔ノ公正、均衡ヲ保タシムルト云フガ如キハ、殆ド痴人夢ヲ説クノ類ナリト私共思フノデアリマス（拍手）而モ政府ノ今回ノ計畫ニ依リマスレバ、田畑ニ於キマシテ、地租ハ二千餘萬圓ノ輕減セラレルノデアリマスカラ、殘ル所ハ僅ニ五千二百萬圓ニ過ギナイノデアリマス、五千二百萬圓ニフ少額ノ稅ヲ取リマスル爲ニ、全國ヲ通ジテ土地ノ賃賃價格ヲ調査スル、而シテ是ガ爲ニハ絶エズ費用ヲ要シ、絶エズ手間ヲ要ラルノデアリマスルガ、吾々ハ斯ノ如クシテマデ何ヲ苦シメ地租ノ地方ニ移サズシテ、國稅トシテ存置セシメナケレバナラヌカト云フ、其理由ヲ發見スルニ苦ムノデアリマス、更ニ吾々ガ不可思議ニ思ヒマスルノハ、先刻申上ダマシタ通り、國稅ノ地租ハ十數年來一錢一厘モ増加致シテ居リマセヌ、物價ハ騰貴シ他ノ租稅ハ増徴サレマシテモ、地租ノミハ依然トシテ七千四百萬圓ト云フ金高ニ止マテ居ルノデアリマス、然ルニ此地租本稅ニ對シテ減稅ヲ加ヘルト云フ政府ハ、附加稅ニ對シテ如何ナル方策ヲ執ルカト申シマス、之ニ對シテハ一錢一厘ノ削減モ加ヘヌノデアリマス、只今若槻內務大臣ノ御説明ヲ伺ヒマスルト云フ、政府ガ今回減稅ヲ致シマスル地租本稅ノ輕減ノ結果トシテ、當然地方ノ附加稅ガ輕減サレマスルカラシテ、特ニ法律ヲ改正シテ地方附加稅ノ制限率ヲ引上ダ、免稅セラレマシタル地價二百圓以下ノ田畑ニ對シマシテハ、特別地稅ト云フ法律ヲ設ケマシテ、今日マ

デ取ツテ居ルタケノ附加稅ハ、一錢一厘モ減サズシテ之ヲ取ルト云フノデアリマス、即チ十數年間、少しモ増徴致シテ居リマセヌ、國稅本稅ニ對シマシテ、二千餘萬圓ノ減稅ヲ致シマスル政府ガ、最近七八箇年間ニ増稅致シマスル金高ダケデモ、國稅ノ本稅ヲ超過シテ居ル所ノ府縣、市町村ノ附加稅ニ向テ、一錢一厘ノ輕減ヲ加ヘヌト云フコトハ、吾々如何ニシテモ之ヲ承服スルコトガ出來ヌノデアリマス（拍手）吾々ハ地租ノ負擔ノ過重ヲ慰ヘマスルノハ、國稅ノ本稅ニ非シテ附加稅デアアル、即チ國稅本稅ト附加稅ヲ合シマシテ考ヘマスルト、如何ニモ土地ニ對スル負擔ガ重イノデアリマス、之ヲ輕減スルニアラズンバ農村ノ振興、産業ノ發展ハ圖ラレヌト考ヘルノデアリマス、而モ國稅ト地方稅ト別ニ致シマシテ、地方稅ノ附加稅ノミニ付キマシテ輕減ヲ行フト云フコトハ到底不可能デアリマスルガ故ニ、吾々ハ國稅ノ本稅ヲ地方ニ委譲致シマシテ、今日ノ本稅ト、府縣市町村ノ附加稅トヲ加ヘマシタル其總高ヨリ適當ナル輕減ヲ致サントスルノデアリマス、是ガ吾々ガ地租委讓ヲ唱ヘマスル第三ノ理由デアリマス、更ニ土地ニ對スル負擔ノ輕減ヨリモ一層吾々ガ痛切ニ感ジナケレバナリマセヌモノハ、市町村ニ於ケル戸數割家屋稅ノ附加稅デアリマス、前申上通り府縣市町村ヲ合セマスルト、戶數割家屋稅ノ總額ハ非常ナ金高ニ上ツテ居ル、而モ如何ナル細民ト雖モ一戸ヲ構ヘテ居ル以上ハ負擔シナケレバナラヌ問題デアリマス、此稅ニ向テ輕減ヲ加ヘルト云フコトハ、稅制整理ノ際ニ於キマシテハ、最も吾々ガ注意致サナケレバナラヌ問題デアリマス、此戶數割家屋稅ノ附加稅ノ重キコトガ如何ナル影響ヲ自治團體ニ及ビシテ居ルカト申シマスルト、此重キガ爲ニ——此負擔ノ重キガ爲ニ、全國各市町村ニ於キマシテ祖先傳來ノ家屋數ヲ持テ居ル舊家、財產家ト稱セラルルヤウナ者、主トシテ其町村內ニ於テ附加稅ヲ多ク負擔スルヤウナ人々ハ、此負擔ヲ免カレンガ爲ニ

附近ノ都市ニ移住ヲ致シマシテ、是ガ爲ニ其町村ハ非常ナル納稅者ヲ失ヒマスル結果トシテ、財政ノ破壞セラレ、更ニ其町村ノ中心人物ヲ失ヒマスル爲ニ、自治團體ノ統一ヲ缺イテ、其發達ヲ阻礙シテ居ルト云フヤウナ洵ニ憂フベキ現象ガ全國到處ニ起ツテ居ルノデアリマス（拍手）故ニ吾々ハ稅制整理ヲスルト申シマスレバ、社會政策ノ見地カラ考ヘマシテモ、自治團體ノ健全ナル發達ヲ促スト云フ點カラ考ヘマシテモ、此市町村戶數割ノ附加稅ニ對シテ相當ノ輕減ヲ加ヘルト云フコトハ、當然ノ事ト考ヘルノデアリマス（拍手）發言スル者アリ

○議長（粕谷義三君） 中野君靜ニ御聽キヲ願ヒマス

○三土忠造君（續） 政府ノ地方稅ノ整理ノ計畫ヲ伺ヒマスルト云フ、吾々ノ主張ト同ジク府縣ノ戶數割ハ廢止スルサウデアリマス、先般來世間ニ發表セラレテ居リマシタ所ニ依リマスルト云フ、此戶數割ノ廢止ニ依ル補填ノ財源ト致シマシテ、家屋稅ヲ創設スル、其家屋稅ハ大約千五百萬圓程度ノ家屋稅デアアル、而シテ市町村ニ於キマシテノ附加稅モ同額デアアル、市町村ニ於ケル現在ノ所得稅ノ附加稅ヲ廢止致シマシテ、之ヲ府縣ニ移スト同時ニ、此所得稅ノ附加稅ノ現在額千八百萬圓ト、家屋稅ノ千五百萬圓トヲ以テシテ、其足ラザル所ハ全部之ヲ所得稅ノ附加稅ノ引上ダニ財源ヲ求メルト云フ計畫ニナツテ居リタト私共ハ承ツテ居ッタノデアリマス、然ルニ今日若槻內務大臣ノ御演說ヲ伺ヒマスルト非常ニ變テ居ル、家屋稅ノ本稅ヲ三千萬圓ト致シマシテ、附加稅ヲ是ト同額ニ致スト云フコトデアリマス、即チ新ニ創設致シマスル所ノ家屋稅ハ本稅三千萬圓、附加稅三千萬圓、合セテ六千萬圓ト云フコトデアリマスルガ、是ハ重大問題ト私共考ヘルノデアリマス、（拍手）何ガ故ニ政府ハ最初千五百萬圓ト云ウタモノヲ倍額ニシテ三千萬圓ニ致シタルデアリマスルカ、私共ハ其事情ヲ了解スルニ苦シムノデアリマスルガ、或ハ此所得稅ノ附

加税ノ非常ニ高メマスル結果ト致シマシテ、主トシテ所得稅ヲ多數ニ持ツ所ノ資本家階級ガ非常ニ苦痛ヲ感ズル、或ハ此政府ノ提案ヲ見テ「政府ノ計畫ヲ見テ、有力ナル資本家階級ノ人々ガ反對運動ヲサレマシタ爲ニ、急ニ所得稅ニ依リ計畫ヲ止メマシテ(拍手)サウシテ全國細民ニマデ負擔ノ及ブ所ノ家屋稅ノ増徴ヲ致スト云フ計畫ニ改メタノデアラウト私ハ思ヒマス(拍手)若シ斯様ニ致シマスルナラバ府縣稅タル戶數割廢止、或ハ家屋稅ヲ廢止致シマスルト致シマシテモ、僅ニ五千六百圓デアリマス、然ルニ其代リト致シマシテ本稅デ三千萬圓、附加稅三千萬圓、合セテ六千萬圓ト云フガ如キ巨額ノ家屋稅ヲ起シテ、農村ナドニ於キマシテハ如何ナル細民ト雖モ是ハ負擔シナケレバナリマセヌノデアリマスガ、是ハ稅制整理ノ根本方針ニ反スルノデアリマセヌカ(拍手)吾々モ曩ニ政府ノ提案致シマシタル程度ニ於キマシテハ、租稅ノ體系上カラ申シマシテモ已ムヲ得マセヌコト考ヘマス、殊ニ又吾々ハ府縣戶數割ノ廢止ノ付キマシテハ、多年之ヲ提唱致シテ居ルノデアリマスルガ、之ニ賛成スル以上ハ或程度ノ家屋稅ノ負擔ハ已ムヲ得ヌト考ヘマシタケレドモ、茲ニ創設スル家屋稅ヲ、本稅、附加稅、合セマシテ六千餘萬圓ト云フコトハ、是ハ社會上重大問題ト考ヘルノデアリマス、尙ホ左様ニ致シマシテモ、府縣稅ニ對シマシテハ相當ノ整理計畫ガ立ツノデアリマスルガ、市町村ノ租稅計畫ニ付キマシテハ、何等整理ガ付カヌノデアリマス、寧口前ニ申ス計畫デアリマシタナラバ、政府ノ案ニ依リマシテ、現在ノ市町村ニ於ケル家屋稅、戶數割ノ附加稅ハ輕減セラレザルノミナラズ、却テ増稅セラレ、コトニナルノデアリマスルガ、之ヲ家屋稅ノ増徴ニ求メマシタ結果ト致シマシテ、僅ニ七百萬圓カ或ハ七百五十萬圓位、全國市町村ヲ通ジテ戶數割、家屋稅ノ附加稅ガ輕減サレルコトニナル計算デアリマス、併ナガラ今日ニ於キマシテ最モ負擔ノ苦痛ニ堪ヘマセヌ

所ノ、而シテ最モ非社會政策的の租稅タル戶數割家屋稅ノ總額ハ一億八千四百萬圓ニ達シテ居ルノデアリマス、一億八千四百萬圓ノ中カラシテ、僅ニ七百萬圓若クハ七百五十萬圓位負擔ノ輕減ト云フコトハ、折角ノ稅制整理ノ計畫ト致シマシテハ、洵ニ私ハ不徹底ノモノト考ヘルノデアリマス(拍手)政府ハ或ハ今回計畫サレマシタル教育費ノ國庫負擔額二千萬圓ヲ増額致シマスルカラ、之ニ依リテ市町村ノ負擔ガ輕減サレル、即チ主トシテ戶數割ノ負擔ガ輕減サレルト云フ御考デアリマセウケレドモ教育費ノ國庫負擔額ト云フモノハ、稅制ノ整理トハ全然別箇ノ問題デアリマス、只今ノ狀況ニ於キマシテ全國市町村ハ國庫命ジテ居リマスル法規ノ義務、即チ法規ニ依リテ命ゼラレテ居マス所ノ教育ニ關スル義務ヲ果シ得ナイニ僅ニ二千萬圓位國庫負擔額ヲ増額致シマシテモ、或ハ其大部分ハ教育ノ施設ノ改善擴張ニ用ヒラレテ、負擔ノ輕減ノ結果ヲ見ルコトハナカラウト思フノデアリマス(拍手)故ニ吾々ハ熱心ニ教育費ノ國庫負擔額ノ増額ヲ主張致シマスケレドモ、是ハ全然稅制整理ノ範圍内ニ於テ戶數割、家屋稅ノ附加稅ノ輕減ヲ圖ラナケレバナラヌト思フノデアリマス(拍手)斯様ニ致シマシテ即チ只今最モ重稅ニ苦ンデ居ル、而シテ動、モスレバ自治團體ノ根柢ヲ破壞セントスル所ノ此全國市町村ニ於ケル戶數割、家屋稅ノ附加稅ノ輕減ヲスルガ爲ニ、是亦吾々ハ地租委員ヲ提唱スル所以デアリマス(拍手)即チ地租委員ニ依リテ國稅ノ本稅タル地租ノ負擔ヲ公正ニシ、自治團體ニ確實ナル稅源ヲ與ヘ、土地ニ對スル課稅ヲ輕減シ社會政策的の見地ヨリシテ戶數割家屋稅ノ附加稅ヲ輕減スル、此四ツノ目的ノ爲ニ吾々ハ地租委員ヲ主張スルノデアリマス、斯ノ如クニシテ地租ヲ地方ニ委讓致シマシタル結果ト致シマシテ、始メテ稅制ノ根本的の整理ガ行ハレ、社會政策的の稅制ガ確立セラレ、自治團

體ノ健全ナル發達ヲ促シ、之ニ依リテ始メテ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスルコトガ出來ルノデアリマス、然ラバ地租委員ハ結構デアアルガ、地租ハ現在七千四百萬圓モアル、此全部ヲ國稅ヨリ取外シテ地方ニ委讓スル結果トシテ、國庫ノ收入ニ非常ナル缺陷ヲ生ズル、此缺陷ハ何ヲ以テ補填スルカト云フコトガ最モ重大問題デアリマス、而シテ又此地租委員ニ反對セラレル人々、若クハ地租委員ニ對シテ非常ニ危懼ノ念ヲ懷カレマスル人々ノ議論ハ、主トシテ此點ニ在ルノデアリマス、吾々ハ政府ノ提案セラレマシタル國稅ノ増減廢稅等ニ付キマシテ、他ノ部分ニ付キマシテハ、尙ホ意見ノ決定ヲ留保致シマス、唯、地租ノ關係ニ於キマシテ、吾々ノ主張ト政府案ノ内容トヲ比較致シマシタルコト云フ、政府ノ提案ハ大體ニ於キマシテ二千萬圓程ノ減稅ヲシヤウト云フノデアリマス、吾々ハ七千四百萬圓ノ全部ヲ地方ニ移サウト云フノデアリマスカラ、此間ニ五千二百萬圓ノ相違ヲ生ズルノデアリマス(拍手)然ラバ此五千二百萬圓ノ歲入ノ缺陷ヲ何ヲ以テ補填スルカト云フコトガ、結局問題ニナルノデアリマス、ソコデ第一ニ吾々ガ考ヘマスルノハ、關稅ノ一般改正ニ依リ收入ノ見込デアリマス、政府ニ於キマシテハ此一般關稅ノ改正ヨリ得ル收入ヲ二千萬圓以下ト見積テ居ラレマスガ、吾々ノ見ル所ハ頗ル之ト異ナルモノガアルノデアリマス、我國ノ關稅ハ昨日大藏大臣ガ說明サレマシタ通り、明治四十三年ノ改正ニ係リマシテ、爾來物價ガ騰貴致シテ居リマス、又爾來十六七年ノ間ニ於キマシテ、我國ニ新ニ勃興シタル重要産業ニシテ、保護ヲ要スルモノハ段々出來テ參テ居ルノデアリマス、殊ニ我國ノ關稅ハ、有稅品中、從價稅ニ依リマスモノヨリモ、從量稅ニ依ルモノガ大部分ヲ占メテ居リマスガ、物價騰貴ノ結果トシテ明治四十三年頃ニ制定致シマシタル此從量稅ガ、關稅制定ノ目的ニ副ハザル結果ニナテ居リマスモノガ多々アルノデアリマス、之ガ爲ニ六七年

前ヨリシテ、全國ノ營業者カラ關稅改正ノ要求ガ頻々ト起テ居、タノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスカラ、今日ノ財界ノ狀況、我國ノ經濟ノ發展、其他諸般ノ事情カラ考ヘテ見マシテモ、適當ナル改正ヲ施スニ於キマシテハ、相當ノ收入ヲ生ズルコトハ勿論デアリマス、殊ニ歐洲大戰以來、殊ニ戰後ニ於キマシテハ、世界各國トモ戰後ノ恢復、産業ノ振興ニ維レ日モ足ラザル勢デアリマス、關稅政策ニ付キマシテハ、最モ重キヲ置イテ居リマスノデアリマス、我が帝國ノ産業ノ保護ヲ致シテ、之ガ發展振興ヲ期シマスル爲ニ、歐米諸國ト對抗上、相當ノ關稅政策ヲ講ズルコトハ當然デアリマス(拍手)吾々ハ此見地ヨリ關稅定率法ノ改正ヲ致シマスルト、此改正ニ依リ收入ガ二千萬圓以下ニ留マルト云フガ如キハ、何トシテモ首肯スルコトガ出來ヌノデアリマス、世間ノ一部ニ於キマシテハ、吾々ハ地租委員ノ財源ヲ求メンガ爲ニ、敢テ關稅ノ引上ヲ主張スルガ如ク申サレマス人ガアリマスガ、是ハ洵ニ吾々迷惑千萬ナル誤解デアリマス(現ニヤッテ居ルノデナイカ)ト呼フ者アリ)之ガ分ラヌ人ハ默テ居ラフシヤ

○議長(粕谷義三君) 中野寅吉君ニ注意致シマス

○三土忠造君(續) 吾々ト雖モ國庫收入ノ増加ノ見地ヨリ關稅ノ引上ヲ圖ルト云フコトハ、毛頭考ヘテ居リマセヌ、又世界各國何處ノ政治家ト雖モ、今日ノ時代ニ於テ國庫ノ收入ヲ圖ル爲ニ關稅ノ引上ヲ致スト云フ政治家ハ一人モナカラウト思ヒマス(拍手)唯、國內産業ノ發展振興ヲ期シマスル見地ヨリ、海外諸國ト對抗上カラ考ヘ、關稅政策ノ全般ニ互ニ十分ノ考慮ヲ費シテ、已ムヲ得ズ吾々ハ引上ゲナケレバナラヌモノガ澤山アルト思ヒマス、此見地ヨリ關稅法ノ改正ヲ致シマスルト致シマシテ、吾々ハ少クトモ四千萬圓以上ノ收入ヲ増スト考ヘマス(拍手)言換ヘテ見マシレバ、我國ノ今日ノ産業ノ狀態ニ於テ、一般關稅ノ改正ヲ行ヒマシタ結果ト致シマシテ、四千萬圓

以上ノ收入増加ヲ來スガ如ク關稅改正ヲ行フニアラズンバ、産業振興ノ目的ヲ達スルコトカ出來ナイト考ヘマス(拍手)即チ政府ノ計算ト吾々ノ計算トハ、關稅改正ノ收入ニ於キマシテ二千萬圓以上ノ相違ヲ來シテ居ルノデアリマスカラ、此二千萬圓ハ當然吾々地租委員ノ財源ニ充當スベキモノト考ヘルノデアリマス(拍手)次ニ昨午行政整理ヲ致シ、又其前ヨリシテ軍備縮小ヲ致シ、國庫ニ相當ノ餘裕ヲ生ジテ居ル筈デアリマス、昨年々々デモ六千六百七十萬圓ノ剩餘ヲ來シマシタ、此金ハ今日帝都復興復舊ノ所謂震災善後處分ノ財源ニ充當サレテ居リマスルガ、元來カラ申シマスニ云フト、行政ノ整理、軍備ノ縮小等ニ依リマシテ節約致シマシタ金ハ、全部之ノ減稅ノ財源ニ致シマスルノガ、實ハ國民ニ對スル公約デアリマス、此見地ヨリシマスルナラバ、軍備縮小、行政整理ニ依ル經常歲出ノ節約額ハ、稅制整理ノ財源ト致シテ宜シイノデアリマスケレドモ、不幸ニシテ大震災ノアリマシタ爲ニ其善後財源ヲ要シマスル關係上、其全部ヲ帝都復興復舊ノ財源ニ充當シテ居ルノデアリマス、然ルニ此帝都復興復舊ノ計畫ハ、最早餘ス所三年デアリマス、而シテ三年ノ間、或ハ吾々ハ精密ニ申シマスルト、此地租委員ヲ斷行スルト致シマシテ、勿論大正十五年ハ、全國市町村ニ於キマシテモ、府縣ニ於キマシテモ、歲入ハ要シマセヌ、結局大正十六年カラ實施スレバ宜シイノデアリマスカラ、帝都復興ノ財源モ亦十六、十七ノ二箇年間デ宜シイ、即チ二箇年間僅ニ三千万圓バカリノ帝都復興ノ財源ニ行政整理ニ依テ節約シタルモノヲ充當シテ居ル中ヨリ、三千万圓二箇年合セテ六千万圓ダケノモノヲ稅制整理ノ財源ニ充當シマシテ、其不足額ハ、二箇年ニ亙テ公債募集ニ依テ之ヲ補填スレバ宜シイ云フノガ吾々ノ計畫デアリマス(拍手)而シテ大正十七年ニ於キマシテ帝都復興復舊ノ計畫ガ完成致シマシタ曉ニ於キマシテハ、六千七百八萬圓ノ全部ガ茲ニ不用ニ屬スルノデアリマスカラ、當然ハ減稅ニ向クベキモノデアアル、

固ヨリ其當時ニ於キマシテ國庫財政ノ關係上之ヲ減稅ニ向ケ得ラレルヤ否ヤト云フコトハ、今カラ考ヘラレマセヌケレドモ、其一部ハ總テ減稅ニ向ケ得ルコトハ當然デアアル、而シテ今日國稅、地方稅ヲ通ジテ一般稅制整理ヲスルニ際シテ、此節約シタルモノヨリ一時流用スルト云フコトハ、最も適切當然ノ策デアルト考ヘルノデアリマス(拍手)斯ノ如クニシテ國稅ノ收入ニ依ル財源並ニ帝都復興復舊ノ財源ニ充當スベキ行政整理ノ結果ニ依ル財源、此二三ヲ以テ一時流用致シマシタナラバ地租委員ノ財源ニ窮スルコトナクシテ、之ニ依テ初メテ國稅、地方稅ヲ通ジテ多年ノ問題ヲ解決スルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス(ヒヤヒヤ)拍手、發言スル者多シ

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ

○三土忠造君(續) 尙ホ一二附加ヘテ申サナケレバナリマセヌガ、一ツハ租稅體系上ヨリ來リマスル所ノ地租委員ニ對スル反對論ノ辯駁デアリマス、地租ヲ地方ニ委讓スルト致シマスル中心ト云フト、現在我國ノ直接國稅ハ所得稅ヲ中心トシ、他ノ稅ハ補完稅トシテ出來テ居ルノデアリマス、其中ヨリ地租一ツ外シテ地方ニ委讓致シマスルト、租稅體系ヲ破壞スルト云フコトガ反對論ノ一ツデアリマス、併ナガラ吾々明治初年ノ如ク地方稅ノ總額ガ國稅ノ僅ニ五分ノ一二ニ足ラナカッタ昔ハイザ知ラズ、今日ハ先刻申ス通り地方稅ノ總額ハ國稅總額ノ疊ヲ摩サントシテ居ル勢デアリマス、斯ノ如キ狀態ニ立チ到リテ居ル時代ニ於キマシテ、國稅ト地方稅ヲ以テ截然區別致シマシテ、國稅ハ國稅トシテ租稅ノ體系ヲ保持シメ、地方稅ハ地方稅トシテ租稅ノ別箇ノ體系ヲ保持シムト云フコトハ、頗ルムジカシイコトデアリマス、敢テ學究的理論ニ提ハレテ此截然タル區別ヲ立テヤウト致シマス云フコトハ、極メテ不自然而シテ不公正ナル租稅ガ出來ルノデアリマス、國稅ト言ヒ、地方稅ト言ヒ、便宜上ノ分類ニ過ギナイ、納稅者ヨリ申シマスルナラバ、此間何等ノ區別ハ

ナイノデアリマス、故ニ今日ノ如ク國稅ト地方稅ノ總額ガ殆ド相近キ迄ニ進ンデ參リマシタル時代ニ於キマシテハ、吾々ハ租稅體系ヲ考ヘマス、國稅ト地方稅ヲ通シタ上デ定メルガ宜カラウト思フノデアリマス、即チ茲ニ若シ國稅ハ國稅トシテ別箇ノ體系ヲ立ナラバ、所得稅ヲ中軸トシテ地租、營業稅、資本利子稅、建物稅ト云フガ如キ所謂收益稅ヲ以テ補充稅トスナラバ最も其當ヲ得タモノト考ヘマスケレドモ、政府ノ成案ニ於テモ既ニ家屋稅ハ地方ニ移シテ居ルノデアリマス、濱口大藏大臣ノ說明ニ依ルモ、最早今日ニ於キマシテハ國稅地方稅ヲ通ジテ體系ヲ保持シムル外ハナイト考ヘテ居ラシイノデアリマス、吾々モ全ク同論デアリマス、ソレカラ地租ヲ地方ニ委讓致シマスルト、是ガ爲ニ國民ノ忠君愛國ノ思想ニ影響スルト云フコトヲ考ヘテ居ル極メテ少數ノ人ガアリマス、其意見ヲ伺ヒマスルト、抑々我國ニ於キマシテハ、昔ヨリ普天ノ下率土ノ濱、王土ニ非ザルハナシト云フ觀念ニ基キマシテ、地租ヲ國家ニ納メテ居リマスカラ、若シ之ヲ地方ニ委讓致シマスルト國家ニ對スル觀念ガ變テ來ル、其ガ爲ニ愛國ノ思想ニ影響ヲ及ボスト云フノガ反對論デアリマス、併シハ地租ガ我國ニ於キマシテ唯一ノ租稅デアリ、若クハ最も重要ナル租稅デアリマシタ時分ノ歴史ニ提ハレタル因襲の杞憂ニ過ギナイノデアリマス、今日ニ於キマシテハ御承知ノ通り地租ノ總額ハ國稅ノ總額ノ十分ノ一二ニ足ラナイノデアリマス、而シテ地租ヲ納ムル者モ、他ノ營業稅ヲ納ムル者モ、所得稅ヲ納ムル者モ、苟モ國稅ヲ負擔スル者ハ其間ニ忠君愛國ノ思想ニ於テ何等變リノアルコトヲ吾々ハ認メマセヌ、又國家ト致シマシテモ君主ト致シマシテモ、其間ニ區別ヲ立ツルベキ問題デアリマセヌ、又各國ノ何ヲ見マシテモ、古來地租ヲ國稅トシテ取テ居ラナイ國モアリマス、或ハ國稅トシテ取テ居ラナイ國モアリマス、或ハ國稅トシテ取テ居ラナイ國モアリマス、是ガ爲ニ其國民ノ忠君愛國

ノ思想ニ影響ヲ及ボシタト云フコトハ聞キマセヌ、斯ノ如キハ洵ニ取ルニ足ラヌ議論デアリマスケレドモ、世間ノ一部ニハ斯様ナ議論モアリマスカラ、序ナガラ辯駁ヲ加ヘテ置キマス、以上申述ベマシタ所ニ依リマシテ、吾々地租委員ト云フ思ヒ切タ提案ヲ致シマシタル理由ハ十分ニ御了解下サツタコト、考ヘマス、殊ニ政友本黨ノ諸君ハ吾々ト多年此主張ヲ一ツニ致シマシテ回顧スレバ大正十二年ノ今頃デアリマス、吾々地租委員ノ中心トシテ、國稅、地方稅ヲ通ジテ一般の整理ヲ行フベシト云フ建議案ヲ提出致シマシタ時分ニ只今本黨ノ幹部諸君ハ殆ド皆此提案ニ署名セラレタ人デアリマス、殊ニ本黨ノ總裁床次君ハ當時政友會ノ總務ト致シマシテ、私ト二人デ政友會ヲ代表シテ當時ノ總理大臣加藤友三郎氏ニ接見致シマシテ、而シテ熱心ニ地租委員ヲ唱道セラレタ御方デアリマス(拍手)今日床次總裁ハ政治ノ公明ヲ説カレ、政策本位ヲ高調セラレテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ國民ノ利害休戚ニ關スル重要問題ニ付テ、政黨ノ立場ヲ異ニ致シマスル爲ニ、其主張ヲ二三ニセラル、ガ如キコトハ毛頭ナイト存ジマス(拍手)尙ホ地租委員ニ付キマシテハ、地租ハ申スマデモナク最も古キ歴史ヲ有スル租稅デアリマス、地租條例ヲ中心ト致シマシテ之ニ關聯スル法律命令ハ隨分多イノデアリマス、若シ幸ニシテ諸君ノ御同意ヲ得マシテ吾々ノ提案ガ成立致シマスル時分ニハ、政府ニ於キマシテ之ニ件ヲ法規ノ改廢ハ當然其手續ヲ執ラレルガ宜カラウト思ヒマス、尙ホ吾々ハ地租ノ地方委讓ニ依テ、初メテ稅制ノ根本整理ガ行ハレ、社會政策的ノ諸制度ガ確立セラレ、之ニ由テ人心ノ歸嚮ヲ堅實ニ導キ、社會ノ調和ガ保タレ、而シテ自治團體ノ健全ナル發達ヲ促サントスル吾々ノ深遠ナル理想ヲ實現スル一方策デアルト思ヒマス(拍手)何卒吾々ノ精神ノ在ル所ヲ御了解下サイマシテ、諸君ニ於テ速ニ御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(柏谷義三君) 小川郷太郎君

〔小川郷太郎君登壇〕

○小川郷太郎君 我々同志ニ代リマシテ地租條例中改正法律案、所得稅法中改正法律案、大正九年法律第十二號中改正法律案、明治四十二年法律第七號廢止法律案、市町村義務教育費國庫負擔法中改正法律案ニ關シマシテ、其提出ノ理由ヲ說明致シマス、是等ノ案ハ我々政府本黨ノ稅制整理ニ關スル考ヲ現ハシタ所ノモノデアリマス、我々政府本黨ハ稅制ノ根本整理ヲ希望シテ居ル者デアリマスガ、併シ今日此場合、俄ニ根本整理ヲ企テルコトガ困難デアルト認メタデアリマス、ソコデ應急整理ヲシヤウト云フ考ニナツテ參リマシテ、右ノ様ナ案ヲ提出シタノデアリマス、願ミマスルニ稅制ノ根本整理ト云フコトハ、屢、唱ヘラレマシタケレドモ、財政ノ現狀ニ立脚シテ按排ハシナケレバナラヌ必要上、中々容易ニ行ハレナイデアリマス、大正時代ニ入りマシテモ、大正二年、大正七年、大正九年、大正十二年ト相繼ギテ、諸稅法ノ改正ガアリマシタケレドモ、未ダ以テ根本整理ト云フコトハ出來ナイノデアリマス、併ナガラ此間ニモ段々稅制ヲ改善シテ居ル跡ガ見エルノデアリマス、吾々ハ今日此際ニ於キマシテモ、實際ノ事情ニ鑑ミマシテ、現行制度ニ對シテ大ナル改善ヲ加ヘタイト思フノデアリマス、是レ即チ應急整理ト云フ所以デアリマス、之ニ關聯致シマシテ一言御斷リヲ致シテ置キタイト思ヒマス、只今三土サンカラ、我々政府本黨ノ稅制整理ニ關シテ御批評ガアリマシタ、本黨ハ地租委議ニ付テ賛成シテ居ル筈デアルト云フコトデアリマシタ、吾々ハ地租委議ト云フコトノ根本論ニ付キマシテ反對ヲシテ居ル者デアリマセヌ、三土君モ克ク御承知デアリマセウガ、地租委議建議案ナドガ起リマシタ時分ノ考ハ、丁度臨時財政經濟調査會ニ於テ研究セラレマシタ通りニ、稅制ノ根本整理ヲ企テヤウトシタノデアリマス、其稅制ノ根本整理ヲ企ツルニ付テ、地租委議ト云フ考ガ起

リ、地租ヲ委議シ其代リニ、或ハ一般財産稅ヲ起ストカ、或ハ特別所得稅ヲ起スト云フ案ガ考ヘラレテ居タノデアリマシタ、後ニ一般財産稅ヲ立テルコトニ定マリ、地租委議ト言ヘバ、同時ニ一般財産稅ヲ立テルト云フコトヲ聯想シタ位デアッタ、此二者ハ結び付テ離レナイ考デアッタノデアリマス、然ルニ今日ニ於テハ、地租委議ヲ行フテ、其代リニ一般財産稅ヲ起ストカ、或ハ特別所得稅ヲ立テルコトカ云フコトハ容易ニ行ハレヌ、ソコデ應急整理案ヲ考ヘ出シタノデアリマス、三土君モ其當時ニ於キマシテ、地租委議ヲ說カレテ居ッタガ、其地租委議ニ代ヘテ一般財産稅ヲ起スト云フ考ヲ持テ居ラレタト思フノデアリマス、ソレハ臨時財政經濟調査會ニ於テ吐カレタ三土サンノ意見デアルト聞イテ居ルノデアリマス、然ルニ三土サンハ、今日地租委議論ヲ主張セラレルニ拘ハラズ、一般財産稅ヲ起スト云フコトヲ說カレナイノデアリマス、ソレデハ矢張根本整理論デハ無イ、此點ニ於キマシテ三土サンガ其當時ノ議論ヲ以テ我々總裁ナリ幹部ナリノ態度延テ我々本黨ノ態度ヲ批評セラレルノハ其當ヲ得ナイト思フノデアリマス、(拍手)應急整理ニ致シマシテモ、整理ノ根本的考ハ負擔ノ均衡ヲ計ルト云フコトニ存スルノデアリマス、或ハ社會政策ノ考デアルトカ、或ハ產業政策ノ考デアルトカ、サウ云フ考モ入リマスケレドモ、根本ノ考ハ負擔ノ均衡ヲ計ルト云フコトデアリマス、即チ大ナル資力ヲ持テ居ル者ニハ重キ負擔ヲ命ジ、小ナル資力ヲ持テ居ル者ニハ輕イ負擔ヲ命ズルト云フノガ趣旨デナクテハナラヌノデアリマス、然ルニ我國ノ現行稅制ヲ見マスルト云フト、此趣旨ニ反スルコト極メテ大ナルモノガアリマス(拍手)吾々ハ此稅制ノ不備ニ對シテ之ヲ其儘ニ放任スルコトガ出來ナイト認メタノデアリマス、今吾々ノ整理案ヲ說明スルニ當リマシテ、現行稅制ガ如何ニ負擔ノ均衡ヲ得テ居ラナイカト云フコトヲ簡單ニ說明致シマス、大藏大臣モ御説明ガアリマシ

タガ、現行制度ハ、之ヲ直接國稅ニ就テ申シマスレバ、一般所得稅ヲ中樞トシテ、地租、營業稅ヲ以テ之ヲ補助ト云フ制度ニナラバ、形ノ上ニ於キマシテ重複課稅ノ制度ヲ採ッタノデアリマス、即チ土地ヲ持テ居ルマッ者ハ、地租ヲ拂ヒ且ツ所得稅ヲ拂フノデアリマス、營業ニ資本ヲ投ジテ居リマッ者ハ、營業稅ヲ拂ヒ且ツ所得稅ヲ拂フノデアリマス、即チ此稅制ノ組立ト云フモノハ、形ノ上ニ於テハ重複課稅ニナツテ居ルノデアルガ、サウ云フ風ニ組ミ立テテ、始メテ財產ヲ持テ居ル者即チ資產階級ニ對シ、其力ニ應ジ重キ負擔ヲ掛ケルト云フ趣旨ガ貫徹セラレルノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ此重複課稅其ノモノハ、制度トシテ非難スルコトガ出來ナイノデアアル、地租委議論ニ關聯シテ申シマシテモ、一般所得稅ヲ中樞トシテ、一般財産稅ヲ以テ之ヲ補助ト云フ組ミ立テニスルモノ、亦重複課稅ノ思想ニ歸テ居ルノデアリマス、所ガ日本ノ現行制度ハ、ソレヲ以テ貫イテ居ルカト云フニ、サウデナイノデアリマス、土地ノ營業ニ資本ヲ投ジテ居ル者ハ、今申シマシタ様ナ風ニ二重課稅、重複課稅ニナツテ居リマスガ、モウ一步進ンデ考ヘテ見マスノニ、所謂動產、即チ有價證券や預金等ヲ持テ居ル者ニ對シテハ、サウ云フ風ニ課稅サレテ居ラナイノデアリマス、今日ノ時代ハ、不動產時代カラ段々ト動產時代ニ入ッテ來テ居リマス、有價證券や預金ガ人ノ財產ノ中デ重キヲ爲スニ至ッテ居リマス、而シテ株券ノ配當金ニ對シマシテハ、大正九年ノ所得稅法ノ改正ニ依リマシテ綜合課稅トナツタノデアリマス、即チ第三種所得稅デ之ヲ稅シ、又第一種所得稅デ配當所得稅トシテ之ヲ稅スルノデアリマス、ソレデアリマスカラ是モ形ノ上ニ於テハ二重課稅ニナツテ居ルト謂ヘルカトモ思ヒマス、更ニ一步進ミマシテ社債や銀行預金ニナリマスと云フト、其利子ガ如何ニ大ナリト雖モ、所謂第二種所得稅ヲ以テ唯三回之ヲ稅スルニ過ギ

マセヌ、重複課稅ニナツテ居リマセヌ、地方債ヲ持テ居ル者亦同様デアリマス、唯、一回第二種所得稅デ稅セラレルニ過ギナイノデアリマス、尙ホ進ンデ國債證券ヲ持テ居ル者ヲ見マスと云フト、國債證券ヲ持テ居リマス者ハ、現行稅制ノ下デハ一回モ稅セラレヌノデアリマス、而シテ今日公債證券、社債券ト云フヤウナモノノ額ハ、年々歲々多クナリマシマス、恐ラク九十億圓内外アルダラウト思ヒマス、尤モ國債證券ノ十五億圓ハ海外ニ在リマス、銀行預金ニ至リマシテハ百億圓ヲ突破致シテ居リマス、實ニ大ナル資產デアリマス、然ルニ斯ノ如キ資產ヲ持テ居ル所ノ者ニハ、或ハ一回之ヲ稅シ、或ハ一回モ稅シナイト云フコトハ、如何ニシマシテモ他方二重課稅ヲシテ居ル所ノ制度カラ見マスレバ、大變ナル缺陷デアルト謂ハザルヲ得ナイノデアリマス(同感)ト呼フ者アリ、(拍手)斯ウ云フ現行制度ヲ直スト云フコトハ、一日モ之ヲ緩ウスルコトガ出來ナイノデアリマス、ソコデ我々黨ハ此大缺陷ヲ直ス爲ニ、第二種所得稅ヲ廢シテ其第二種所得稅第三種所得稅綜合課稅ヲスルコト、シ、別ニ資本利子稅ヲ起サウトスルノデアリマス、一體今日ノ第二種所得稅ノ課セラレテ居ル所得、即チ公債、社債、銀行預金ノ利子若クハ信託預金トモ言ハレテ居リマス所ノ貸付信託ノ利益ハ一種ノ動產所得デアリマシテ、他ノ不動產所得、或ハ營業所得、或ハ勤勞所得ト同ジヤウニ、綜合課稅シテ始メテ其人ノ負擔力ヲ見ルベキモノデアルニ拘ラズ、今日ノ制度ハ第二種所得稅トシテ其源泉ニ邁テ其利子ヲ支拂フ時ニ天引課稅スルニ止マツテ居ルノデアリマス、隨テ一般所得稅ノ形ヲ成サナイノデアリマス、即チ其部分部分、其財源ニ邁テ稅スルニ止マツテ居リマス、今日ノ言葉ヲ以テ申シマスルナラバ資本利子稅ニ外ナラヌノデアリマス、ソレデアリマスカラ、現行制度ハ、土地及營業ニ對シテハ、所得稅ト、地租若クハ營業稅ト課セルガ、公債、社

ラウト思ヒマス(拍手)小作爭議ナルモノガ盛デアルニ付テハ之ヲ防ギ止メル所ノ一ツノ防波堤ガ無クテハナラヌノデアリマス、其防波堤ハ何デアルクト言ヘバ、ソレハ自作農デアルト思フノデアリマス、自作農ガアリマシタナラバ、小作爭議ノ起ル餘地ハ無いノデアリマス如何ニ社會問題ガ八釜シクナリ、思想問題ガ險惡ニナリマシテ、革命的氣分ガ滿チマシテモ、農村ニ於キマシテ自作農ガ澤山ニアル以上ハ、少シモ心配スルニ足ラナイノデアリマス(拍手)ソコデ私ハ此自作農ヲ維持決定スル上云フコトハ、實ニ社會問題デアルトカ、農村問題デアルニ止ラズ、實ニ國家ノ大問題デアルト考ヘルノデアリマス(拍手)若シ果シテ然リト致シマスナラバサウ云フヤウナ趣旨ヲ税制整理ノ中ニ之ヲ現ハスト云フコトガ又必要デアルト思フノデアリマス(拍手)是ガ即チ本黨ガ自作農ヲ免租セント強ク主張スル所以デアリマス(拍手)唯自作農ノ限界ガ何處ニアルカト云フコトデ色々ナ反對ガ起ルカカモ知レマセヌガ、吾々ガ茲ニ自作農ト云フノハ、土地ヲ持ツテ居ル者ガ、其人又ハ其家族ガ共ニ耕作スルノヲ意味スルノデアリマス、ソレデ自然ニ其處ニ制限ガ出來テ來ルノデアリマス、吾々ハ法文ノ上デ自作農ト云フモノノ觀念ヲ定メテ居リマス、ソレハ田畑ガ主トシテ其所有者、又ハ之ト世帯ヲ同ジウスル者ニ依テ耕作セラレルトキハソレヲ地租條例ニ於ケル自作農ト見テ、之ニ國稅ノ地租ヲ免租スルト、云フノデアリマス、主トシテト云フ事ニ付キマシテ、色々議論ガ起ルカモ知レマセヌガ、ソレハ既ニ立法例ニアリマス、衆議院議員選舉法ニ中ニモ——普選法デハアリマセヌガ請負人ニ關聯致シマシテ、「主トシテ」ト云フ文字ガ使テアリマス、是ハ立法例ニ無イ事デハアリマセヌ、日本ノ今日ノ統計ニ依テ見マスルト、凡ソ一世帯ト云フモノハ五人程ヲ以テ平均ト致シテ居リマス、ソレデアリマスカラシテ、其者ガ主トナリテ耕作スルト云フ田畑ハ、自然ニ限界ガ出來テ居ルノデアリマス、此限界ガ其土地、其所、其人

ニ丁度適應スルコトニナツテ來マスノデ、最モ非難ノ無イ限界デアルト思フノデアリマス(拍手)或ハ之ヲ反別ニ限リ、或ハ政府案ノ如ク地價ニ限ルト云フコトニナリマス、地方地方ニ於キマシテ自作農ニ非ザル者ヲ免租スルト云フヤウナ事モ起テ來マス(拍手)吾々ノ考ハ自作農ヲ免租スルト云フノデアリマス、自作農ヲ免租シ維持スルト云フ大策ノ上ニ立ツテ、稅制ヲ整理シヤウトスル者デアリマス(拍手)是ガ吾々ノ主張シマス所ノ一番中心ノ考デアリマス、ソレデ大體提案ノ趣旨ヲ説明致シマシタ——只今提案ト申上ダマシタノハ租稅法ニ關スル提案デアリマスガ、一言ヲ加ヘナケレバナラヌコトハ、斯ウ云フ風ニ稅法ヲ變ヘテ來マスト云フト、增收ヲ生ズルノデアリマス、少クとも第二種所得ヲ第三種所得ニ綜合課稅スルト云フ事ニ付テ、相當ノ收入ヲ増シテ來ルノデアリマス、ソレト申シマスノハ、第一法人所得稅ノ中ニ國債ノ利子ヲ含メテ課稅スルト云フコトニナリマスカラ、茲ニ一ノ增收ガ出來テ來ルノデアリマス、第二種所得ニ屬スルモノヲ第三種所得ニ綜合課稅スレバ、即チ累進課稅ガ課シテ來ルノデアリマスカラシテ、收入ガ増サレノデアアル、勿論或モノハ免稅セラレモノガ出來テ來マセウケレドモ、富豪ガ銀行ノ預金ヤ、公債社債ヲ持テ居リマス時分ニハ、累進稅率ガ適用セラレルノデ、大ナル收入ヲ齎スコトニナルト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ理由デ本黨ノ稅制整理案ハ大ナル增收ヲ生ジマス、或ハ之ニ反對スル者ハ、此案ニ依リマスト云フト、無記名債券ナドハ之ヲ捕捉スルコトガ出來ナイ、之ヲ捉ヘルコトガ出來ナイ、脫稅ガ多ク起ルデアラウ、却テ減收ヲ生ズルデアラウト云フ、サウ云フ論ガ起ルカ知レマセウケ、私ハサウデナイト思ヒマス、今日現行稅法ニ於キマシテモ、株券ニ關シテハ無記名株券ガアル譯デアリマス、其無記名株券ヲ押ヘル途ガ附イテ居リマス、即チ配當金ヲ支拂フ時ニ於キマシテ、其持主ガ何人デアアルカヲ

押ヘルノデアリマス、是ト同様ニ無記名社債、無記名公債ト云フモノヲ持テ居ル者ニ付キ、其利子ヲ支拂フ場合ニ於テ之ヲ押ヘレバ、少シモ不都合ハナイノデアリマス、況ヤ此公債社債ヲ持テ居リマス者ガ、天下ノ大金持デアルト致シマシタ時分ニ、其大金持ガ悉ク斯ウ云フ利子ヲ隱シテ胡麻化シテシマフト云フコトハ、斯ジテ出來ナイコトデアアルト私ハ信ズル者デアリマス、サウ云フ風ニ致シマシテ此增收ガ起リマス、其增收ガ如何ニ處置シタナラバ、一番此稅制整理ノ精神ニ副フカト云ヒマスナラバ、ソレハ市町村義務教育費國庫負擔金額ヲ増スニ如クモノハナイト信ズルモノデアリマス、此稅制整理ニ依テ生ジタ處ノ金ヲ、地方小學校ニ分配スルト云フコトニナリマスレバ、或ハ戶數制或ハ地租ノ附加稅、其ノ他色ノ附加稅ヲ免ズルコトガ出來マス、國民一般ガ之ニ依テ負擔ノ輕減ヲ感ズルノデアリマス、尙ホ市町村義務教育費ト云フモノハ年々増シマスカラシテ、義務教育ノ改善ヲ圖ル必要ガアリマス、ソコデ其餘ノ金ヲ以テ小學校義務教育費國庫負擔金ヲ増シテ、一ハ以テ負擔ノ輕減ニ資シ、一ハ以テ義務教育ノ改善ヲ圖ラントスルノデアリマス、是ガ我黨ガ市町村義務教育費國庫負擔金額ノ増額ヲ提案シタ所以デアリマス、今日マデ四千萬圓デアルノヲ八千万圓トスル譯デアリマス(拍手)斯ノ如ク按配シテ來マス、或ハ稅制ノ根本整理ト云フコトハ出來ナイカ知レマセウケレドモ、併シ現行制度ノ大ナル缺陷ヲ直シマシテ、サウシテ國民ノ負擔ノ均衡ヲ圖ルコトニ於キマシテ、若シキ進步ヲ來スモノデアルト考ヘルノデアリマス(拍手)是ガ應急整理ト致シマシテ最モ非難スルコトノ出來ナイ、當ニ今日ニ於テ實行セナケレバナラヌモノデアルト信ズルノデアリマス(拍手)是ガ我黨ノ斯ノ如キ案ヲ提出シタ所以デアリマス、簡單ニ其理由ヲ説明シテ置キマス、尙ホ詳シイコトハ、何レ委員會ガ開カレマセウカラ委員會ノ席上デ説明モシ質問ニモ答ヘタイ

ト思ヒマス(拍手)
○議長(粕谷義三君) 是ニテ各案ニ對スル趣旨辯明ヲ終リマシタ、是ヨリ質疑ニ入ルベキデデアリマスガ、此場合議事進行ニ關スル發言ヲ求メラレテ居リマス、武藤金吉君
〔武藤金吉君登壇〕
○武藤金吉君 議事進行ニ付テ一言致シマス、去ル二十一日稅制整理ノ問題ニ付テ演口、若槻兩國務大臣ノ答辯ヲ願フ積リデフタ所、兩君共僅ニ五六項ニ互フテ答辯サレ、何レ速記録ヲ見テ答辯ヲサレルト云フコトデアリマシタ、勿論質問ノ要項ハ三十數項ニ互フテ居リマスルシ、悉ク其要領ガ揭ゲテアルノデアリマスシ、速記ニ出テ四五日、間ガアリマスカラ定メシ、之ニ對シマシテ御用意ノアルコト、思ヒマスカラ、此機會ニ御約束ノ通り、私ノ質疑ニ對シテ要領タケ御答辯アラントヲ議長ヲ通ジテ要求致シマス
○議長(粕谷義三君) 濱口大藏大臣
〔國務大臣濱口雄幸君登壇〕
○國務大臣(濱口雄幸君) 只今武藤君ノ御要求デアリマスガ、二十一日ノ稅制整理ニ關スル同君ノ御質問ハ、只今御話ニナリマシタ通り非常ニ多岐多端ニ互フテ居リマシタノデアリマス、隨テ當時明ニ御斷リヲ申シテ置キマシタ通り、其中ノ大綱ニ關スルト認メラレモノニ付テハ私全部此處デ御答ヲ致シマシタ、其他ノ細目ニ關スルモノニ付テハ篇ト速記録ヲ拜見致シタ上委員會ニ於テ私及政府委員ヨリ詳細御説明申上ダマスト明瞭ニ申上ダテ置イタ積リデアリマス、仍テ委員會ニ於テ御答致シマス
○議長(粕谷義三君) 是ヨリ各案ニ對スル質疑ヲ許シマス、大口喜六君
〔大口喜六君登壇〕
○大口喜六君 此際政府ノ提案ニ係リマスル稅制諸案ニ對シマシテ質問ヲ致シタイト存ジマス、勿論細カイコトハ委員會ニ於テ伺フベキ答デアリマスガ故ニ、此際私ハ緊要ナル事項ト認メラル、數箇條ニ對シテ質問ヲ致シタイノデアリマス、先日總理

大臣ノ御演說並ニ大藏大臣ノ財政演說、又今日大藏大臣並ニ內務大臣ヨリ詳シク御説明ガアリマシタ所ニ依テ吾々考ヘマスルト、今回政府ガ出サレマシタ所ノ此稅制ノ改正諸案ト云フモノノ骨子ハ、先ヅ第一ニ我國ノ租稅ノ現狀ニ於テハ減稅ヲ行フ所ノ餘裕ナキヲ以テ、今回ノ整理ハ歲入ニ著シキ増減ヲ起サシメナイト云フコトヲ第一ノ條件トシテ居ラレルノデアアル、ソコデ第二ノ條件トシテドウナツテ居ルカト云ヘバ、其範圍ニ於テ我ガ國民負擔ノ衡平ヲ期スル、我國稅制度ヲ一般ニ整理シテ、國民負擔ノ均衡ヲ圖リ、社會政策ノ見地ニ立ツテ、此整理ヲ致シ、事業ノ基礎ヲ鞏固ニスル、產業ノ伸張ヲ圖ル、
〔粕谷議長議長席ヲ退キ小泉副議長代リ著席〕
斯ウ云フ條件ガ充サレテ居ルノデアリマス是ニ於テ私ハ疑問ガ起ルノデアアル、サウ云フ都合ノ好イコトガ出來レバ洵ニ結構デアルノデアリマス、是ハ私ハ殆ド不可能ノコトデアルト最初カラ考ヘテ居ル、何故デアルカト云ヘバ、既ニ政府ガ現在行ハレテ居ル所ノ總テノ稅制諸案ノ中ニ均衡ヲ得ナイ所ガアリ、國民ニ宜シクナイ所ガアルト云フコトヲ御信ジニナレバコソ、此御改正ヲ爲サル、ノデアアル、隨テ惡イ所ガアツテ之ヲ改メヤウト思ヘバ、ソレヲ廢スルヨリ外ニ仕方ガナイ、是ガ他ノ事デアリマスレバ、成程惡イ事ヲ廢シテ善イ事ヲヤレバ宜シイ譯デアリマスガ、稅ノコトハ言フマデモナク金ノ問題デアリマス、ソレ故ニ惡イ稅ヲ廢メテ金ヲ減ラシ、而シテ一方ニ於テ收入ニ増減ヲセシメナイト云フ前提ガアルトスレバ、ドウシテモ廢シタモノニ代ヘル何カ又取ルコトヲ起サナケレバナラヌ、國民ハ取ラレ、バ矢張宜シクナイ、國民ノ喜ブ所ノ稅ト云フモノハ私ハアル道理ハナイト思フノデアリマス、ソコデ果セルカナ政府ハドウデアアルカト云ヘバ、一面ニ社會政策行ヒ、事業ノ伸張ヲ圖ルト稱シテ、種々ナ稅ノ改廢ヲ行フテ居ルガ、一面ニ於テハ先刻

モ言ハレル通り煙草ノ値上ヲ致シ、清涼飲料稅ヲ新ニ起シ、其外酒稅ヲ増ス、斯ウ云フコトヲ致シテ居ラレル、ソコデ政府ハドウ説明シテ居ルカト云フト、御自分ノ都合ノ好イコトダケハ立派ニ言フテ居ラレル、即チ收入ニ増減ヲナカシムルト云フコトハ明ニ言フテ居ラレル社會政策ヲ行フト云フヤウナコトハ長々ト效能ヲ並べ立テラレテ居ルガ、増稅ヲシタリ、新ニ稅ヲ起シタコトニ付テハ、果シテ社會政策上善イカ惡イカ、説明ヲシテ居ラナイノデアル(拍手)ソコデ吾々ハ丁度譬ヘテ云フト、恰モ一方ノ手ニ於テ頭ヲ撫デテ喜バセテ置イテ、一方ノ手デ毆ルト同ジ遣方デアル、頭ヲ撫デタ方ノコトダケハ非常ニ喜バシテ、貴様ヲ可愛ガルゾト頻ニ言ハレルガ、毆タ方ハ已ムヲ得ズ毆タ、是デハ決シテ眞ニ彼ヲ愛スルト云フコトハ分ラヌト同ジコトデアル(拍手)ソレ故吾々ハ社會政策ヲ政府ガ行フタト云フコトヲ言ハレルト同時ニ、一方ニ於テ煙草ノ値上ヲシ、或ハ酒ノ稅ヲ増ス、或ハ清涼飲料水ノ稅ヲ新ニ起ス、是ガ果シテ社會政策ニナルカテラナイカ、此事ヲ、明ニ説明セラレテ、雙方差引イテ比較對照シテ研究シテ見ナケレバ、決シテ政府ノ眞ノコトハ分ラヌノデアル、ソレデ廢メラレタ善イ事ヨリモ、新ニヤラレタ事ノ方ガ寧ロ社會政策上惡イト云フコトナラバ、政府ハ却テ改惡ヲ行フタト云フコトニナルノデアル(拍手)ソレ故ニ此御説明ト云フモノヲ十分ニ吾々ハ得ナケレバ、ドウシテモ是ハ承服ヲスルコトガ出來ナイ、ソレデ此事ニ對シテ十分ナル吾々ハ御説明ヲ願ヒタイ、即チ酒ノ稅ハドウデアルカ、酒ノ稅ヲ増サレテ居ルノデアルガ、此頃吾々ノ同志デアル所ノ山本第二郎君ヨリ御質問ニナツタ通り、山本君ノ言ハレルニ何故酒ノ稅ハ從價稅ニシナイカ、之ニ對シテ大藏大臣ハ明ニ言フテ居ラレル、出來得ルナラバ從價稅ニシタイ、ソレガ宜イ、唯、徵稅技術上困難カラソレヲヤラナイト云フ意味ノ御答ガアツタ、成程政府ハ從價稅ハ決ンテ宜シキモノニ非ズ、衡平ナル

モノニ非ズト云フコトヲ既ニ認メテ居ラレル、是ハドウシテモ出來ルナラバ從價稅ニシナクテハ衡平デナイト云フコトヲ政府ハ信ジテ居ラレル、唯、技術上ノ關係デ是ガ出來ナイトシタナラバ、現在ノ儲蓄置カレレバ宜シイノデアルガ、之ヲ更ニ増稅セラレルト云フコトハ、不公平ヲ大ナラシメテ居ルト云フコトガ明瞭デアル、是ハ政府自ラ自問自答、明瞭デアル、諸君御覽ニナレバ明カニ分ル、酒ノ稅ハドウデアル、高價ノ酒ヲ飲ム人ハ上流ノ階級ノ人、安イ酒ヲノヤウナモノヲ飲ム者ハ誠ニ失禮ナコトカ知ラヌガ、比較的財產ノナイ、所謂細民階級ノ人デアルト云フコトハ明瞭デアル、之ヲ同ジヤウナ増稅ヲシテ一石七圓ト云フヤウナコトニ致セバ、是ハドウシタツテ酒ノ稅ハ上ル、上レバ上ノ人ヨリモ、寧ロ低イ人ノ方ニ高イ酒ヲ飲マセルコトニナルノデアルカラ、此位社會政策ニナラナイモノハナイト云フコトハ誠ニ明瞭デアル、是ガ社會政策ナルト云フ説明ガ政府ニ出來得ネバ、餘リ御自慢ハ出來ナイコトニナル、ソレカラ煙草ノ値上デモ其通り、嗜好品デアルト云ハレルガ、嗜好品カモ知レナイケレドモ、凡ソ日本全國デ煙草ヲ喫マナイ人ガドレダケアルカ、或ハ喫マナイ人モアルカ知ラヌガ、喫ム人多イ、日本ニ於ケル政府ノ收入ノ極メテ多イ所ヲ見レバ、煙草ヲ喫ム人ガ極メテ多イト云フコトヲ斷定シナケレバナラヌ、酒ノ稅ガ二億幾ラ、煙草ガ二億四千萬ニナル、此位多イ稅ハ他ニナイ、所得稅ヨリモ何ヨリモ多イ、シテ見レバ誠ニ煙草ヲ喫ム人ガ國民中ニ多イト見ナケレバナラヌ、如何ナル細民デアルテモ、低イ人デモ、寒村僻邑ニ居ル者デアルテモ、煙草ト云フモノハ喫ム、之ヲ値上ヲサレテ、一般ノ國民ガ煙草ヲ止メル譯ニ行カナイトスレバ、矢張高イ稅ヲ拂ハナケレバナラヌ、或ハ通行稅ヲ減ゼラレタ所ガ山間僻地ニ居ル者ハ一年ニドレダケ汽車ヲ使フカ、是モ社會政策ニナルナラバ通行稅ノ廢止モ宜カラウ、社會政策ニナラナイト吾々ハ言ハヌ

ケレドモ、同時ニ煙草ノ値上ヲスルト云フコトハ、吾々ハ寧ロ社會政策ニ反シタルモノデアルト思フノデアル、ソレカラ清涼飲料稅ニシタ所ガ其通り、清涼飲料水ト云フモノヲ只今麥酒ニ比較シテ御話ニナツタ、是ハ誠ニ私ハ諒解ニ苦ム、麥酒デアルトカ、日本酒デアルト云フモノハ言フマデモナク「アルコール」ヲ含シテ居ルモノ、人ニ醉ヲ催サシメルモノデアル、ソレデアルカラ之ニ對シテ相當ノ稅ヲ課スルトハ一般ノ認メル所ニナツテ居ルノデアルガ、清涼飲料水ニハ「アルコール」ト云フモノハ絕對ニナイ唯、炭酸瓦斯ヲ含シテ居ルト云フモノヲ以テ議論ヲサレル、炭酸瓦斯ト「アルコール」トハ是ハマルデ違フモノデ、殆ド正反對ノ效果ヲ人身ニ及ボス所ノモノデアル、炭酸、瓦斯ハ始終飲メバ胃ヲ健カニシ、先年モ金杉博士ガ此演壇ニ於テ屢、論ジラレタノデアルガ、是ハ極メテ賢識ヲ善クスル所ノ藥ニナル、是ハ事實デアル、吾々ガ言フノデナリ、是ハ金杉英五郎君ガ此席ニ於テ明瞭ニ論ジテ居ラレル所ノ事柄デアル、吾々モ之ヲ信ジテ居ル清涼飲料水ノ如キモノハ寧ロ保健衛生ノ上カラ人ニ勸メベキ所ノモノニ相成テ居ル、一方内務省ナドノ方カラ見て、保健衛生カラ言ヘバ、是ハ何處迄モ獎勵シテ宜イ所ノモノデアル、「アルコール」ヲ含シテ居ル所ノ麥酒ト之ヲ同ジニ見ルト云フコトハ私ハ抑、見方ガ誤テ居ルト思フ、此清涼飲料水ニ稅ヲ掛ケルト云フコトガ、ドウシテ社會政策ニナルノデアラウカ、又ドウシテ國家産業ノ發展ノ爲ニナルノデアアルカ、之ヲ詳シク説明サレズシテ、自分ノヤッタコトダケハ産業ノ基礎ヲ鞏固ニシ、或ハ之ニ依テ國家ノ伸張ヲ圖リ、社會政策云々ト云ハレルガ、一面大キナ穴ノ空イテ居ル所ニ御氣ガ著カレヌヤウデアル、是ハ如何ニト問ヘバ、今言フ通り是ハ國家ノ財政上誠ニ已ムヲ得ザルコトデ遺憾デアル、コンナコトデ此議場ヲ理窟デ通スコトハ出來ルカモ知レマセヌガ、決シテ我ガ日本帝國ノ國民ハ左様ナ事デ承服ス

ルモノデナイ(拍手)ソレデアリマスルガ故ニ、斯ノ如ク種々ノ問題ニ對シマシテハ、此増稅ヲサレ、或ハ新ニ起サレタモノガ、ドレダケ國家ノ爲ニ相成ルカ、ソレト差引勘定如何様ナ利益ガアルカト云フコトヲ、詳シク此所デ御説明ニ相成ラナケレバ、到底吾々ノ疑問ハ霽レナイノデアル、此點ニ對シテ私ハ先ヅ政府ニ質問ヲ致ス次第デアリマス、次ニ私ガ政府ニ向テ質問ヲ致シタイノハ、地租ノ免稅點ノコトデアリマス、只今モ御説明ヲ承リマスト云フト、今回地租條例ヲ改正サレテ、地租ニ免稅點ヲ置カレル、ドウ云フ風ニ置カレルカト云フト、其土地ヲ所有シテ居ル人ガ住居シテ居ル、居住シテ居ル所ノ町村ニ持テ居ルダケノ土地ニ對シテ、二百圓以下ノ地價ハ免稅ヲサレル、斯ウ云フコトデアル、サウ云フ場合ニナルト、例ヘバ自分ガ住ンデ居ル所ノ村ニハ二百圓以上ノ地價ヲ持テ居ルガ、他ノ町村ニハ少シモ土地ヲ持テ居ラナイト云フ者モアル、ソレカラ他ニハ大分澤山ノ土地ヲ持テ居ルニモ拘ラズ、己ノ町村ダケニハ二百圓以下ノ土地ヨリ外ニ持テ居ラナイト云フ者ガアル、是ハ極メテ不公平ニナルデハナカラウカト吾々ハ思フ、是ハ先刻大藏大臣モ御認ニナツタヤウデアリマスケレドモ、ソレハ極メテ例外デアアルト云フコトヲ言ハレタノデアルガ、吾々ハ決シテ例外トハ認メテ居ナイノデアアル、例ヘバ或ル市制地——市制地ノ如キ所ノ周圍ニハ必ズ農村ガアル、ソレニハ澤山ノ小農ト謂ハルベキ人ガ住居シテ居ル、現ニ私ノ本籍デアル所ノ豊橋ナドハ明瞭デアル、飽海ト云フ所ヘ行ツテ御覽ニナレバ、明瞭デアル、大概小農デアル、其小農ガ耕ス所ノ田畑ハ何所ニ持ツテ居ルカト云ヘバ、斷ジテ市制地内ニハ無イノデアル、僅カ一本ノ川ヲ隔テ飽海ト云フ所ニ多クノ田畑ヲ持ツテ居ル、ソレデ今迄地價ニ依テ、地租ヲ納メルコトニ依テ、選舉權ナドガ決マツテ居タ時分ハ、是等ノ人ハ悉ク屈出ヲシナケレバ資格ガナカツタ、是ハ悉ク全

村ヲテサウ云フコトニナラシメ居ル、斯ウ云フモノハ市制地ノ周圍ニハ澤山アル、ソレカラモウ一ツ私ハ此所ニ例ヲ舉ゲテ政府ノ意見ヲ聽キタイノハ、山間——山附キノヤウナ所ニ參レバ村ハ悉ク大キイノデアル、或ル村ノ如キハ五里四方トカ六里四方トカ云フ所ノ山間ノ極メテ小農ノ人ハ、決シテ他町村ニハ田畑ハ持テ居ナイノデアル、自分ノ五里四方ノ村ヨリ外ニハ持テ居ナイ、斯ウ云フ所ハ言フ迄モナク寒村僻邑デアリマスガ故ニ、餘リ富シク農家ハ居ナイ、大概小農デアアル、斯ウ云フ所ノ者ハ悉ク免稅ニナラナイノデアル、ソレカラモウ一ツ、是ハ內務大臣ニモ御考ヲ願ヒタイノデアルガ、町村ヲ合併シテ大キクスレバ此免稅ヲ失フ、免稅サル、コトヲ失ハナケレバナラス、今ノ日本デハ次第々々ニ小町村ヲ合併致シテ、大町村ニシテ統一スルコトヲ進メラレテ居ル、所ガ大町村ニナレバナラ程、已レノ居住地デ免稅ヲサレルコトニナルノデアルカラ、ソレト外トノ關係ガ非常ニ違、テ參ルノデアル、ソレデアアルカラ段々ト合併ヲシテ、其中へ入込シテシマヘバ是ハ免稅ニナル、入込マナケレバ是ニハ取レナイト云フ關係ニナルカラ、此關係カラモ非常ニ相違ヲ來シテ來ルノデアル、此關係ト云フモノヲ餘程考ヲ下サラナイト、非常ニ不公平ニナル、富豪ノ人デア、テモ小サイ町村ニ住ンデ居ル、今申ス通り段々町村ガ大キクナレバ宜イノダガ、大キクナラナクテ居ル場合デアアルト、小サイ町村ノ中ニ住ンデ居ル、サウスルト其入ト云フモノハ外デハ澤山ノ用地ヲ持テ居ル人デモ、自分ノ土地ダケニ持テ居ラナイト云フコトニナレバ、其人ハ免稅ニナルガ——富豪デア、テ免稅ニナルガ、自分ノ村ダケデ持テ居ラナイト云フモノハ、自分ノ村ダケデ持テ居ラナイ者ハ免稅ニナラナイ、サウスナルノデアルカラ非常ニ不公平ニナルノデアルト思フノデアアルガ、此點ニ對スル私ハ御説明ヲ願、テ置キタイ、次ニモウ一ツ質問ヲ致シタイノハ、

所得稅ノ中第二十一條ノ改正デアル、是モ先刻大藏大臣ガ此席ニ於テ、色々御説明ニナラシメテアリマスルガ、詰リ法人ト云フモノハ、今マデ第二種ノ所得稅ト云フモノニ對シテ二重課稅セラレテ居ラシメタル、此二重課稅ヲ取消カウト云フ御趣意デアリマスガ故ニ、此御趣意ニ對シテハ吾々ハ敢テ反對ヲスル者デハナイ、併ナガラ今回ノ改正ノ方法ニ依ルト極メテ不均衡デアル、不統一デアル所ニ陷ルノデアルガ、之ヲドウスルノデアルカ、斯ウ云フコトニ相成ルノデアル、即チ所得稅現行法ノ第二十二條ニ依リマスルト、公債ノ利子ト云フモノハ百分ノ四デア、其他ノ第二種所得ニ對シテ百分ノ五ノ課稅ヲサレテ居ル、獨リ公債利子ダケガ百分ノ四デアアルノデアル、所ガ今回ノ改正案ニ依ルト、法人ニ對スル所ノ第一種ノ課稅ハ等シク百分ノ五デアリマスカラシメ、何レノモノニ對シテモ百分ノ五ダケノモノハ課カル、ソコデ會社ハ先ヅ己ガ得ル所ノ第二種ノ所得ト云フモノニ對シテ、一方ニ於テ百分ノ四ダケノ公債ニ對シテ税金ヲ拂ヒ、其他ノ社債デアルトカ、銀行ノ預金デアルトカ云フモノニ對シテ、百分ノ五ノ稅率ヲ以テ拂フ、所ガ自分ノ會社ノ利益デ計算ヲサレル場合ハドウデアアルカト云ヘバ、ソレ等ノ收入ヲ全部入レテ見積、タ益金、純益ニ對シテ百分ノ五ノ課稅ヲ受ケル、ソレカラ其中カラ先ノハ引イテ貰ヘルノデアルガ、公債以外ノモノハ百分ノ五拂、百分ノ五引イテ貰、百分ノ五又課カルノデアルカラ、同じ事ニナルノデアアルガ、獨リ公債ダケハ——公債以外ノモノハサウスナルノデアルガ、獨リ公債ダケハ百分ノ五課ケラレテ、百分ノ四ダケノモノガ引カレルノデアルカラシテ、一分ダケ重課サレルコトニナルノデアリマス、是ハ數字上明瞭デアアル、モウ一度能ク之ヲ言換ヘテ見レバ、所謂稅法ノ第二十二條ニ於テハ、第二種ノ所得ハ二ツニ分ケラレ、公債ノ利子ニ對シテハ百分ノ四、其他ニ對シテハ百分ノ五課ケラレルコトニ相成、テ居ル、ソコ

デ會社ガ之ヲ持テ居ル場合ハ、公債ノ利子ニ對シテ百分ノ四ダケノ既ニ稅ヲ拂フ、ソレガ自分ノ方ヘ來ルト云フト、之ヲ積ラレテ百分ノ五ダケノモノヲ課ケラレル、サウ云フコトニ相成、テ居ルノデアリマスカラ、百分ノ五拂、百分ノ五取ラレルノデアレバ其間ノ差引ハ宜クナルノデアルガ、公債ダケハ百分ノ四拂ヒ、今度ハ百分ノ五會社ヘ持テ來ルト課ケラレルノデアアルカラ、一分餘計課ケラレル、茲ニ非常ニ不均衡ヲ來スノデアリマス、併ナガラ是ガ法律ニ於テサウ云フコトニ御決定ニナルナラバ、是ハ敢テ致方ナイカモ知レナイ、會社ニハ特別重課スルト云フノ宜シイカ知レマセヌガ、法律ニ依、テ公債ノ利子ハ百分ノ四、其他ノ利子ハ百分ノ五トナシ、テ居ルノ法律ノ運用上カラ百分ノ五公債ノ利子ニモ會社ダケハ課ケラレル結果ニ私ハ陷ルト思フカラ斯ウナラバ極メテ不均衡ナコト、信ズルノデアル、之ヲ如何ニスルカト云フコトガ私ノ疑問デアアル、次ニ私ハ地方稅ニ對シテ何、テ見タイノデアリマスガ、地方稅ト云フモノ、基礎ヲ鞏固ニ致サナケレバナラナイト云フコトニ付テハ、內務大臣モ既ニ之ヲ御認メニナラシメ居ラシ、又只今三土君ヨリモ述べラレタ通りデアリマスルガ、之ニ對シテ政府ニ於テハ府縣ノ營業稅、雜種稅ノ細カイモノヲ廢シ、或ハ府縣戶數割ト云フモノヲ廢止セラレルト云フコトニ對シテハ、吾々モ實ハ感ヲ同ジウスル點ガアルノデアリマス、併ナガラ之ヲ補填ヲスル上ニ於テ家屋稅ヲ起サレルト云フコトニ對シテハ、頗ル吾々ハ茲ニ疑問ヲ起サメルヲ得ヌノデアアル、勿論此家屋稅ト云フモノモ先刻三土君カラモ、述べラレマシタガ如ク、比較的少ナイ程度ノ金デアアルナラバ、吾々モ或ハ是ハ認メザルヲ得ナイコトニナルカモ知レナイト思フノデアリマスガ、茲ニ府縣ト云フモノニ三千方圓ヲ課シ、更ニ市町村ニ附加稅トシテ三千方圓程度ノモノヲ課ケサセヤウトスレバ、兩方合セテ茲ニ六千方圓ト云フモノニ相成ル、ソコデ此家屋

稅ト云フモノガ今日マデ行ハレ得ラレルモノデアアルナラバ、實ハ何所ノ市町村デモ之ヲヤリタイノデアリマス、今日マデ家屋稅ヲ行ヒタイト考ヘタノハ隨分諸方ニ在ルノデアリマスガ、如何セシ家屋稅ト云フモノハ寒村僻邑ニ至、テハ之ヲ課スルコトガ實際ニ於テドウシテモ出來ナイ、何故出來ナイカト云フト、例ヘバ農村ノ如キニナリマスルト、如何ニ富豪デア、テ見タ所ガ其割合ニ坪數ノ大キイ家ニ住ンデ居ナイ、如何ニ小農デア、テモ、小作ノ人デア、テモ、矢張灰部屋モ要レバ肥料小屋モ、牛部屋モ要ルト云フノデアリマスカラ、家屋ノ坪數ナドカラ行ケバ比較的貧民デアルト謂ハレテ居ル人ガ、多クノ坪數ヲ有シテ居ル、其結果非常ナル等差ヲ生ジテ參リマスルガ、此家屋稅ト云フモノハドウシテモ是ハ農村ニハ行ヒ難イモノデアルト云フコトガ、今日マデノ狀態ニ相成、テ居ル、然レニ此家屋稅ヲ今回全國一般ニ之ヲ行フト云フコトニ至リマシテハ、餘程是ハ農家殊ニ寒村僻邑ナドニ至リマシテハ、容易ナラヌ痛苦ヲ感ズルノミナラズ、貧者ト富者トノ間ニ於テ容易ナラヌ是ハ變動ヲ來スコト、私ハ思フノデアアル(拍手)現ニ是ハ市制地デアリマスガ、內務省ナドノ方ハ能ク御承知デアルト思ヒマスガ、奈良市ノ如キハ先年以來屢、此家屋稅ヲ布キタイト云フノデ——吾々モ奈良市ノ惡意ノ方カラ相談ヲ受ケタコトガアルガ、ドウシテモ此奈良市ナドニ是ガ布ケナイ所以ハドウデアアルカト云ヘバ、アノ地方ハ割合ニ資産ノ程度ガ非常ニ違、テ居ル、非常ニ資産ノ多イ人ガアリマスガ爲ニ、今日ノ戶數割ヲ將來行フト、スレバ、家屋稅ノ間ニドウシテモ實行ガ出來ナイモノデアルト云フコトハ、多分內務省ナドデモ認メラレテ居ラレルコトデアラウト思フ、之ヲ以テ今回——一方ニ生ズル所ノ缺陷ヲ補ハレヤウトスルコトニ相成リマスレバ、地方ハ非常ナル是ハ困憊ニ陷ルモノデアアル、況ヤ市町村ニ對シマシテハ、相變ラズ之ニ對シテ戶數割ト云フモノハ殘サレル、

是モ或ル程度マデハ市町村デアレバ戸數割ヲ殘サレマシテモ、此金額如何ニ依テハ吾々ハ敢テ絕對ニ反對シヤウト云フ者デハナイノデアルガ、一面ニ之ヲ止メ、一面ニ斯ノ如キ家屋稅ヲ課スルト云フコトニ相成テハ、戸數割ノ上ニ更ニ家屋稅ヲ課スル所ノ狀況ニ相成ルノデアリマスガ故ニ、結局戸數割ヲ益、重カラシムルト云フコトノ結果ニナルコトハ明瞭デアルト思フノデアリマス(拍手)斯ウスルト戸數割ヲ廢止スル道理ト全ク是ハ背反スルコトニ相成ルト私共ハ考ヘラレルノデアルガ、其邊ノ御考ハ果シテ如何デアルカト云フコトガ私ハ承リタイト思フ、ソコデ私ハ附加ヘテ承テ置キタイノデアルガ、政府ニ於テハ今回府縣稅ニ於テ、只今モ申シマス通り戸數割ヲ廢サレテ、之ヲ補填スル一ツノ策、方法トシテ市町村ガ今マデ取テ居リマシタ所ノ所得稅附加稅ト云フモノヲ府縣ニ委讓セシメヤウト云フ御計畫デアアルヤウデアルガ、是モ或ハ遺リ様ニ依テハ宜イカモ知レヌガ、此金額ハドレダケデアアルカト云ヘバ、御承知ノ如ク約千八百萬圓、此千八百萬圓ノ内譯ヲ見ルトドウデアアルカト云フト、只今市ノ方ニ課セラレテ居ル所ノモノハ九百六十七萬圓、町村ニ課セラレテ居ル所ノモノハ八百三十五萬圓デアリマスガ故ニ、此財源ノ過半ハ市制地ニ於テ之ヲ負擔シナクテハナラナイ計算ニナルコトハ私ハ明カデアルト信ズルノデアリマス、是ニ於テ市制地ハ比較的多クノ財源ヲ府縣ニ取ラレコトニナリ、市ト町村トノ間ニ種ナル不均衡ヲ來スト云フコトハ、私ハ明瞭デアルト考テ居ルノデアリマス、此邊ニ對シテハ如何ナル御考ガアルデアラウカ、然ラバ其結果町村ト云フモノガ良クナリマスカト云ヘバ、町村ハ矢張非常ニ困ルコトニ相成ル、ソコデ是ハ町村稅ノ方カラ申シマシテ明瞭デアアルガ、千八百萬ト云フ所得稅ノ附加稅ヲ市町村ト云フモノガ府縣ニ取ラレ、其代リニ來ルモノハ何デアアルカト云フト、今モ申シタ通り、新ニ出來ル所ノ家

屋稅、斯ウ云フコトニ相成ルノデアリマスカラシテ、比較の取り易イ確實デアアル所ノ所得稅附加稅ヲ府縣ニ取ラレ、新ニ出來テ極メテ困難デアアル所ノ家屋稅ガ茲ニ新ニ設ケラレ、ノミナラズ先刻モ申シマス通り戸數割ヲ課セラレテ居ル、存置サレル上ニ更ニ新ニ家屋稅ヲ乘ゼラレルコトニ相成ルノデアリマスルガ故ニ、市町村殊ニ農民、農村部落ニ於ケル所ノ困難ト云フモノハ容易ナラザルモノニナルト云フコトハ私ハ明瞭デアルト思フ(拍手)ソレデ之ニ對シテドウカ吾々ガ得心ノ出來マスルヤウナ細ガナ御說明ヲ煩ハシタイト云フノガ、私ノ質問ノ要旨デアリマス、何レ細カイ事ハ委員會デ伺フコトニナラウト存ジマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 濱口大藏大臣

〔國務大臣濱口雄幸君登壇〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 只今大口君ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマス、第一ハ稅制整理ト社會政策トノ關係ニ付テノ御質問デアッタノデアリマス、御趣意ヲ伺テ居リマスト云フト、酒ノ増稅ト煙草ノ値上ト云フコトハ社會政策ニ反スルノデハナイカ、又清潔飲料稅ニ新ニ課稅ヲスルト云フコトモ、是亦同様社會政策ニ反スルノデハナイカト云フ御趣意ノヤウナ御質問デアッタノデアリマス、是ハ此度ノ政府ノ計畫シタ稅制ノ整理ガ、果シテ社會政策のモノデアアルヤ否ヤト云フコトハ、稅制整理ノ全體ニ付テ御觀察ヲ願ヒタイ(拍手)唯一ツ新ニ設ケル稅、或ハ此度増稅ヲスルモノダケ一ツニ引拔カレテ、是ガ社會政策ニ反スルモノデハナイカ、是ハ社會政策ニ違フデハナイカト云フ論評ハ速減ヲ致シマス、若シ此酒、煙草ノ増稅若クハ値上ヲヤリマセヌケレバ綿織物消費稅ノ免除モ出來ナイノデアリマス、通行稅ノ廢止モ出來ヌ、賣藥稅、醬油稅ノ全廢モ出來ナイノデアリマス、所得稅ノ免稅點ヲ引上ゲルコトモ出來ナイノデアリマス、地租ニ新ニ免稅點ヲ設ケルコトモ出來ナイノデアリマス、其財源トシテ比較的ニ國民ノ苦痛ノ少ナイト認メラル、所ノ酒、煙草ニ向テ増稅、値上ヲ行ヒマス

コトハ、是ハ全體ニ於テ明カニ社會政策デアルト考ヘマス(拍手)第二ハ地租ノ免稅點ニ付テノ御質問デアリマシタガ、大口君ノ御説ニ依リマスレバ、自分ノ住所以外ニ於テ小面積ヲ持テ自作ヲ致シテ居ル者ガアル豐橋ノ例ヲ御引キニナリマシテノ御質問デアリマシタ、成程政府提案ノ改正案ニ依リマスレバ、左様ナル場合ニ於テハ其人々ハ免稅ノ恩典ニ浴スルコトハ出來ナイノデアリマス、併ナガラ斯ノ如キコトハ全國ヲ通計致シマスレバ、寧ろ稀ナル例外デアラウト思ヒマス、其例外マデモ之ヲ包含ヲ致シテ免稅ノ恩典ニ浴セシムルガ爲ニ、自分ノ住所タル市町村内ニ於ケル云々ト云フコトヲ止メテ、廣ク全國ヲ一體ニ互テ、二百圓未滿ノ地價ト云フモノヲ標準ニ致シテ免稅點ヲ設ケマスト云フト、是ハ恐ラクハ大口君モ御諒解下サルコトデアラウト考ヘマスルガ、到底實行上不可能デアリマス、ソレカラ第二ハ山間ノ僻地ニ住居致シテ居ル所ノ農民ト云フ者ハ殆ド他ノ町村ニ於テ地面ヲ持テ居ル者ハ少イ、全部自分ノ居村ニ於テ地面ヲ持テ居ル者デアル、此度ノ政府ノ改正案ニ依レバサウ云フ種類ノ者ハ免稅ヲ受クルコトガ出來ナイ譯ニナルト仰セラレマシタガ、ソレハ私ノ考デハ、寧ろ反對デアッテ、自分ノ村ノミニ於テ二百圓未滿ノモノヲ持テ居レバ、即チ免稅トナルノデアリマス、或ハ大口君ノ御質問ノ趣意ヲ聽損シカモ知レマセヌガ、私ノ諒解致シタ所ニ依レバ、自分ノ村ダケニ二百圓未滿ノモノヲ持テ居リマスレバ、即チ全部免稅トナル譯デアリマス、第三ハ富豪ガ自分ノ住居致シテ居ル所ノ市町村内ニ於テ、二百圓未滿ノ田畑ヲ持テ居リマシテ、ソレヲ小作ニ附シテ居ル場合ニ於テハ、是ハ免稅トナリマス、是ハ洵ニ法律ノ弊害デアリマスケレドモ、サウ云フ場合ニ於テハ免稅ノ恩典ヲ受クルコトニナリマス、併ナガラ是亦富豪ガ自分ノ居村ニ於テ僅ニ田畑ノ地價二百圓未滿ノモノヲ持テ居テ、ソレヲ小作ニ附シテ居ルト云フガ如キハ、是亦稀有ノ例外デアラウト考ヘマス、其次ハ、町村ガ

合併ヲサレテ段々大キナルニ從テ免稅ノ恩典ヲ受クル者ガ減少スルト云フコトデアリマシタガ、其御趣意ハ私ニハ十分諒解スルコトガ出來ナカッタノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ於テハ無論其村ニ於ケル所ノ段別ノ地價二百圓未滿ノモノハ是ハ免稅トナリマス、勿論町村ガ大キナリマシテモ、同ジデアリマス、唯町村ノ大キナル結果トシテ地價二百圓以上ニナリマスレバ、是ハ當然免稅ノ恩典ヲ受クルコトハ出來ナイ、是ハ寧ろ當リ前ノコトデアリマス、ソレハ免稅ヲスル必要ガナイノデアリマス、第三ニハ、所得稅法ノ改正案ニ付テ數字ヲ舉ゲテ計算上ノ御質問ガアリマシタガ、是ハ事實計算ニ屬シマスカラ、政府委員ヲシテ答辯ヲ致サセマス

○副議長(小泉又次郎君) 黑田政府委員

〔政府委員黑田英雄君登壇〕

○政府委員(黑田英雄君) 只今御尋ノ所得稅ノ二重課稅ノコトニ付キマシテ御答ヲ申上ゲマス、御尋ガ大變複雜ニナッテ居リマシタノデ、或ハ私ガ御答申上ゲマスコトガ御尋ノ御趣意ニ反シテ居リマシタナラバ、更ニ適當ナ機會ニ於テ御說明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、御尋ハ法人ガ公債ヲ持テ居テ、第二種ノ所得稅ヲ納メル場合ニ於テハ、百分ノ四ノ第二種ノ所得稅ヲ納メテ居ル、然ルニ其法人ガ第一種ノ所得稅トシテ、百分ノ五ヲ課稅サレテアルカラシテ、其中ヨリ百分ノ四ニ相當スルモノヲ控除致シマシテモ、尙ホ百分ノ一ダケ控除不足ニナルデハナイカ、是ガ公債以外ノ第二種ノ預金其他ノ所得デアリマシタ場合ニ於テハ百分ノ五ノ何レモ百分ノ五デアアルカラ、其處ニ控除ノ不足ガナイ、是ガ甚ダ不權衡デハナイカト云フ御尋ノヤウニアッタト承知致シタノデアリマス、是ハ法人ガ第一種ノ所得稅ヲ納メマシテ、其所得ヲ構成シテ居リマスル所ノ第二種ノ所得ニ對シテ、第二種ノ所得稅ヲ納メマスト云フコトハ、同ジ所得ニ付テ一般所得稅ヲ二重課セラレルコトニナルノデアリマスカラ、此二重課稅ヲ除キマスル趣意カラ致

シマシテ、此法案ニアリマスル通り法人
ガ納メマスル第一種ノ所得税額ノ中カラシ
テ、法人ガ納メテ居リマスル所ノ其事業年
度ニ、即チ納付シマシタ所ノ第二種ノ所得
ニ對スル所得税額ヲ控除スルト云フコトデ
アリマスカウ、唯同ジ所得ニ對シテ一般所
得税ヲ二重ニ負擔スルト云フコトヲ除ク趣
旨デアリマスカラ、公債ノ所得ニ付テ百
分ノ四負擔ヲシテ居リマシタナラバ、其百
分ノ四ダケヲ控除シテヤル、百分ノ五ノ負
擔ヲシテ居ッタナラバ百分ノ五ヲ控除シテ
ヤルト云フコトニ依テ、完全ニ二重課税ノ
結果ヲ除却スルコトガ出來ルト考ヘテ居ル
ノデアリマス、唯御尋ガ法人ガ公債ヨリ所
得ヲ得マシタ場合ニ於テハ、第一種ノ所得
トシテ百分ノ五ヲ課税サレルガ、公債ノ
ヲ持ッテ居ル所ノ個人ガ、百分ノ四ヲ負擔
スルト云フコトガ不公平デアルト云フ若シ
御趣旨デアリマシタナラバ、是ハ全ク別箇
ノ見方カラ税率ガ盛ラレテ居ルノデアリマ
シテ、即チ公債ノ所得ト云フモノハ、御承
知ノ通り個人モ法人モアルノデアリマス、
之ヲ綜合シテ第三種ノ課税ヲスルト云フコ
トハ、理論上カラ申シマスレバ最モ至當ナ
コトデアリマシテ、最モ望マシイコト、考
ヘマスガ、是ハ實行上困難デアルト云フコ
トハ、先程大藏大臣カラ御話ニナッタ通り
デアリマス、隨テ今日已ムヲ得ズ一般所得
税ノ中ニ於テ、第二種所得トシテ源泉課税
ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、法人ニ對シ
テハ法人ノ所得ヲ課税スルト同時ニ、其所
得ニ對シテ第三種ノ課税ヲ致シテ居ルノデ
アリマスガ、法人ノ所得ニ對シテ如何ナル
税率ヲ盛ルカ、第二種所得税トシテ公債或
ハ社債ノ所得ニ對シテ如何ナル税率ヲ盛ル
カト云フコトハ、是ハ全ク別箇ノ見方カラ
來ルノデアリマス、隨テ今日公債ニ付テハ
百分ノ四、社債ニ付テハ百分ノ五ト云フ風
ニ税率ヲ盛テ居ルノデアリマス、是ハ見方
ガ違フノデアリマスルカラ、必ズシモ其處
ニ不權衡ハナイト考ヘテ居ルノデアリマス
○副議長(小泉又次郎君) 若槻內務大臣
〔國務大臣若槻禮次郎君登壇〕

○國務大臣(若槻禮次郎君) 地方税ノ整理案ニ於テ、府縣ノ徵收スベキ家屋税ノ高ガ多過ギテ、餘リ負擔ガ重イノデハナイカト云フ御考ヲ御持ニナツテノ御質問ノヤウニ伺、タノデアリマス、家屋税、是ハ先程モ大藏大臣ノ述ベラレマシタ通り、地方税デハアリマスケレドモ、納税者ノ側カラ見レバ、國稅地方税ヲ聯絡シテ其間ニ權衡ヲ取ラウト云フノデ、資本ヲ土地ニ投ジテ居ル者ハ地租ヲ取ラレル、資本ヲ營業ニ投ジテ營業シテ居ル者ハ、營業收益税ヲ取ラレル、資本ヲ例ヘバ公債ナリ其他貸金ト云フヤウニシテ居レバ、此度ハ資本利子税ヲ取ラレル、資本ヲ家屋ニ投ジテ居ル者ハドウスルカ、ソレハ矢張課税スルノガ相當デアール、課税シナケレバ權衡ヲ失フ、斯ウ云フ立前カラシテ、此度ハ同じ財産デアール以上ハ、家屋ニ對シテ税ヲ取テ宜シイ、但シ之ヲ國ニ取ラズニ地方ニ取ル所以ノモノハ、從前カラ家屋税ヲ地方ノ財源トシテ居、タ所ガアルカラ、地方ニ於テ取ラシムルノガ相當タト云フノデ、是ハ地方ニ取ラシメル、サウ云フ意味デ、今マデ税ハナカ、タケレドモ、是ハ税ヲ掛ケルノガ權衡上相當タト云フ理由ガ第一デアリマス、第二ハ是マデノ戸數割ト云フモノニハ、建物ノ坪數ガ標準ニナツテ居、タノデアール、即チ戸數割デアアリマスガ、間接ニハソレガ家屋税ノ一部ニ當ルヤウナ工合デ、戸數割ノ制度ハ、タノデアリマス、今回ハ戸數割ハ市町村ニ移シテ取ラセマスケレドモ、標準ノ中カラ建物ノ坪數ト云フモノヲ省イタノデアリマス、サウナリマスレバ、家屋税ノ上ニ於テ、其關係ノモノガ若干増加セラレタ所ガ、一方ニ於テ減ゼラレテ居ルノデアールカラ、差支ナイノデアール、ソレデ家屋税ニ付テ、府縣全體デ三千万圓前後ノ賦課ヲサセルト云フコトハ、決シテ不當デナイト政府ハ認メテ居ルノデアリマス、若シサウデナクシテ、之ヲモット制限ヲ低クシテ、税額ヲ少クサセルト云フノデアレバ、勢ヒ所得税ノ附加税ヲ今度ハ上ダテ貰ハナケレバナ

ラスト云フコトニナル、ソレノミデアリマセヌケレドモ、主ニ其方ニ掛カッテ行カナケレバナラヌ、左様ニスルト云フト府縣税ノ體系ニ於テ、餘リ人税ノ負擔ガ重クナルカラ左様シナカッタ、斯ウ云フ趣旨ニ於テ、家屋税ノ只今計畫シテ居ルモノハ決シテ不當ノ課税デアルトハ思ハヌノデアリマス、イマ一ツ大口君ノ御質問ノ中ニ、市町村ノ所得税ノ附加税ハ止メサセタ、併ナガラ市町村ニ於テ家屋税ヲ掛ケルコトノ不便ナヤウナ所ニハ、矢張所得税ノ附加税ノ輕イ程度ノモノヲ許スト云フヤウニナッテ居ル、サウナルト云フ其方ノモノハ財源ガナイル、ケレドモ、其以外ノモノハ財源ガナイト云ッヤウナ不權衡ガ生ズルト云フ御論ノヤウニ伺ヒマシタ、若シ御質問ガサウデナケレバ私ノ答辯スル所ノモノハ、全ク見當外レニナリマスガ、若シ御質問ガソレデアルト云フナラバ、ソレナラバ所得税ノ附加税ノ取レル市町村ハソレデ財源ヲ得マスガ、其他ノモノハ所得税ノ附加税ガ取レナイカラ財源ガナイト仰セニナルケレドモ、其代リソコデハ戶數割ヲ取ルノデアリマス、一方ハ所得税附加税ト云フ人税デアル、一方ハ戶數割ト云フ人税デアル、同じ人税デアル故ニドッテ取ッタ所ガ其間財源ノ上ニ於テ差支ナイ、斯ウ云フ關係ニナル次第デアリマス(拍手)

○大口喜六君 議長、議長

○副議長(小泉又次郎君) 大口君

〔大口喜六君登壇〕

○大口喜六君 先ッ私ハ此地租ノ免稅點ノ事デ再ビ質問致シタイト思フノデアリマスガ、成程只今私ガ演壇デ述ベマシタ事ハ、稍、質問ノ致方ガ言葉ガ足ラナカッタヤウニ感ジマス、ソレ故ニ大藏大臣ニ於テモ御了解ガナカッタヤウニ思ヒマスガ、私ハ決シテ一部分ヲ見テ申スノデハナイノデアリマス、日本全國ヲ達觀シテ申スノデアリマスガ、其中ノ一例トシテ最モ私ガ確實ニ知ッテ居ル所ヲ舉ゲタノデ、ソレカラ町村合併ノ事ト、山間部ノ極メテ大ナル村トノ關係ハ、斯ウ云フ意味デ申シタノデアル、小サイ町村デア

レバ二百圓以下——例へば私が持ッテ居ル地所ガ小サイ町村ノ區域デアレバ、地價二百圓以下デアレバ免稅サレテ居ルノデアアル、所ガ少シバカリ隣村ニ持ッテ居ッタ所ガ、町村ガ合併サレテ大キクナレバ二百圓以上ニナルノデアリマスカラシテ、全部地租ヲ取ラル、ヤウニナルノデアリマス、ソレデ大キイ町村ニ住ム者ト小サイ町村ニ住ム者トノ差ハソコニ在ル、町村分割スレバ私ノ持ッテ居ル地ガ分割サレルカラシテ、或ル部分自分ノ居住シテ居ル所ダケハ免稅サレル、所ガ大キクナレバ寄セラレルカラシテ免稅サレナクナテ、全部取ラレルコトニナル、ソレデ小サイ町村ニ住ム者ト大キイ町村ニ住ム者トノ間ニ違ヒガ出來ルト云フノガソレデアアル、ソレカラ大キイ山間部ノ人等モサウデアリマス、山間部ノ人等ニ於テ之ガ小サイ村デアアルナラバ、自分ノ持ッテ居ル地所ガ二百圓以下ノ地價デアルカラ、免稅サレル筈デアアルガ、偶、以テ己ノ村ガ大キイ爲ニ僅カナ地所ガ——隅ニ在ルモノ迄ガ綜合サレテ二百圓以上ニナルガ爲ニ、此人ハ稅ヲ課セラレルコトニナルノデアアル、ソレデアアルカラシテ結局小サイ村ニ居ル者ト大ナル村ニ居ル者トハ、小サイ村デアレバ免稅サレルモノガ、隣村ノ僅カナモノガ寄セラレタガ爲ニ稅ヲ取ラレル、斯ウ云フ非常ナ不公平ヲ來スガ、ソレハドウデアルカト云フ意味デアッタノデアリマス、ソレカラモウ一ツ所得稅ノ法人ノ問題デアリマスガ、ソレガ第二ノ御答ノ方ノ意味デアアルノデアリマス、即チ個人ガ公債ヲ持ッテ居リマスル場合ニ當リマシテハ、公債ノ第二種ノ稅金ト云フモノハ百分ノ四デ濟ムノデアルガ、會社ガ持ッテ居ルト百分ノ五結局取ラレルコトニナルノデアアル、是ハ政府モ御認メデアリマス、會社ガ公債ヲ持ッテ居ルト、結局算盤ノ結果百分ノ五ノ稅ヲ課セラレテ、ソレダケ出サナケレバナラヌ結果ニナル、個人ガ持ッテ居レバ百分ノ四デ

濟ム、ソレガ法律ノ明文ガアツテ會社ハ百分ノ五、個人ハ百分ノ四トナリテ居ルノナラバ是ハ又別問題デアルガ、法律ガ同ジ所得稅法ノ第二十二條デ規定サレテ居テ、會社デアラウガ個人デアラウガ公債ニ對シテハ百分ノ四ト相成テ居ルニ拘ラズ、今回二十一條ヲ改正サレル結果トシテ個人ハ百分ノ四デ濟ムガ、法人ハ結局百分ノ五ダケ公債ニ對シテ負擔スル結果ニナルト云フコトハ、法律ノ運用上カラ言フテ極メテ不均衡不統一ナルモノニナルノデハナイカ、斯ウ云フ意味デアルノデアリマス、ソレカラ内務大臣ノ御答ニナリマシタ此家屋稅ノ事ニ對シマシテハ、是ハ全ク私ハ意見ヲ異ニシテ居リマスガ、其意見ヲ異ニシテ居ルコトハ或ル時機ニ於テ明瞭ニ申上ゲマシテ、政府ト意見ヲ交換シテ見タイト思フノデアリマスガ、先刻ノ御答ノ如キ事ガ果シテ國稅トノ均衡カラ參テ、我國ノ稅制ノ系統ヲ立テル上カラ來テ居ルト云フナラバ、私ハ更ニ茲ニ一大疑問ガ起ルノデアリマス、今回御改正ニナリマス所ノ營業稅ハ如何デアリマセウカ、今マデハ營業稅デアッタノヲ之ヲ廢サレテ、今回營業稅收益稅ト云フモノニサレルノデアルガ、吾々ガ考ヘルト收益稅ハ第一名前カラシテ可笑シク思フ、マア名前ナドハドウデモ宜イトシタ所ガ、此法律ヲ通覽シテ見ルト、銀行法ノ營業稅ト云フモノガ、一々是其營業稅ト云フモノニ重キヲ置キ、營業場ト云フモノヲ中心トシテ課稅ノ標的ヲ定メテ居ル、然ルニ今回御改正ニナル所ノ營業稅收益稅ハ、個人ヲ當テニシテ個人ノ純益ヲ目的トシテ居ルモノデアリマスルガ故ニ、是ハ營業稅收益稅ト云フヨリモ、寧ろ特別所得稅デアルト見ルノガ、私ハ當然デアルト思フ(拍手)果シテ然リトスレバ此處ニ斯ウ云フ體系ノ上ニ非常ナ不均衡ヲ來ス、政府ハ何ト云フテ居ラレカト云ヘバ、相變ラズ所得稅ト云

フモノヲ中樞ト致シテ、之ニ補充稅トシテ配スルノニ地租及ビ營業稅收益稅ヲ以テスルト言ハレル、然ルニ營業稅ノ方ニ關シテハ純益稅、マルデハ特別所得稅ノ如キモノヲ以テシ、地租ハ相變ラズ今日マデハ地價デ、二年經テドウナルカト云ヘバ、矢張是ハ賃貸價格——賃貸價格デアツテ見レバ是ハ純益デアリマセヌ、ソレデアルカラ是ハ特別所得デハナイ、地租ノ分ハ何所マデ行ツテモ賃貸價格、純益デナイ、然ルニ一方ノ營業稅ノ方ハ之ヲ純益稅ニスル、ソレデ家屋稅ト云フモノ六千萬圓ヲ地方ニヤ、テ體系ヲ立テヤウト云フニ至テハ、決シテ是ハ公平ナル體系ノ立樣ト吾々ハ見ルコトハ出來ナイ(拍手)ソコデ此點ノ說明ヲモ承ラナケレバ、吾々ニハ政府ノ體系論ハ諒解スルコトハ出來ナイ、此位片跛ノ不完全ナ體系ト云フモノハ私ハナイト考ヘテ居ル、内務大臣ガ地方ノ經濟並ニ地方自治ノ今日ノ實力ニ對シテ此家屋稅宜シイ、ソレデ均衡ヲ得テ居ルカノ如ク言ハレ、而シテ是ガ國家ノ大計ノ上カラ來ルト言ハレルニ至テハ、吾々ハ大ニ意見ヲ異ニシテ居ル、此道方デヤッタナラバ、我が日本帝國ノ市町村、有ユル市町村ノ財政ハ忽チ窮ニ至ルモノナルコトヲ吾々ハ信ズルモノデアアル(拍手)ケレドモ此點ハ追テ吾々ハ詳細ニ數字ヲ舉ゲテ大ニ論ズル所ガアリマスカラ、今日ハ論ジマセヌガ、只今ノ點ダケハ此際明瞭ニ體系ヲ立テラレト云フナラバ、何テ置キタイモノデアルト吾々ハ思フノデアリマス、ソレカラ内務大臣最後ノ御答ハ、私ノ質問ノ趣意トハ全ク外レテ居リマスガ、是ハ私ガ矢張質問ノ致シ方ガ言葉ガ足ラナイ結果デアツタト思ヒマスガ、矢張是ハ只今申ス通り、體系論デオキデニナル以上ハ根本ニ於テ吾々ノ見ル所トハ違テ居ルノデ、地方ノ事情ト云フモノガ洵ニ詳シク政府ニ分テ居ナイ、全ク地方ノ事情

ヲ無視シテ居ルノデ、大藏大臣ノ言葉ヲ借りテ言ヘバ、全ク吾々ハ机上ノ空論デアルト之ヲ信ズルノデアリマス、此點ハ何レ吾々ハ或ル時機ニ於テ明瞭ニ質問スル積リデアリマスガ、只今ノ點ダケノ御答ヲ再ビ煩シタイト思ヒマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 濱口大藏大臣

〔國務大臣濱口雄幸君登壇〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 只今ノ御質問ニ依リマシテ、大口君ノ地租免稅點ニ對スル御質問ノ趣意ヲ能ク諒解致シマシタ、是ハ二ツノ場合ニ付テ御尋ニナリマシタ、第一ハ面積ノ大キナ村ニ住ンデ居ル者ト、面積ノ狭イ村ニ住ンデ居ル者トノ間ニ、負擔ノ不公平ガ起ルト云フ御心配デアリマス、即チ廣イ村ニ住ンデ居ル者ハ例ヘバ三百圓ノ地價ヲ持ツテ居ル、此場合ニ於テハ此度ノ法案ニ依リテ地租ヲ徵收セラル、ノデアリマス、即チ免稅ノ恩典ヲ受ケナイノデアリマス、其反對ニ狭イ村ニ住ンデ居ル者ハ、合計シテ三百圓ノ田畑ヲ持ツテ居ルニ拘ラズ、其居住ノ面積ガ狭イ爲ニ、其半分ノ百五十圓ニ相當スルモノヲ自分ノ居住ニ持ツテ居リマシテ、其残りノ百五十圓ト云フモノヲ隣ノ村ニ持ツテ居ルコトガ有リ得ル、斯ノ如キ場合ニ於テ廣イ村ニ住ンデ居ル者ハ全部地租ヲ徵收セラル、ニ拘ラズ、狭イ村ニ住ンデ居ル者ハ半分ヲ隣村ニ持ツテ居ル者ハ、自分ノ居住ニ持ツテ居ル百五十圓ノ田畑ニ付テモ課稅セラレズ、隣村ニ持ツテ居ル百五十圓ノ田畑ニ對シテモ免稅ヲ受ケルコトガ出來ルト云フ結果ニナルノデハナイカト云フ御趣意デアツタノデアリマス、ソレハ全ク其通りデアリマス、是ハ避クベカラザル弊害、殊ニ自分ノ居住ニ非ザル所ノ他ノ町村ニ於テ土地ヲ持ツテ居ル者ハ、吾々ノ考ヘル所ニ依レバ概シテ相當ノ資産ヲ持ツテ居ル地主デアルト思フ(ノウ)(一)

二百圓未滿ノ小地主ガ頻々トシテ自分ノ居住ニ僅カナ土地ヲ持ツテ居ルト云フコトハ、ソレハ私ハ絕對ニ無イトハ申シマセヌガ、極メテ僅少ナル例外デアルト云フコトヲ先刻モ申シタ通りデアリマス(拍手)ソレカラ第二ノ場合ハ町村ノ合併ヲ前提トサレタ所ノ御質問デアツタノデアリマス、即チ例ヘバ甲ノ村ニ於テ或人ガ百五十圓ノ田畑ヲ持ツテ居タ、乙ノ村ニ於テモ百五十圓ノ田畑ヲ持ツテ居タ、其場合ニ於テハ此度ノ法案ノ結果トシテ、甲ノ村ニ於テ持ツテ居ル所ノ百五十圓ノ分ニ對シテハ免稅ヲ受ケテ居タ、乙ノ村ニ持ツテ居ルモノハ居住ニアラザルガ故ニ稅ヲ取ラレテ居タ、然ルニ甲乙ノ兩村ガ合併シテ一ツノ村ニナルト云フト、其人ノ持ツテ居ル地面ハ一市町村內ニ於テ三百圓ノ地價ニナル、是ニ於テ免稅ノ恩典ヲ受ケルコトガ出來ヌガドウカト云フ御質問デアリマス、ソレハサウ云フ場合ガアツタナラバ如何ニモ其通りデアリマス、併ナガラ町村合併ガ常ニ行ハレルト云フコトヲ前提トシテ、サウ云フ御質問ヲ起サレタコト、思フガ、斯ノ如キ事柄ハ通常ノ場合デハ無イノデアリマス、ノミナラズサウ云フ弊害ヲ避ケル爲ニ、地價二百圓未滿ノモノヲ免稅スルト云フコトデ自分ノ住所タル市町村ニ止マラズシテ、更ニ全國的ニ一般ニ適用シテ規定シヤウト云フコトハ、實行上是ハ出來マセヌ、非常ナル手數ヲ要シ、非常ナル經費ヲ要シマシテ、而シテソレニ依リテ得ル所ノ效果ト云フモノハ案外少イノデアリマス、凡ソ租稅ノ法規ヲ立ルニ當リマシテハ、先刻モ私カラモ内務大臣カラモ申シマシタ通り、理論上ノ要求ト實際上ノ便否ト云フコトヲ折衷致シマシテ、其宜シキニ從ハナケレバナラヌノデアリマス(拍手)凡ソ理論ノ要求スル所ハ寸毫ノ假借ナク、何所マデモ之ヲ徹底スル、苟モ實際上ノ便利ニ合スレバ、理論ノ如キハドウデモ宜シイト云フガ如キハ、二ツナ

カラ極端マス議論デアリマス、要スルニ極メテ穩健實ナル所ノ立法論トシテ、理論ノ要求ト實際トノ便否トヲ適當ナル所ニ於テ之ヲ調和スルコト云フコトガ、即チ立法上ノ重要ナル點デアラウト思フ(拍手)政府ガ此度ノ稅制整理ヲ立案スルニ當リマシテ、獨リ地租ノ免稅點ニ限リマセヌ、總テノ點ニ、理論ノ要求ト實際トノ便否トヲ最モ適當ナリト信ズル點ニ於テ調和致シタ積リデアリマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 若槻內務大臣(國務大臣若槻禮次郎君登壇)

○國務大臣若槻禮次郎君 府縣ノ財源トシテ家屋稅ヲ設クルコトニ付テハ、大口君ニハ別ニ御意見ガアルサウデアリマス、大口君ト此點ニ付テ意見ヲ異ニシテ居ルコトハ甚ダ遺憾デアリマスレドモ、是ハ已ムヲ得マセヌ、唯、大口君ハ相稅ノ體系トシテ權衡ヲ得ルヤウニシタト云フケレドモ、サウナリテ居ナイデヤナイカト仰セニナリマスカラ、其點ダケ御答申上デマス、今度政府ガ制定セント計畫致シマシタ家屋稅ノ課稅標準ハ、賃賃價格デアリノデアリマス、是ハ御承知ノ通りデアリマス、地租ニ付テ今政府ノ計畫シテ居ル所ハ今日ハ已ムヲ得ズ地價ヲ取テ居ルケレドモ、結局ハ賃賃價格ヲ標準ニシテ課稅シヤウト云フ計畫デアルト云フコトハ御承知ノ通りデアリマス、ソレデアリマスルガ故ニ、其事ガ總テ行ハレマス云フト、所得稅ヲ中樞トシテ地租ハ土地ノ賃賃價格ニ依テ之ヲ取ル、家屋稅ハ府縣ニ於テ建物ノ賃賃價格ニ依テ之ヲ取ル、資本金子稅ハ其資本カラ生ズル利息ヲ標準ニシテ資本金子稅ヲ課スル、營業稅ハ營業ノ收益ヲ標準ニシテ之ヲ課スル、斯ウ云フコトニナリマスカラ、大體ハ能ク權衡ヲ得テ行クト思フノデス、唯、營業收益稅ハ、大口君ハ純益稅デア

如何ニモ營業收益稅ハ損失ヲ引イタ後ノ利益デアルノデアリマス、併シ營業稅ニ付テ賃賃價格ヲ標準ニシヤウト云フヤウナコトハ是ハ出來ナイノデス、ソレデアルカラ營業稅ニ付テハ收益ヲ標準ニシタト云フノデア

○大口喜六君 左様デアリマス
○副議長(小泉又次郎君) 大口喜六君(大口喜六君登壇)
○大口喜六君 昨ハ決シテ辯ヲ好ム者デハアリマセヌ、只今ノ若槻內務大臣ノ御答辯ガ極メテ其要ヲ得テ居ナイノデアリマス、私ノ向フタ事ヲ答ヘテ居ラレナイノデアリマス、ソレ故ニ私ガ問フノデアリマス、私ハ決シテ營業稅ヲ、適テ賃賃價格ニセヨナドト云フコトヲ申シタ覺エハナイノデアリマス(拍手)唯、政府ニ於テハ國稅ノ體系ヲ立テルガ爲ニ、一面ニ於テ地租ト云フモノニ對シテハ之ヲ賃賃價格ト爲シ、一面ニ於テ地方稅ノ家屋稅ヲ起シテ之ヲ賃賃價格ト爲スト云ハレルノニ、同じ車ノ兩輪ノ如クニ行クベキ營業稅ニ對シテノミ、收益ニ課稅サレルト云フノデハ、此間ノ權衡ガ取レナイデハナイカ、是デモ完全ニ權衡ノ取

私ハ斷定致シマス(拍手)
○副議長(小泉又次郎君) 若槻內務大臣(國務大臣若槻禮次郎君登壇)
○此時私語スル者多シ
○副議長(小泉又次郎君) 靜肅ニ願ヒマス
○國務大臣(若槻禮次郎君) 大口君ハ私ノ答辯ヲ御聞達ニナッタヤウデアリマス、(「ウー」)私ハ大口君ガ營業稅ニ付テ適テ賃賃價格ヲ標準ニスベシト仰シヤッタト云フコトハ、一言モ述ベテ居ナイノデアリマス、唯、述ベタ所ノモノハ、地租ハ賃賃價格、家屋稅ハ賃賃價格、資本金子稅ハ利息其モノ、其場合ニ政府ガ法律ヲ立案シヤウト思フテ、營業稅ニ付テ賃賃價格ヲ標準ニシヤウト言フテモ出來マセヌカラ、營業稅ニ付テハ收益稅トヤツタンダト斯ウ申シタノデアリマス、大口君ガ賃賃價格論ヲ爲サレタト云フコトハ、私ハ一言モ言フテ居ナイノデアリマス、而シテ純益ト賃賃價格ト、ソコニ標準ガ違フ、ソレニ對シテハ稅率ノ設ケ方ガ權衡ヲ取ルコトガ出來ルノデアリマス、斯ウ答ヘタノデアリマス、之ヲ御聞達ニナッタヤウデアリマスカラ、其事ヲ御答辯致シマス(拍手)

○副議長(小泉又次郎君) 大口君

○政府委員(黑田英雄君) 所得稅ニ付キマシテ先程御尋ノ事ハ法人ノ第一種所得稅ガ百分ノ五デアツテ、公債ノ第二種ノ所得稅ガ百分ノ四デアルト云フコトハ、權衡ヲ得ナイデハナイカト云フ御尋デアツタヤウニ承知致シタノデアリマス、第二種所得稅ニ付キマシテハ、個人ガ所得致シマス場合ニ於テ公債ニ付テハ百分ノ四ノ第二種所得稅ヲ掛ケル法入ガ公債ノ所得ヲ得マシタ場合、其所得ニ對シテハ第一種ノ所得トシテ百分ノ五ヲ掛ケラレルト云フコトハ御尋ノ通りデアリマス、併シ個人ニ付キマシテハ個人ノ公債ノ所得其モノ全部ニ對スル稅率ナノデアリマス、然ルニ法人ニ於キマシテハ、法人ガ其所得ヲ得マスコトニ要シマス經費モ引キマスシ、又他ノ所得ト合サレマシテ、其所ニ出マシタ所得ニ對シテ課稅ヲ致スノデアリマスカラ、個人ノ場合トハ課稅サレル目的物ガ非常ニ違フタノデアリマス、ソレ故ニ先程モ申上デマシタ通り之ニ對スル稅率ハ全ク別箇ノ見方カラ定メラレテアルト云フコトヲ申上ダタ次第デアリマス(拍手)

○大口喜六君 議長——議長
○副議長(小泉又次郎君) 大口君質問ノ續キデスカ

○大口喜六君 議長——議長
○副議長(小泉又次郎君) 大口君質問ノ續キデスカ

○大口喜六君 議長——議長

○大口喜六君 議長——議長
○副議長(小泉又次郎君) 大口君質問ノ續キデスカ

○大口喜六君 議長——議長
○副議長(小泉又次郎君) 大口君質問ノ續キデスカ

○大口喜六君 議長——議長
○副議長(小泉又次郎君) 大口君質問ノ續キデスカ

○大口喜六君 議長——議長

伺ヒタイと思ヒマス、私ノ先刻説明シマシタ
本黨ノ稅制整理案ニ關聯シテ伺ヒタイと思
マス、先づ第一ハ只今問題ニモナリテ居リマ
ス所ノ稅體論デアリマス、大藏大臣ハ現今
ノ體系ハ所得稅ヲ中軸トシテ地租營業稅ヲ
以テ之ヲ補助ト、云フ風ニ申サレテ居リマ
シタ、若槻內務大臣ハ尙ホ少シ丁寧ナ言葉
ヲ用キラレマシテ、一般所得稅ヲ中軸トシ、
營業稅並ニ地租ヲ以テ之ヲ補助ト云ハレマ
シタ、所デ今政府ノ御提案ニ依レバ、資本
利子稅ト、第二種所得稅ト相對立スルコトニ
ナリマス、之ガ果シテ一般所得稅ト也租ガ
對立シテ居ルガ如クニ、一般所得稅ト營業
稅ガ對立シテ居ルガ如クニ、一般所得稅ト資
本利子稅ト對立シテ居ルト言ヘルノデアリ
マス、ソレヲ一ツ伺ヒタイノデアリマ
ス、資本利子稅ト第二種所得稅トハ、私ノ
見ル所デハ、前ニモ説明ヲ致シマシタガ、
全ク同ジモノデアル、殊ニ第二種所得稅ノ甲
ト資本利子稅ノ甲種トハ……

〔小泉副議長議長長席ヲ退キ、粕谷議長復
席〕

共ニ公債、社債、銀行預金ノ利子、貸付信
託ノ利益ニ課スルモノデアリマシテ、其
課スル方法モ、支拂ハル、利子其儘ヲ取り、
其中ヨリ稅額ヲ天引スルノデアリマス、
所謂天引課稅デアリマス隨テ二者ハ全ク性
質ヲ同ジクスルモノデアリマス、政府ハ之
ヲ違フタ稅ノ種類ト認メマス、之ヲ伺ヒ
タイノデアリマス、稅ノ性質ガ全然同ジモ
ノデアリナラバ、ソレヲ片ツ方デハ第二種
所得稅トシ、片ツ方デハ資本利子稅ト言
テ、ソレヲ相對立セシメ、重複課稅ヲ爲
スノハ、若槻內務大臣ノ仰シヤル、一般所
得稅ヲ中軸ニシテ他ノ收益稅ナリ、特別所
得稅ヲ以テ補助ト云フコト、ハ、全然異ル
ノデアリマセヌカ、是ハ稅制整理ノ根本
ニモ觸レテ居リマスカラ、明確ニ御答ヲ願
ヒタイノデアリマス、ソレカラ第一ノ點ハ、

矢張本黨ノ提案ニ關聯シテマアリマスガ、
國債利子ノ課稅デアリマス、資本利子稅ニ
於キマシテハ、新ニ國債利子ニ課稅ヲ爲ス
コトニナリテ居リマス、而シテ現在デハ地方
債ノ利子ニ對シマシテ、第二種所得稅ヲ課
ケテ居リマス、今回更ニ資本利子稅ヲ課ケ
ルノデアリマス、然ルニ國債ノ利子ニ對シ
マシテハ、資本利子稅ヲ課ケルノミデ、第
二種所得稅ヲ課ケナイノデアリマス、是ハ
權衡ヲ得ヌデハアリマスマイカ、一體國家
ノ信用ヲ以テ公債ヲ募集スルモノハ、地方
團體ノ信用ヲ以テ募集スルモノヨリハ、何
カノ關係ニ於テ都合ガ好イノデアリマス、
力ガ強イノデアリマス、然ルニ地方債ノ利
子ニハ第二種所得稅ヲ課ケ、更ニ資本利子
稅ヲ課ケテ居ル、カノ強イ所ノ國債利子ニ
對シテハ、タツタ一回資本利子稅ノミヲ課ケ
ルト云フコトガ、果シテ均衡ヲ得テ居リマ
スカ、私ハ一昨日モ豫算ニ關聯シテ大藏大
臣ニ伺ヒマシタガ、大藏大臣ハ動、モスレ
バ、地方財政ヲ輕シズル、或ハ之ヲ大事ニ
見ナイト云フ虞ガアルノデアル、私ハ一昨
日河川改修費ヤ、郡役所廢止善後措置ヤニ
付テ尋ネマシタ所、大藏大臣ハ之ニ答ヘラ
レナカッタ、自分ノ都合ノ惡イ事ニハ御答ニ
ナラナイ、之レト全ク同ジ筆法デアリマス、
地方財政ノ都合ノ惡イ所ニハ澤山課ケテ置
イテ、國家ノ財政ノ方面ニ付テハ、少ク課
ケルト云フコトハ、ソレガ中央政府ノ財政
ノヤリ方デアリマス、餘リ地方財政ヲ考ヘ
テ居リマセヌ、此點ニ付テ大藏大臣ハ何ト
御考ヘニナリマス、明確ナル御答ヲ願ヒ
タイノデアリマス、尙ホソレニ關聯シテモ
ウ一ツ御伺ヒ致シマスガ、ソレハ實業界ノ
殆ド輿論デアアル事ニ關係シテ居リマス、社
債ヤ公債ヲ持ッテ居ル者、或ハ銀行ノ預金ヲ
シテ居ル者ノ中ニハ勿論金ノ少イ者モアリ
マセウケレドモ、富豪ノ中ニ最モ澤山ア

ルノデアリマス、一體景氣ノ惡ルイ時分ニ
ハ、物ヲ持ッヨリハ金ヲ持ッテ居ル方ガ宜イ
ト云フ一ツノ「モットー」ガアリマス、景氣
ノ好クナル時分ニハ金ヲ持ッテ居ルヨリハ
物ヲ持ッテ居ル方ガ宜イガ、景氣ノ惡クナル
時分ニハ、物ヲ持ッテ居ルヨリハ金ヲ持ッ
テ居ルノガ宜イ、之ハ蓄財増富ノ眞理デア
ルモ知レマセヌガ、サウ云フ方ガ澤山アラウ
ト思ヒマス、ソレデ現金ヲ持ッテ居ル者之
ヲ銀行ノ預金シテ居ルトシマス、澤山ノ利
子ヲ得テモ、第三種所得ニ綜合サレナイカ
ラ、累進課稅ヲ受ケナイノデアリマス、唯
僅ニ第二種所得稅トシテ比例稅ヲ課ケラ
レルニ過ギヌ、畢竟逃ゲテ居ルノデアリマ
ス、大金持ニシテ現金ヲ持ッテ居ル者、即チ
銀行ノ預金ヲシテ居ル者、或ハ公債社債ヲ
持ッテ居ル者ガ、即チ輕ク稅セラレテ居ル
ノデアリマス、是レ私ガ現行稅制ヲ以テ富
豪ヲ庇護スルモノデアルト云フ所以デアリ
マス〔拍手〕大藏大臣ハ之ヲ改メヤウトシナ
イノデアリマス、ソレ故ニ私ハ大藏大臣ノ
財政政策ナルモノガ、富豪ヲ庇護スルモノ
デアルト謂ハレテモ仕方ガナイと思フノデ
アリマス、能クアル例デアリマスガ、會社
ガ増資ヲヤルト、良イ會社ニナレバ配當金
ガ二割、三割ニナルノデアリマス、二割三
割ニナルト、其配當額ガ多クナリ、ソレヲ
綜合課稅ニ致シマス、累進稅ガ課ケラレ
ルノデアリマス、併シ會社ヲ支配スル所ノ
富豪ハ、増資ノ形ニ依ラシメズシテ、社債
ヲ發行セシメ、自分ガ其社債ニ應募スルノ
デアリマス、富豪ハ社債ヲ持ッテ、其利子
如何ニ大ナルモ、比例稅デ而モ百分ノ五ノ課
稅シカ受ケナイノデアリマス、或ル程度ニ於
テ稅ヲ逃ゲテ居ルノデアリマス、是レ亦富豪
ノ逋稅方法デアアルノデアリマス、之ヲ綜合課
稅ニシイナノハ、即チ富豪ヲ庇護スル所以

デアリマス〔拍手〕濱口大藏大臣ノ財政々策
ハ、此點ニ於テ富豪庇護デアルト謂ハレテ
モ、辯解ノ辭ハナイと思フノデアリマス、
之ニ對シテ如何ナル御意見ヲ有テ居ラレ
マス、之ヲ伺ヒタイノデアリマス、ソレ
カラ次ニハ地租ノ免稅點ニ付テ御尋シタイ
ノデアリマス、之ハ大口サンカラモ御尋ガ
アリマシタ、大藏大臣モ此點ニ於テ認メラ
レテ居リマス、大藏大臣ノ地價二百圓以下
ヲ免稅スルト云フ趣旨ハ、御演說ニ依リマ
シテ、自作小農ヲ保護スルノ意味タト承
タノデアリマス、私ハ其趣旨ハ了承致シマ
シテ尋ネマセヌ、又大藏大臣モ認メラレテ
居ルヤウデアリマスガ、自分ノ居村ノ外ニ
於テ——居村外ニ於テ有スル所ノ田畑ヲ自
作スル所ノモノハ免稅シナイ、大口サント
ノ論爭ニ於キマシテハ、地主ノ關係トシテ
見テ居ラレマシタガ、私ハ自作同ニ關聯シ
テ聞キマス、村ノ境目ニ居ル人間ガ居村ニ
於テ田畑ヲ持ッテ、之ヲ耕スノミナラズ、居
村外ニ於テ田畑ヲ有シ自作シテ居ル者ガ隨
分アルと思フノデアリマス、大藏大臣ハ自作
小農ヲ保護スル趣旨デアルト言ヒナガラ、居村
外ニ於テ自作シテ居ル者ハ免稅シナイト謂ハ
レルノデアリマス、之ハ不當デハナイデアリ
マセウカ〔ソレハ例外デ〕ト呼フ者アリ〕例
ト謂ハレマシテモ、不當ハ不當デアアル——之
ヲ例外ト謂ハレマスナラバ例外ト致シテ置
キマシテ、私ハ他ノ論點カラモウ一ツ伺ヒ
マス、此地價二百圓打切ルト云フコト
ニ付キマシテ、私ハ非常ニ不公平ガ起リハ
セヌカト虞ル、ノデアリマス、既ニ大藏大
臣モ御演說ガアリマシタデスガ、一體今日
ノ地價制度ナルモノガ宜シクナイ、ソレデ
賃賃價格ニ變ヘヤウト言ハレルノデアリマ
ス、此地價ノ制定當時ニ於テ既ニ公平デナ
カク經濟ノ發達ニ依リマシテ、尙ホ更公

平デナクテ居ル殊ニ地方ト地方トノ間ニ於キマシテ、非常ニ均衡ヲ得テ居ナイ事ニナリテ居リマス、然ルニ今矢張地價ト云フモノニ依リテ、二百圓ヲ境ニ免稅スル免稅セナイト云フコトニ決メラレタナラバ、是ハ不公平ニ不公平ヲ重ネルコトニナルダラウト思ヒマス、ソレハドウ云フ譯カト申シマス、先ヅ一ツノ觀察點ハ、各府縣ニ於キマシテ以前カラ地價ノ定メ方が高カッタリ低カッタリシテ違テ居ルノデアリマス、是ハ天下周知ノ事實デアリマス、例ヘバ能ク申スコトデアリマスガ、山口縣ノ地價ハ非常ニ低イ、統計ニ依リテ見マシテモ、最も低イモノハ一段二錢一厘ノ所ガアリマス、實ニ低イモノデアルト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ地價ノ制定當時ニ低ク定メラレテ居ル所ノモノヲ、二百圓デ打切りマシテハ、非常ニ澤山ノ土地ヲ持ッテ居ル者マデモ免稅セラレマス、之ニ反シテ制定當時ニ地價ガ割合ニ高カッタ地方デハ比較的僅カナ田畑ヲ持ッ者モ免稅セラレナイト云フコトガ起テ來ルノデアリマス、地方ト地方トノ間ニ非常ニ不公平ヲ生ズルノデアリマス、一例ヲ申シマスガ、茲ニ近イ所ノ山口縣ト、廣島縣ト、岡山縣ヲ取ッテ之ヲ見マスルニ、山口縣ノ田地價ハ一段ニ付キマシテ二十五圓餘デアリマス、之ニ反シテ岡山縣ハ四十圓餘、廣島縣ハ三十七圓餘デアリマス、今政府案ヲ以テ免稅點ノ適用ヲシテ見マシタナラバ、山口縣デハ八段位ノ所カラ免稅サレマス、岡山縣ハ五段位ノ邊ガ免稅サレマス、是ハ大ナル相違デアルト思フノデアリマス、是ハ大變ナ不都合デハナイデセウカ(拍手)岡山縣ト山口縣、岡山縣ト廣島縣、タント違ハヌヤウナ經濟狀態ニ居ル所ノモノデアリナガラ山口縣ハ八段デ免稅サレ、岡山縣ハ五段シカ免稅サレヌト

云フコトハ、極メテ不公平ナ事デアルト思フ(拍手)尙ホモウ一ツ論點ヲ變ヘテ申シマス、ソレハ田畑ト畑トノ關係デアリマス、地價ノ評定セラレタ時分ハ、御承知ノ通り明治八九年ノ交デアリマシテ、此畑ト田トノ地價ノ定メ方ガ非常ニ違テ居リマス、即チ田ハ、米ノ收益ニ依リテ之ヲ當時ノ金利デ還元ヲシテ地價ヲ定メタノデアリマス、畑ハ其當時ノ麥トカ小麥トカ豆トカ云フモノノ收益ヲ當時ノ金利デ還元シテ畑ノ地價ヲ算定シタノデアリマス、此クシテ當然此相違ガ來タノデアリマス、今全國ノ平均ヲ申シマスト、田ハ一段ガ三十四圓程デアリマス、畑ハ之ニ反シテ八圓程デアリマス、詰リ田畑ノ地價ノ相違ト云フモノハ夥シイモノデアリマス、然ルニ今日ハ農法ガ進ミマシテ、農業政策モ其效ヲ奏シタノデアリマセウガ、畑ヨリ受クル所ノ收益ガ甚ダ多クナタノデアリマス、或ハ養蠶ニ於キマシテ、或ハ果樹ヲ栽培スルニ於キマシテ、畑カラ澤山ノ收益ヲ得ルコトニナッタノデアリマス、是ガ故ニ現實ニ於キマシテハ、田ト畑トノ間ニ賣買價格ガ大變近寄ッテ來タノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、昔ノ地價ヲ標準ト致シマシテ、而モ二百圓ヲ免稅點ト定ムルノデアリマスカラシテ、畑ヲ比較的澤山持ッテ居ル地方ニ於テハ、例ヘバ一段八圓平均ト致シマシタナラバ、二町五段ヲ持ッテ居ル所ノ者ガ免ゼラル、ノデアリマス、然ルニ田ダケ持ッテ居ル地方デハ田五段九畝、即チ六段足ラズノモノシカ免稅セラレナイノデアリマス、事實ニ於キマシテ田畑ノ收益ガ相近付イテ來テ、田畑ノ土地賣買價格ガ相近付イテ來テ居ルニモ拘ラズ、地價二百圓ヲ持ッテ打切ルト云フコトデアレバ、畑ヲ澤山持ッテ居ル地方ガ多ク免稅セラレ、田シカ持ッナイ地方ハ割合ニ免稅

セラレルコト少ナイト云フコトニナル、非常ニ不公平ヲ生ズルモノデアリマスマイカ(拍手)是ハ農業政策ノ上ニ於テ、或ハ自作農ヲ保護シテ行クト云フ上ニ於キマシテ、決シテ輕視スルコトガ出來ナイト思フノデアリマス(拍手)此點ニ於キマシテ政府ハ尙ホ公平ナリト主張セラルルヤ否ヤ(地價修正ヲスレバ宜シイデハナイカ)ト呼ブ者アリ其他發言者多シ

○議長(粕谷義三君) 靜肅ニ願ヒマス

○小川郷太郎君(續) 地價修正ヲスルト云フコトハ、政府案ニハアリマセヌ、政府ハサウ云フ案ヲ有シテ居リマセヌ(ヒヤ)ソレカラモウ一ツ伺ヒタイノハ法人所得稅ニ關スル事デアリマス、法人留保所得稅ノ累進課稅ヲ廢シマシテ、配當所得稅ト之ヲ併合シテ百分ノ五ノ率ヲ課セルト云フノガ政府案デアリマス、私ハ此點ニ對シテ伺ヒタイノハ、法人留保所得ニ對シテ累進課稅ヲ廢スルト云フ理由如何ト云フコトデアリマス、大藏大臣ノ説明セラル、所ニ依リマス、此稅ヲ存ジテ置ケバ積立金ヲ少クシテ、會社ノ基礎ヲ薄弱ニスルト云フ趣旨ノヤウニ承リマシタ、所ガ其適用ヲ受ケル所ノモノハ何デアアルカト申シマスレバ、今日ノ稅法ニ依リマシテ法人ノ積立金ガ拂込資本金額ノ半バニ達シタ場合、又ハ半バニ達セントスル場合ニ於テ更ニ留保所得ガアルト、ソレニ對シ掛ッテ來ルノデ累進稅ガアリマス、問題ハ其點以上デアリマス、其積立金ガ澤山ニナイ所デハ問題ハナイノデス、所デ今ノヤウナ場合ヲ想像シテ考ヘマスルニ、是ガ必シモ積立金ヲ少クスルト云フコトニナラナイ、今日ノ現行法ニ於キマシテ、基礎ノ鞏固ナル會社ガ更ニ積立金ヲ積マナイ様ニナッテ居ルカドウカト云フト、サウデナイト私ハ思ヒマス、中ニハ積立金

ガ多クナレバ累進課稅ガ掛カリマスカラ、ソレヲ避ケルコトヲ考ヘル者モアリマセウ、或ハ間ク所ニ依リマスト、財産ノ低ク見積リ貸借對照表ヲ作ル者ガアリ、或ハ減價償却ヲ多クスルト云フ者ガアッテ、事實會社ノ基礎ヲ鞏固ニシテ居ル者ガアルノデアリマス、ソレカラ或ハ今迄積立來レル積立金ヲ株ノ拂込ニ代ヘテ、増資ヲ圖ルト云フコトモ起ッテ來マセウ、サウ云フ場合ガアリマシテモ、會社ニ存在シテ居ル所ノ資本ヲ少クスルニアラス、唯モ表面ノ資本金額ヲ多クシ、又配當率ヲ低クスルト云フ事ニ外ナラヌノデアリマスシテ、今日非常ニ澤山ノ配當ヲシテ居ル所ノ會社ニ對シテハ、サウ云フ風ニスルノガ、社會カラ憎マレザル所以デアアル、隨テ少シモ會社ノ基礎ヲ薄弱ニナラナイト思ヒマス、何ヲ以テ會社ノ基礎ヲ薄弱ニスルト云ハレルノデアリマスカ、其理由ヲ解スルニ苦シムノデアリマス、尙ホモウ一步ヲ進メテ考ヘ、負擔ノ均衡カラ云フナラバ、如何デアリマセウカ、既ニ積立金ノ澤山アル所ノ會社ハ、積立金ノ少ナイ會社ヨリハ事實會社ノ基礎モ堅イノデアアルシ、力強イノデアリマス、サウ云フモノガ更ニ積立金ヲスルト云フ事ニナレバ、ソレニ對シテ重イ稅ヲ課ケテ何ノ差支ガアルノデアリマセウ、是ハ負擔均衡カラ云ヘバ當然ノ事デアリマス、之ヲ個人所得稅ニ付テ見マシテモ、個人ノ營業者ガ大變金ヲ儲ケマシテソレヲ又積立テ、個人營業ノ資本トシテ更ニ一段手ヲ擴ゲテ經營シテ行ク時分ニ、之ニ對シテ比例稅ニスルト云フコトハナイノデアリマス、矢張累進課稅ヲヤッテ居ルノデアリマセヌカ、サウシタナラバ何ガ故ニ會社ノミデ、斯ノ如ク積立金ノ澤山アル會社ノ基礎ノ固イ所ノモノニ向ッテ輕キ稅ヲスルト云フコトヲ考ヘルノ

デアリマス、之ニ對シテ輕ク稅スルト云フコトヲ考ヘルナラバ、即チ富策、金持階級ヲ稅制ノ上カラ庇護スルト云ハレテモ辯解ノ言葉ハナイト思ヒマス、併シ大藏大臣ハ本黨ガ、斯ル趣旨ニ於テ反對シテ居ルト云フコトヲ考ヘラレタノカドウカ知リマセヌガ、同族會社ニ付キマシテハ、配當所得ト留保所得トヲ離シテ考ヘ、之ヲ一緒ニシテ居ラヌ、形ノ上デハ現行制度ヲ維持スルヤウニ見セラレテ居ルノハ、或ハ本黨ノ主張ニ近寄テ來タコト、見テヨイ様デアル、此點ニ於キマシテ私ハ大藏大臣ニ敬意ヲ表スル者デアリマス、以上諸點ニ付キマシテ大藏大臣ノ明確ナル御答辯ヲ煩ハシタイト思ヒマス

○加藤知正君 議事ノ進行ニ付テ質問致シマス

○議長(粕谷義三君) 答辯ノ後デハイケマセヌカ、大藏大臣ノ答辯ガアリマスカラ其ノ次ニ……

○加藤知正君 宜シウゴザイマス

(國務大臣濱口雄幸君登壇)

○國務大臣(濱口雄幸君) 小川郷太郎君ノ第一ノ御質問ハ、直接國稅ノ體系ニ關スル事デアリマス、御承知ノ通り今日ノ所得稅ハ第一種、第二種、並ニ第三種、此三ツノモノヲ總括シテ所得稅ニナッテ居リマス、其所得稅ニ對シマシテ、補完稅トシテ地租ガアリマス、其次ニ現在營業稅ガアリマス、之ヲ此度營業稅改メラレノデアリマスガ、營業稅ガアリマス、其次ニ此度新ニ設ケントスル所ノ資本金子稅ガ第三ノ補完稅トシテアル譯デアリマス、斯ノ如ク土地ノ資本ニ對シテ地租ヲ課シ、家屋ノ資本ニ對シテ營業收益稅ヲ課シ、資本ノ利子ニ對シテ資本金子稅ヲ課シマス以上ハ、今一ツ殘タモノガアル、ソレハ即チ家屋ニ投ゼラレタル所ノ資本デアリマス、先刻モ申上デマシタ通り、純理論カラ申シマスレバ、是亦

所得稅ノ補完稅トシテ國稅ニ收メマスルコトガ正當デアラウト考ヘマスガ、一ニハ地方ノ財源ノ事ヲ考慮致シマシテ、今一ツニハ國稅トシテ家屋稅ヲ賦課徵收スルコトノ困難ナル事情ガアルト云フコトヲ考ヘマシテ、是ハ純理論ニ依ラズシテ、實際上ノ必要ト便宜トニ考ヘテ、是ハ地方稅ニ委ネタルデアリマス、即チ一般所得稅ト申シマスルカ或ハ單ニ所得稅ト申シマスルカ、ソレガ中心ニナッテ居リマシテ、ソレヲ補完スルガ爲ニ國稅トシテハ茲ニ三ツノ補完稅ガアル、地方稅トシテ家屋稅ガアリ、此四ツノ補完稅デ以テ、一般所得稅ノ缺點ヲ補完スル、斯ウ云フノガ此度ノ稅制整理ニ依ル所ノ直接國稅ノ體系デアリマス、此機會ニ於テ各補完稅ノ課稅標準ノ事ニ付キマシテ、一應私ハ辯ジテ置ク必要ガアルト存ジマス、四ツノ補完稅ノ中、地租ハ將來賃賃價格ヲ課稅標準トスル計畫デアル、地方稅ニ委ヌベキ所ノ家屋稅ハ、是亦賃賃價格ニ依ルト云フ計畫デアル、然ルニ營業收益稅ノミガ營業收益ヲ課稅標準トスル、是ニ於テカ此三ツノ補完稅ノ課稅標準ガ一致ヲ缺イテ居ルト云フ意味ノ御質問ガ、內務大臣ニ對シテ先刻大口喜六君カラモアッタノデアリマス、申スマデモナク、賃賃價格ト申シマスレバ、即チ純益ニ極メテ近イノデアリマス、賃賃價格ノ幾割ガ純益デアラカト云フコトヲ此席ニ於テ私ハ斷言ハ致シマセヌケレドモ、大體ニ於テ純益ニ近イ所ノ課稅標準ハ賃賃價格デアリマス、ソレ故ニ地租ニ於テモ賃賃價格ヲ課稅標準トスルコトニ致シ、地方ニ委ヌベキ所ノ家屋稅ニ於テモ、純益ニ近イ課稅標準ヲ採ッタノデアリマス、然ラバ殘リマシタ營業稅ハ、何カ純益ニ近イ所ノ課稅標準ヲ發見スルコトガ出來ルヤ否ヤト云フ問題デアリマス、此點ニ於テハ政

府モ相當ニ考慮、研究ヲ致シマシタガ、何ト致シマシテモ現在ノ外形標準タル所ノ資本金額、費上金高、或ハ從業者ノ數ト云フヤウナモノヲ存スルカ、然ラズンバ一歩進メマシテ營業純益ヲ課稅標準トスル外ニハ、其中間ニ於テハ純益ニ近イ課稅標準ヲ求メルコトハ出來ナイノデアリマス、若シ其點ニ付テ斯ウ云フ課稅標準ヲ設クレバ、ソレハ丁度地租並ニ家屋稅ノ賃賃價格ニ相應スルモノデアラウト云フ御名案ガアリマスレバ、改メテ承リタイト思ヒマス、ソレヲ承テ又意見ヲ申上ゲルコトモアラウト思ヒマスガ、政府ノ調査ニ依レバ、營業稅ニ付テハ何ト致シマシテモ他ニ適當ナル課稅標準ヲ求メルコトガ出來ナカッタ、是ニ於テカ一歩進ミマシテ、營業純益ヲ以テ賃賃價格ト致シタノデアリマス、併シ其營業純益タルリデアリマスガ、所得稅ニ於ケル所ノ所謂純益ナルモノトハ多少計算ノ方法ヲ異ニシテ居ル積リデアリマス、諸君直接國稅ノ大體ノ體系ハ左様デアリマスルガ、茲ニ小川君ガ起サレマシタル所ノ御質疑、即チ所得稅法ノ中ニ於ケル所ノ第二種ノ所得稅ノ主トシテ、甲デアリマセウ、其甲ニ屬スル所ノ公債、社債、銀行ノ預金等ニ關スル所ノ課稅、ソレカラ此度政府ガ新ニ起サントスル所ノ資本金子稅トノ關係如何ト云フ御質問デアッタノデアリマス、是ハ所得稅ト補完稅トノ關係ヲ申上ゲルノガ一番簡單デアリマス、第一種所得稅ト申シマシタ所デ、是ハ他ノ所得ト少シモ變ラヌ積リデアリマス、即チ一般所得稅ノ中デアリマス、ソレニ對シテ地租ト云フ補完稅ガアル如ク、又營業稅ト云フ補完稅ガアル如ク、家屋稅ト云フ補完稅ガアル如ク、資本金子稅ト云フ補完稅ガアルノデアリマス、資本金子稅ト

云フ此度ノ新稅ノ一般所得稅ニ對スル關係、地位ト云フモノハ、恰モ地租、營業收益稅、又ハ家屋稅ノ一般所得稅ニ對スル所ノ關係、地位ト同様デアルト御承知ヲ願ヒタイノデアリマス、然ラバ何故ニ同ジヤウナ形ノモノヲ二ツ拵ヘルノカ、所得稅法ヲ見レバ第二種所得ノ甲ト云フモノガアル、ソレニハ公債、社債、銀行ノ預金等ヲ列擧致シ、之ニ對シテ比例稅ヲ配當致シタル、此度ノ資本金子稅ノ創設ノ法案ヲ見レバ、是亦同様ナル所得稅ノ種類ヲ列記致シ、之ニ對シテ比例稅ヲ課シテ居ル、何故ニ斯ノ如キ二重ノ稅ヲ課スルカト云フ御質問デアリマスガ、政府ノ考ヘル所ニ依リマスレバ、所得稅法中ノ第二種ノ公債、社債、銀行預金等ニ對スル所ノ此源泉課稅ト云フモノハ、先刻小川君ガ政友本黨ヲ代表セラレテ、法律案提案ノ趣旨ヲ御辯明ニナリマシタ時ニ、御述ニナリマシタ通り、純理論上ノ要求ト致シマシテハ、出來得ベクンバ、是ハ第二種所得稅ト云フモノニ據置クト云フコトヲ止メテ、第三種所得ニ綜合致シ、他ノ所得ト共ニ綜合課稅ヲスルノガ最も適當シタ遺リ方デアラウト考ヘマスガ、併ナガラ今日徵稅上ノ實際ヲ考ヘ、又國民ノ納稅思想ノ程度如何ト云フコトヲ熟、攻究ヲ致シ、觀察ヲ致シテ見マスルニ、サウ云フ時期ニハ未ダ達シテ居ナイノデアリマス、遺憾ナガラ、我ガ國民ハ未ダ納稅上ニ付キマシテ、理想的ノ觀念ヲ持テ居リマセヌ、苟モ機會ノ乘ズベキアラバ何トカ云フ方法ヲ設ケテ、通稅若クハ脫稅ヲ圖ラントスル傾向ガマダ一般ニ浸潤シテ居ル今日ノ狀態ニ於テ、此第二種ノ所得稅ト云フモノヲ廢シマシマシテ、大部分ガ無記名デアリマス所ノ公債ノ利子、或ハ社債ノ利子、或ハ銀行ノ預金等ニ對シマシテ、之ヲ源泉ニ依ッテ課稅ヲ徵

收スルト云フコトヲ廢シ、一度受取人ノ懷中ニ這入タ後ニ於テ、申告アルニ依ッテ之ヲ第三種ノ所得ト綜合課稅ヲセントスルト云フコトハ、到底ハ出來ナイノデアリマヌ、若シ理論ノ要求ヲ絕對的、徹底的ニ貫徹センガ爲ニ、假ニ法律上第二種所得ヲ廢シテ、政友本黨ノ御主張ニナリマス如ク、之ヲ第三種所得ト綜合課稅ヲスルト云フ法律ヲ設ケテ、サウシテ課稅致シマスナラバ、其收入ハ今日ニ比較致シマシテ、遙ニ減少スルデアラウト思フノデアリマス、株式ノ配當ハ綜合課稅ヲ致シテ居リマスガ、是ハ御承知ノ通り大體ニ於テ記名デアリマス、公債、社債、是ハ大體ニ於テ無記名デアリマス、又銀行預金等ニ至リマシテハ、一度銀行ノ手ヲ離レテ預金者ノ懷ロニ這入リマシタ以上ハ、進ンデ之ヲ申告スルト云フハ、餘程ハ名譽ヲ重ンズル紳士デアリマス、多クノ人々ハ之ヲ申告スルト云フコトハ私ハ期待スルコトハ出來ナイノデアリマス、其申告ガナイ者ヲ捉ヘテ、政府ノ決定ニ依ッテ、之ヲ徵收セント致シマシテモ、其材料タルヤ頗ル之ヲ得ルコトガ困難デアリマス、ソレ故若シ小川君ガ御主張ニナリマシタ通り第二種所得カラ、公債、社債、銀行ノ預金利子等ハ之ヲ引抜イテ、サウシテ第三種所得ト綜合課稅スルト云フ政友本黨ノ提案サレタル法律案ガ、假ニ此議場ヲ通過致シ、兩院ノ協賛ヲ經テ法律トナタ時ニ於キマシテハ、恐クハ所得稅ノ收入ハ現在ニ比較致シマシテ、非常ニ減少スルデアラウト思フノデアリマス、若シ小川君ノ言ハレル如ク公債、社債、銀行ノ預金利子等ハ多クハ中流以上ノ富豪ノ所得デアルト假定致シマスナラバ、斯ノ如キ法律ノ變更ト云フモノハ、即チソレニ依ッテ脫稅、通稅ヲ行ハシメ、所得稅ノ收入ヲ減ジマスルニ

依ッテ、ソレコソ却テ小川君ノ所謂富豪ヲ保護スルト云フ結果ニナラウト思ヒマス、斯ノ如キ實際上ノ差支ガアリマス爲ニ、是ハ大藏省ニ於テモ年來ノ懸案デアリマスルガ、第三種ノ所得トハ區別ヲ致シマシテ、第二種ノ所得ト致シテ別ニ掲ゲテ置イテ、サウシテ源泉課稅ヲ行フテ居ルト云フコトハ、今日ノ國民ノ納稅思想ノ現狀カラ考ヘマシテ、洵ニ已ムヲ得ナイコトデアリマス(拍手)ソレカラ國債利子ニ所得稅ヲ課シナイノハ不權衡デハナイカト云フ御質問デアリマス、是ハ理論上カラ論ジマスレバ、サウ云フ御議論ガ出ル餘地ガアラウト考ヘマス、御承知ノ如クニ國債ノ利子ニ所得稅ヲ課セナイト云フコトハ、長イ間ノ沿革ヲ持テ居リマス、即チ公債政策カラ來タ所ノ多年ノ沿革ヲ重ネテ今日ニ至ッテ居ルノデアリマス、然ラバ此所得稅ヲ課セナイ、國債ノ利子ニ所得稅ヲ免除スルト云フ法律ヲ拵ヘマシタ當時ト、今日ノ公債ノ狀態トヲ比較致シマシテ、最早此特典ヲ廢シテ、國債利子ニ向ッテモ所得稅ヲ課シテ宜シイ狀態ニナッテ居ルカト考ヘマス、是ハ容易ニ左様ナル判斷ヲ下スコトハ出來ナイダラウト思ヒマス、今日ハ新規公債ノ發行額ハ、御承知ノ通り出來ルダケ減少致シテ居リマスルガ、ソレデモ尙ホ年額一億五千万ヲ算シテ居リマス、其外ニ公債ノ借換ヲ要スルモノガ、年々二億圓乃至三億圓ノ多キニ達シテ居ル、而シテ此公債ノ總額ト云フモノハ、今日ノ狀況ヲ以テシマスルト云フト、縱令万分ノ百十六ノ元金償還ヲ總行致シテ居リマスルニ拘ラズ、其五十億圓ノ公債ト云フモノガ年々ドレ位ノ割合ニ減少致シ、何時ニナレバ全部ヲ償還スルト云フ計畫ハ殆ド立チ兼ねタル狀態デアリマス、隨テ此公債政策ニハ、何レノ内閣ニ於テモ頗ル

重キヲ置キ來タノデアリマスルガ、今日ノ狀態ニ於テ、現内閣ハ此國債ノ利子ニ對スル課稅ヲ始メテ、多年ノ間傳統的ニ與ヘテ居タ所ノ所得稅免除ノ特典ヲ一朝ニ奪テシマッテ、新ニ國債ニ向ッテ所得稅ヲ課スルト云フ處置ニ出ヅルコトハ出來ナイノデアリマス、併ナガラ此度ノ新設スベキ所ノ資本利子稅ニ於キマシテハ、他ノ有價證券同様、國債ニ對シマシテモ百分ノ二ノ捕完稅ヲ課スルヤウニナツタコトハ、是ハ御承知ノ通りデアリマス、其次ニ地租ノ免稅點ニ關スル所ノ御質問ガ出タノデアリマス、住所タル所ノ市町村ニ於ケル田地地價二百圓未満ノモノヲ持ッテ居ル者ニハ、地租ハ徵收シナイト云フ法案デアリマスルガ、其住所以外、即チ居村以外ニ於テ土地ヲ持ッテ居ッテ、而モ之ヲ自作シテ居ル者ガアルト云フ場合ニ於テ、是ハ此法案ノ解釋ト致シマシテハ、免稅スルコトハ出來ナイコトニナリマス、屢、繰返シテ申シマス通り、居村以外ニ於テ土地ヲ持ッテ居リマス者ハ、大體ニ於テ私ハ小作ニ付シテアルモノト考ヘマス、固ヨリ自作ヲ致シテ居ル者モ絶無トハ決シテ申シマセヌガ、是ハ大局カラ考ヘマスレバ、極メテ例外デアルト云フコトハ屢、申上ゲタ通りデアリマス、第二ニ小川君ノ御述ニナリマシタ御疑問ハ、現在ノ法定地價ト云フモノハ非常ニ不公平ナモノデアアル其不公平ナル法定地價ト云フモノヲ基本ト致シテ、法定地價二百圓未満ノ田畑ニ對シテ地租ヲ免除スルト云フ制度ヲ設ケルト云フコトハ、更ニ不公平ヲ重ネルモノデアリカト云フ御質問デアッタノデアリマス、如何ニモ今日ノ法定地價ハ不公平極マルノデアリマス、其不公平ナルモノヲ認メマシタルガ故ニ、政府ハ此法定地價ヲ改メマシテ、賃賃價格ニ依ッテ課稅スルト云フ

計畫ヲ定メ、不日其法案ヲ議會ニ提案ヲ致シマシテ、御協賛ヲ仰グコトニナル積リデアリマス、ソコデ其間ノ經過法ト致シマシテ、二箇年ノ間賃賃價格ノ調査ニ掛リマスルニ、依ッテ地租ノ根本的改正、即チ賃賃價格ニ依ル地租ヲ課スルコトニナルト云フ其新法ハ、大正十七年度デナケレバ實行スルコトガ出來マセヌガ、然ラバ十七年度ニ至リマスマデ二箇年ノ間、地租ニ全ク手ヲ著ケヌデ宜シイカ、或ハ一部手ヲ著ケテ、多少之ヲ輕減スルコトガ宜シイカト云フ問題デアリマス、小川君ノ御議論ハソレニ手ヲ著ケヌデモ宜シイト云フ御考デアルカモ知レマセヌガ、縱令過渡ノ際ト雖モ、二箇年ノ間トハ云ヒナガラ其經過の期間ノ間、之ニ對シテ相當ノ恩惠ヲ施シ、負擔ヲ輕減スルコトガ適當デアルト信ジタノデアリマス、(拍手)而シテ若シ此不公平ナル法定地價ニ對シ、假令今日ノ地租ノ利子ノ百分ノ四箇半トアル、之ヲ百分ノ五トスル、百分ノ六トスルト云フ爲ニ増稅ヲ致シマスト假定スルナラバ、是ハ小川君ノ所謂不公平ヲ重ヌルコトニナリマスケレドモ、此度政府ノ提案ト致シマシテハ、其不公平ナルモノニ對シテ減稅ヲ行ハントスルモノ、免稅ヲ行ハントスルモノデアリマスニ依ッテ、決シテ不公平ヲ重ヌルト云フ結果ニハナラヌノデアリマス(拍手)即チ其不公平ヲ或程度ニ於テ輕減スルト云フ結果ニコソナレ、此不公平ヲ重ヌルト云フ結論ハ決シテ出來ルモノデアナイト考ヘマス、要スルニ地價二百圓ヲ標準ト致シテ地租ヲ取ルト云フコトハ、取ラヌト云フコトヲ決シマスルト云フコトハ、地價ガ公平デナイ結果トシテ多少ノ不公平ヲ生ズルコトハ已ムヲ得ナイノデアリマスルガ、是ハ地價二百圓未満ヲ免除スルト云フ制度ヲ設ケルガ爲メ起タル所

ノ不公平デハナイノデアリマシテ、其根本タル法定地價ノ不公平デアリマス、ソレ故ニ政府ハ其ノ根本ニ廻リテ法定地價ニ修正ヲ行ヒ、二箇年後ニ於テ賃賃價格ニ依リテ地租ヲ課税スルト云フ新法ヲ行ハントスル計畫デアルト云フコトハ前日申述べタ通リデアリマス、ソレカラ第一種ノ所得即チ法人ノ所得ニ付テ、留保所得ノ累進課税ヲ廢シテ比例税ニ改メタルコトモイカヌト云フ御質問デアッタノデアリマス、是ハ先日税制整理ニ關スル諸法律案ノ説明ノ時ニ於テ詳細申述べマシタ通り、今日留保所得ニ對シマシテ最低百分ノ五乃至百分ノ二十ト云フ累進の課税ヲ爲シテアリマス其立法ノ趣旨ハ、小川君能ク御承知デアラウト思ヒマスガ、此課税規定ヲ設ケマシタ其理由ハ、一ニ綜合課税ヲ免レンガ爲ニ不當ノ留保ヲ爲ス者ガアルト云フ其傾向ヲ慮テ、之ニ對シテ相當ノ規定ヲ設ケル、是デ其趨勢ヲ止メルガ爲ニ設ケタ所ノ規定デアリマス、其他ニ付テハ何等理由ハナカッタデアリマス、即チ綜合課税ヲ回避セントスルモノニ對スル所ノ適當ナル規定デアッタニ外ナラヌデアリマス、然ルニ總テノ會社、總テノ法人ニ對シテ同様ノ累進の課税ガ行ハレマスル結果ト致シマシテ、初カラ致シマシテ同族會社デモナク、又同族會社デアリマシテモ決シテ綜合課税ヲ免レヤウト云フ如キ間違タル考ヲ持ッテ居ナイ所ノ其普通ノ法人會社ニ對シマシテモ、此累進の課税ガ同様ニ適用サレマスル結果ト致シマシテ、茲ニ正當ナル、當リ前ノ法人ハ甚ダシク課税上ノ苦痛ニ陥ルノデアリマス、其結果トシテ動モスルト云フト積立金ヲ減少スル、

或ハ積立金ヲ殖スベキ所ヲ殖サズニ濟マスト云フヤウナ結果ヲ惹起シマシテ、左様ナル結果ヲ惹起シマスと云フコトハ取モ直サズ事業ノ基礎ノ鞏固ヲ妨ゲ、産業ノ發達ヲ助成スル所以ニアラズト認メマシタルニ依リ、此規定ヲ此度ハ改正致シマシテ百分ノ五ノ最低ノ比例税ニ改メ、サウシテ同族會社ノ綜合課税ヲ回避セントスルガ爲ニスル其行爲ニ對スル適當ナル規定ト云フモノハ、是ハ新法案ニ於キマシテ新ニ之ヲ設ケタノデアリマス、即チ第二十一條ノ二ニ於テ周密ナル所ノ規定ヲ設ケ、十分ニ之ヲ活用致シマシテ其弊害ヲ除クト云フ見込ガ立テ居ルノデアリマス、既ニ其見込ガ立チマサル以上ハ、何ヲ苦ンデ事業ノ基礎ヲ薄弱ナラシメ、産業ノ發展ヲ妨ゲルガ如キ累進課税ノ存置ヲ必要ト致シマセウ、ソレニ依テ其同族會社ニ對スル所ノ新ナル規定ヲ設ケマスルト同時ニ、此留保所得税ニ對スル所ノ累進の課税ノ制度ヲ廢シタ譯デアリマス、大體御答ヲシタト思ヒマス(拍手)

○議長(粕谷義三君) 小川郷太郎君

(小川郷太郎君登壇)

○小川郷太郎君 私ハ質問ヲスル積リハ無カッタノデシタガ、今ノ大藏大臣ノ御答辯ヲ聽キマシテハ、一言セザルヲ得ナイノデアリマス、第一第二種所得税ハ一般所得税デアルト云フヤウナ御話デアリマシタ、是ハ甚シク世間ノ解釋ト異ナリ居リマス、若槻内務大臣ハ一般所得税ト云フ言葉ヲ能用ヒラレマスルガ、若槻内務大臣ハ果シテ今大藏大臣ガ説明ニナッタヤウ赤意味ニ於テ、一般所得税ト云フコトヲ用ヒラレタノデアリマスルカ伺ヒタイモノデアリ

マス、一般所得税ヲ中心ニシテ地租、營業稅ヲ補完税トスルト云フ、其一般所得税ナルモノハ、有ユル財源カラ來ル所ノ所得ヲ集メタモノヲ指ス、ソレガ一般ト云フ譯デアリマス、其一般所得ニ累進課税ヲ掛ケルト云フノガ精神デアリマス、或ハ會社ニ於キマシテモ總益金ヨリ總損金ヲ引クノデアリマス、即チ其總益金ナルモノハ有ユル方面カラ入ッテ來タモノヲ、皆綜合シテ言フノデアリマス、第三種所得税モ亦此意味ニ於キマシテ、有ユル方面カラ集メテ來ル所ノ所得ヲ綜合スルノデアアル、即チ田畑所得、或ハ山林所得、或ハ營業所得、或ハ勤勞所得、或ハ株ノ配當金、サウ云フヤウナモノヲ皆集メテ之ニ綜合課税ヲスルト云フノガ即チ一般所得税デアリマス、併ナガラ私ハ言葉ヲ爭ヒマセヌ、言葉ハ何方ニナッテモ宜シイノデアリマスルガ、一方ニハ有ユル所得ヲ綜合シテ之ニ課税スル所ノ所得税ヲ置キ、他方ニ於テ或ハ地租或ハ營業税、或ハ資本利子税ト云フ風ニ一ツノ財源ニ付テ別々ニ掛ケル税ヲ之ニ對立セシメテ居ルモノガ、即チ租税體系ヲ爲スト云フ譯デアリマス、然ルニ第二種所得ナルモノハ何等他ノ所得ト關係シテ見ナイノデアリマス、公債ノ利子、社債ノ利子其儘デ、ソレガ五圓デアッテモ三圓デアッテモ、ソレニ對シテ幾何カ税ヲ掛ケルノデアアル、ソレガ即チ第二種所得税デアリマス、之ヲシモ一般所得税ト言ハレルヤウニナリマス、何ガ一般所得税カ分ラナクナリマス、吾々ノ常ニ用ヒテ居リマスル所ノ言葉ガ曖昧ナルノデアリマス、大藏大臣ハ財政ノ當局者デアリナガラ、斯ウ云フ普通ニ用ヒラレテ居ル所ノ言葉ヲ特ニ

違ヘテ解釋セラレルト云フコトハ、私ノ解シ得ザル所デアリマス(拍手)免ニモ角ニモ一般所得税ト云フ言葉ハ何方ニシテモ宜シウアリマスケレドモ、公債ノ利子、社債ノ利子、銀行預金ノ利子ニ第二種所得税ヲ掛ケルノデアアル、ソレカラ公債ノ利子社債ノ利子、銀行預金ノ利子、ソレニ資本利子税ヲ掛ケル、性質ハ同ジデハナイカ、果シテ何所ガ違ヒマスカ、是ガ違フト云フコトヲ聞クト、私ハ大藏大臣ガ餘程辯ヲ好ム者デハナイカト思フノデアリマス(拍手)ソレカラ尙ホ第二種所得税ヲ第三種所得ニ綜合課税スルコトハ困難デアルト云フコトノ其御説明ノ中ニ、多クハ無記名デアルト申サレタノデアリマス、成程公債社債ハ株券ノ無記名ヨリハ多イ、是ハ數量ノ問題デアリマス、性質ハ無記名デモ抑ヘルト云フノガ今日ノ税制デアリマス、其趣旨ニ於キマシテ、現行法ニハ無記名株券ヲ抑ヘテ居ルノデハナイデセウカ、又大藏大臣ハ無記名デアアルカラシテ取レナイト仰シヤイマスガ、銀行預金ナルモノハ百億以上ニ達シテ居ル、是ハ第二種所得ノ中樞デアリマス、ソレハ無記名デアリマセヌ、其銀行ガ預金ノ利子ヲ拂ッテ之ヲ申告スルト云フ場合ニ於キマシテ、何故取ラレヌデアリマセウカ、大藏大臣ハ預金ノ利子ヲ受ケタモノ、公債社債ノ利子ヲ受ケタ者ガ申告シナイカラ脱税ガ行ハレルト云フコトヲ申サレタノデアリマス、成程利子ヲ受ケタ者ハ、多少申告ヲ偽ルデアリマセウ、ケレドモソレヲ偽ラセヌガ爲ニ、其利子ヲ拂ッタ者ヲシテ申告セシムルノデアアル、是ハ今日ノ所得税法ノ精神デアリマス、公債、社債ニ限ッテ居リマ

セヌ、俸給ヲ受テ居ル者、恩給ヲ受テ居ル者ハ、自ラ申告シマス、併シ其俸給ヲ拂ヒ其恩給ヲ拂フ方カラモ申告シテ居リマス、兩方面ノ申告ト云フコトガ、所得稅ノ精神デアリマス、是ガ故ニ第二種所得ヲ第三種所得ニ綜合課稅ヲスルニ於キマシテハ、其利子ヲ受テ居ル者ガ申告スルニ止ラズ、其利子ヲ拂ツ所ノ者モ申告スルト云フコトニナルデアアル、是ハ當然デアリマス、今日ノ銀行ハ信用ノ塊リデアリマス、其信用ノ塊リデアアル所ノ銀行ガ、自分ガ利子ヲ拂テ置キナガラ、之ヲ申告シナイト云フコトハ考ヘラレヌデアリマス、ソレ程銀行ガ信ズベカラザルモノデアラナラバ、大藏大臣ハ此銀行ヲ相手ニ何故公債ノ募集、借換ノ相談ヲスルコトガ出來マスカ、私ハ銀行コソ信用ノ權化デアルト思ヒマス、ソレデアラウ向且ツ是ガ申告セズ脱稅ヲシテイカスト云フコトヲ仰セラレルノハ、甚ダ實情ニ遠ザカッタ御議論デハナイカト思フノデアリマス、尙ホモウ一點國債ニ付キマシテ、傳統的の政策ナルガ故ニ第二種所得稅ヲ掛テナイト仰セニナッタデアリマス、若シ傳統的の政策ヲ重ンゼラレナラバ、何ガ故ニ資本利子稅ニ於テ、國債利子ニ課稅サレノデアリマスカ、若シ資本利子稅デ國債利子ニ課稅サレト云フナラバ、何ガ故ニ第二種所得稅ニ於テモ之ニ課稅シナイノデアアルカ、是ハドウシテモ徹底シナイノデアリマス、大藏大臣ハ何時キモノ明快ナル御辯論ニ似合ハズ、今日ノ御辯論ハ頗ル明瞭ヲ缺イテ居リマス、之ヲ遺憾トシマス(拍手)ソレカラ田畑地租ニ關シ私ガ不公平ヲ重ネルト言フタコトニ付テ反駁セラレマシ

タ、私ハ簡單ニ其例ヲ以テ申シマス、山口縣ト岡山縣トニ付テ申シマシタガ、山口縣ハ八段ノ所ガ限界デアアル、岡山縣ハ五段ノ所ガ限界デアリマス、其初メ地價ヲ評定スルコトガ公平デナカタメ今日マデ岡山縣ノ農家カラ山口縣ノ農家トノ間ニ於ケル負擔ガ公平デナイ、所ガ今回ハ、山口縣ニ於テハ八段以下ノモノハ免稅サレル、所ガ岡山縣ニ於キマシテハ六段持ッテ居ルモノ、七段持ッテ居ルモノ免稅セラレマセヌ、是ハ不公平デヤナイカ、是ハ最も不公平デアリマス、是ガ不公平デナイト云フナラバ、御辯解ヲ願ヒタイト思ヒマス

○議長(粕谷義三君) 濱口大藏大臣

〔國務大臣濱口雄幸君登壇〕

○國務大臣(濱口雄幸君) 第一ニ所得稅ノコトニ付テ御質問ガアリマシタ、一般所得稅ト云ヒ、所料稅ト云フ、是ハ言葉ノ末デアリマス、サウ云フコトヲ私爭フ必要ハナイト思フ、總テ所得稅ハ理想カラ申シマスレバ、又學問上カラ申シマスレバ、總テ其人ニ綜合致シ——個人ニ綜合ヲ致シテ其源泉ノ何レタルヲ問ハズ、全部綜合課稅ヲスルノガ一番ノ理想デアリマセウ、小川君ハ其御議論デアアルカモ知レマセヌガ、實際ハ左様ニ參リマセヌ、諸般ノ事情ヲ考ヘ、或ハ徵稅上ノ便否如何ト云フコトヲ考ヘ、國民ノ納稅思想ノ發達ノ程度ニ照シ、御承知ノ通り總テニ綜合スルコトガ出來イ結果トシテ、茲ニ第一種ノ所得、第二種ノ所得、第三種ノ所得ト云フモノガ出來テ居ルノデアリマス、併ナガラ此三ツノ種類ノ所得ガ集ツテサウシテ所得稅ト云フ一ツノ組織ヲ成シテ居ル、此組織ノ範圍内ニ於テハ、或一ツノ

所得ニシテ二重ノ課稅ヲ受ケテ居ルモノハアリマセヌ、皆一遍宛シカ受ケテ居ナイノデアリマス、是ニ於テ總テノ所得ハ、免ニ角第一種ニ入ルカ、第二種ニ入ルカ、第三種ニ入ルカ、ソレニ依ッテ一遍宛ハ所得ノ課稅ヲ受ケテ居ル、ソコデ所得稅ノミデア、テ見ルト、所得稅法ニハ自ラ缺點ガアル、其缺點ヲ補完スル爲ニ種々ノ補完稅ト云フモノヲ設ケル、是ガ大體ノ體系デアアルコトハ御承知ノ通りデアリマス、ソレ故ニ公債、社債ノ利子、銀行預金ノ利子ト云フモノガ、第二種ノ所得ニ入ッテ居リマシテモ、是ハ所得稅ト云フ一體ノ組織ノ一部ヲ成シテ居ル、其遺方ニ依ッテ大體ニ於テ總テノ所得ハ先ツ公平ニ負擔ヲシテ居ル、擔稅力ニ比例ヲ致シテ國稅ノ負擔ヲ致シテ居ルト云フコトヲ吾々ハ認メザルヲ得ヌデアリマス、即チ第一種、第二種、第三種ノ此綜合シタル所ノ結合體ガ所得稅ノ組織デアリマス、此所得稅ノ組織ヲ稱シテ單ニ所得稅ト言ハウガ、一般所得稅ト言ハウガ、是コソ學問上ノ名義ノ爭、言葉ノ爭、私ハ斯ノ如キ席ニ於テサウ云フ爭ヲシタクナイ、第二種ヲ綜合スルガ宜シイト云フコトヲ又繰返サレテ申サレマシタガ、是ハ出來マセヌ、ソレハ無記名ノ株式ノ配當ニ於テモ現ニ取レルヤウナ組織ニナッテ居ルト仰セラレマシタガ、無數ノ銀行會社ノ中、無記名ノ株式ヲ發行シテ居ルノハ僅ニ三社カ四社デアリマス、其以外ハ總テ記名式ノ株式デアリマス、三ツ四ツ位ノモノナラバ、之ヲ捉ヘルコトハサウ困難デアアリマセヌクレドモ、公債、社債ノ如キ大多數ガ無記名式ナル場合ニ於テ、ソレヲ捉ヘテ第三種ニ綜合スル

ト云フコトハ、是ハ實際出來ナイ相談デアリマス、是ハ小川君ニ於テモ宜シク御諒解アラシコトヲ希望致シマス、銀行ノ預金利子ニ至ッテハ、成程支拂ヲ受ケタ者カラ申告セシムルト云フゴトハ出來ナイカモ知レマセヌガ、利子ノ支拂ト云フモノハ非常ニ頻繁ニ行ハレルモノデアアル、其都度々々銀行ヲシテ之ヲ申告セシメ、其申告、其支拂タ所ノ銀行ヲシテ申告セシムルノガ宜イデヤナイカト云フ御意見ノヤウデアリマス、併ナガラ銀行ノ預金ノ通りヲ信用致シ、之ニ依ッテ所得稅ヲ課スル、若クハ課セヌト云フコトヲ決定スルト云フコトハ、甚ダ是ハ困難デアリマス(拍手)若シ其申告ノ適否ヲ確メントスルナラバ、稅務官吏ガ銀行ニ至リマシテ、一々預金者ノ帳簿カラ其預金ノ金額、利子ノ支拂期限ト云フモノヲ全部計算シナケレバナラヌト云フコトニナル、サウ云フコトハ決シテスベキモノデナイト思ヒマス、斯ノ如キ事ヲ避クル爲ニ、第二種所得稅ト云フモノヲ別ニ置キマシテ、綜合課稅カラ引離シテ之ニ第二種ノ比例稅ヲ課スル、源泉課稅ヲヤル沿革ハ正ニ其通りデアリマス、之ヲ第三種ニ綜合課稅セントスルコトハ、學問上ハ宜シイデアリマセウ、決シテ異論ハアリマセヌ、實際上ノ問題トシテハ斷ジテ反對シマス(拍手)

○作問耕逸君 只今議題トナレル各案ヲ一括シテ、本日ハ審議ヲ此程度ニ止メ、次ノ本會議ニ向ホ其ノ審議ヲ續行セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕〔贊成〕、呼フ者アリ

○議長(粕谷義三君) 作問君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長（粕谷義三君）異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——御諮リヲ致スコトガアリマス、第一部選出決算委員吉良元夫君、第一部選出請願委員宮崎友太郎君、第二部選出豫算委員小野寅吉君、第二部選出豫算委員岡本實太郎君、第三部選出委員川原茂輔君、第三部選出豫算委員小橋藻三衛君、第四部選出豫算委員渡邊祐策君、第五部選出豫算委員與村千藏君、第五部選出豫算委員富田幸次郎君、第六部選出豫算委員山本悌二郎君、第六部選出決算委員高木正年君、第八部選出決算委員麟苗代君、第九部選出決算委員村山喜一郎君、第九部選出請願委員谷口宇右衛門君、右各常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

○議長（粕谷義三君）異議ナシト認メマス、仍テ許可致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補闕選舉ヲ行ヒ届出アランコトヲ望ミマス、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會

午後七時一分散會

衆議院議事速記録第五號中正誤

頁段行 誤 正

七三三二八 〔安藤正純君登壇〕

八九四三一 ルカ ルコトガ

